

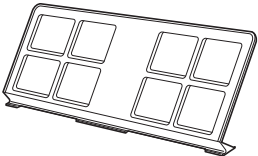
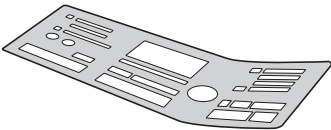
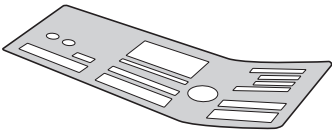
CT-X5000 CT-X3000

JA

取扱説明書（保証書別添） お読みになったあとも保証書とともに大切に保管してください。

安全上のご注意 本機をお使いになる前に、必ず別紙の「安全上のご注意」をお読みください。

付属品一覧

		
譜面立て	和文操作シート（CT-X5000）	和文操作シート（CT-X3000）
		リーフ類 ・ カシオ電子楽器保証書 ・ 安全上のご注意 ・ アフターサービス窓口について ・ Appendix ・ その他
ACアダプター： AD-E24250LW（CT-X5000） AD-A12150LW（CT-X3000）	電源コード	

- ・ 欠品、破損、紛失等の場合は、ご購入された販売店にお問い合わせください。（ACアダプターは別売品で購入可能）
- ・ 付属品のデザインと内容は、予告なく変更されることがあります。

楽譜集について

以下のホームページから、楽譜集をダウンロードしてご利用いただけます。

<http://casio.jp/support/emi/>

別売品のご案内

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
サステインペダル	SP-3
	SP-20
スタンド	CS-4B
	CS-7W

商品名	品番
イス	CB-5
	CB-7
	CB-30

- ・ カシオ電子楽器取扱店で購入可能。
- ・ 店頭のカシオ電子キーボードカタログでより詳しい情報がご覧になれます。

<http://casio.jp/emi/catalogue>

本書の内容について

- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書のイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- 本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従って取扱説明書等に記載の「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店までご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは

取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

あらかじめご了承くださいこと

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。
また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただくことがあります。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内の「修理お申込み先」にご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

■JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

ご使用上の注意

別紙「安全上のご注意」と併せてお読みください。

■設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所（これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります）。

■本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

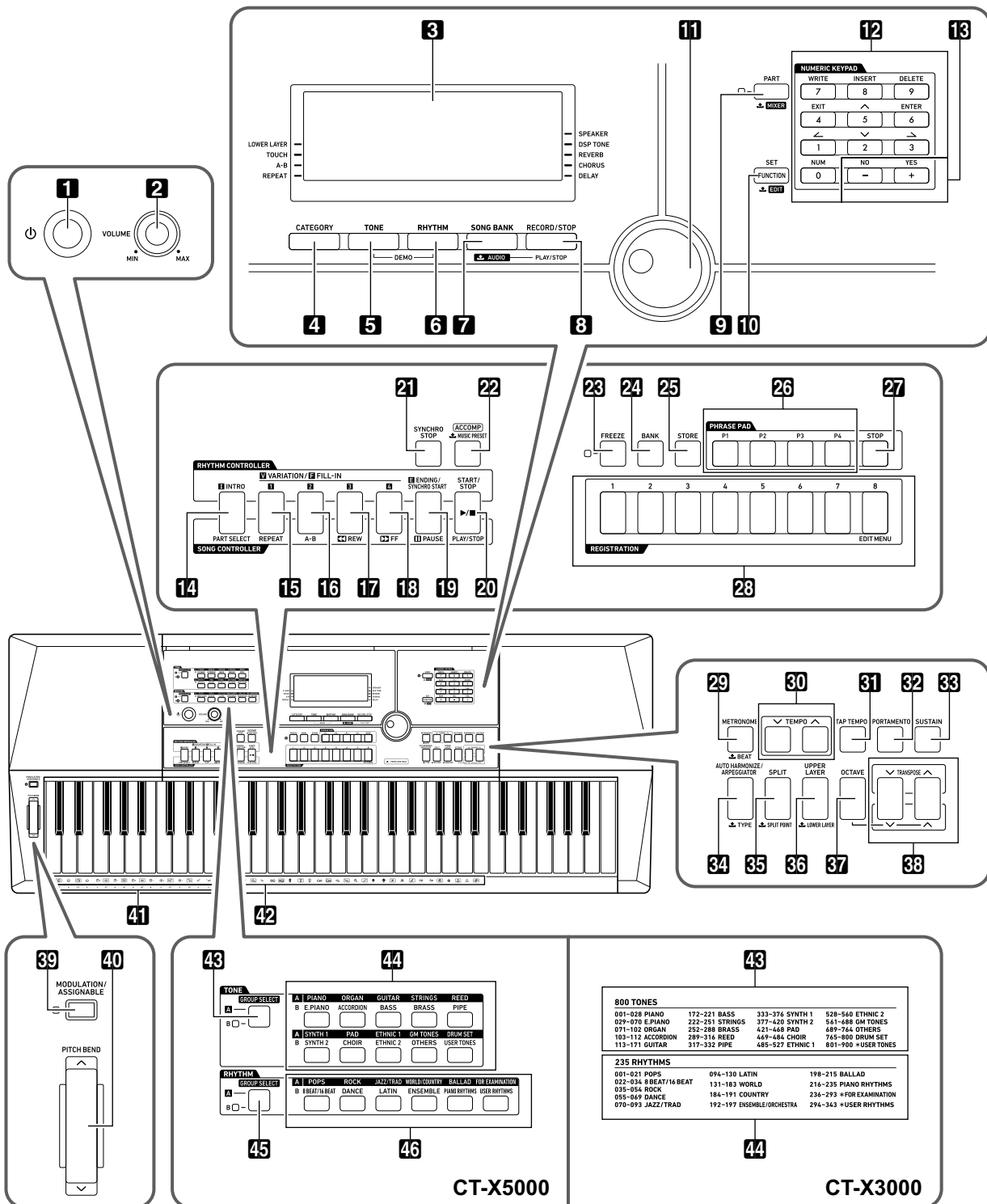
全体ガイド	4
譜面立て、和文操作シートの準備	7
工場出荷時の状態に戻す(リセット)	7
電源の準備	8
AC アダプターを使う	8
乾電池を使う(CT-X3000 のみ)	9
電源を入れる、電源を切る	9
液晶表示部のコントラストを調整する	10
オーディオ機器との接続	11
本機の音声出力について	11
ヘッドホンを接続する	11
本機の音を外部機器で鳴らす	11
外部機器の音を本機で鳴らす	12
マイクを接続する(CT-X5000 のみ)	12
共通の操作	13
操作説明の前提について	13
数値の入力について	13
12 数字ボタンの別機能について	13
4 カテゴリーボタンについて	13
文字の入力について	14
FUNCTION インジケーターについて	15
デモ演奏を聴く	16
鍵盤で演奏する	16
音色を選ぶ	16
2 つ以上の音色を同時に鳴らす (スプリット、レイヤー)	17
音色にかけるエフェクトを選ぶ (リバーブ、コーラス、ディレイ)	20
音質を補正する(イコライザー)	23
メトロノームを使う	24
アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす (アルペジエーター)	25
押鍵の強さに対する音量の強弱を調節する (タッチレスポンス)	25
音をコントロールする	26
ペダルを使う	26
音を伸ばす(サステイン)	28
音高を滑らかに変化させる(ポルタメント)	28
ピッチベンドホイールで音の高さを変える	29
99 モジュレーション/アサイナブルボタンを 使う(CT-X5000 のみ)	29
音高を半音単位で変える(トランスポーズ)	31
パートごとの音高をオクターブ単位で変える (オクターブシフト)	31
鍵盤全体とパート別の音高を微調整する	32
音律(スケール)を選ぶ	33

内蔵曲や USB メモリーの曲を再生する (ソングバンクモード)	34
内蔵のソングを選んで再生する	34
曲の小節間を繰り返し再生する(A-B リピート)	35
片手パートの音を消して再生する	36
USB メモリーのソングを再生する	37
USB メモリーのオーディオファイルを再生する (オーディオモード)	38
自動伴奏をバックに演奏する(リズムモード)	39
リズムを選ぶ	39
自動伴奏を鳴らす	39
テンポ(速さ)を変える	40
自動伴奏で曲を組み立てる(伴奏パターン)	41
コード入力鍵盤で自動伴奏を開始、終了する (シンクロスタート、シンクロストップ)	42
コード入力鍵盤の設定を変更する	43
スプリットの詳細設定	44
お勤めの音色やテンポにする (ワンタッチプリセット)	45
メロディーの音に和音をつける (オートハーモナイズ)	46
ミュージックプリセットを使う	47
フレーズパッドを使う	48
フレーズセットを切り替える	48
フレーズの再生を開始/停止する	48
フレーズの再生設定を変更する	49
フレーズを録音する	50
フレーズの録音設定を変更する	51
フレーズセットを管理する	51
フレーズを編集する	52
特定パートの音を消す(パートモード)	54
パートのオン/オフを切り替える	54
パートオン/オフ機能のパートグループについて	54
ミキサーを使う	55
ミキサーの操作	55
ミキサーのパートグループ別パート一覧	56
ミキサー設定詳細	57
セットアップを登録し再現する (レジストレーション)	58
セットアップを登録する	58
登録したセットアップを呼び出す	59
ペダルを使って複数のセットアップを順番に 呼び出す(レジストレーションシーケンス)	60
音色を編集する(ユーザー音色)	61
ユーザー音色を作る	61
音色編集項目一覧	64
自動伴奏を作成する(ユーザーリズム)	66
ユーザーリズムを作成、編集する	67
ユーザーリズムのパート再生設定	74
リズム全体に対する操作	76

MIDI レコーダーを使って録音する	78
録音の始め方について	79
演奏を録音する	80
録音済みトラックの一部を録音し直す (オーバーダビング録音／パンチイン録音)	83
録音したソングを再生する	84
録音したソングをコピーする／録音した ソングやトラックを消去する	85
ソングエディットモードについて	85
録音したソング全体を小節単位で編集する (ソングエディット)	86
録音したソングをトラック単位で編集する	87
録音したソングのトラックを小節単位で編集する	88
録音したソングをイベント単位で編集する (イベントエディット)	90
音符やコードを1つずつ入力する(ステップ入力)	93
録音したソングのミキサー設定	95
機能設定を変更する	96
エグザミネーションモードについて	102
本機に記録されているデータをまとめて消去する	102
USB メモリーを使用する	103
USB メモリーを本機に装着する、 USB メモリーを本機から取り外す	103
USB メモリーをフォーマットする	103
USB メモリーの各種操作	104
一般の曲データをパソコンで USB メモリーに コピーする	106
パソコンとの接続について	106
パソコンとつなぐ	106
各種 MIDI 設定	107
本機とパソコンの間でデータを転送する	107
資料	108
困ったときは	108
エラー表示一覧	110
製品仕様	111
DSP エフェクター一覧	113
本機の音源構成と MIDI チャンネル割り当て	123
ソングリスト	124
指定できるコード種一覧	124
コード例一覧	126
ブロックダイアグラム	127
MIDI インプリメンテーション・チャート	

全体ガイド

- 本書に記載されているイラストは、CT-X5000です。



- 製品のボタン名には、 というマークが付いているものがあります。マーク付きのボタン名は、そのボタンを長押ししたときの動作を表しています。

• 本書では、ボタンやつまみの操作を、これらの番号と名前で説明します。

マークの数字は参照ページです。

- 1 電源ボタン 49
- 2 音量つまみ 49
- 3 液晶表示部 7
- 4 カテゴリーボタン 13
- 5 トーンボタン 16
- 6 リズムボタン 39
- 7 ソングバンクボタン、オーディオボタン 34, 38
- 8 録音/停止 50, 70, 79、
オーディオ再生/停止ボタン 38
- 9 パート、ミキサーボタン 54, 55
- 10 機能 96、セット、
エディットボタン 52, 61, 67, 85
- 11 ダイアル 13
- 12 数字ボタン 13
- 13 [-]、[+] ボタン 13
- 14 イントロ 42、パートセレクトボタン 37
- 15 バリエーション/フィルイン1 39, 41、
リピートボタン 35
- 16 バリエーション/フィルイン2 39, 41、
A-Bボタン 35
- 17 バリエーション/フィルイン3 39, 41、
早戻しボタン 35, 83
- 18 バリエーション/フィルイン4 39, 41、
早送りボタン 35, 83
- 19 エンディング/シンクロスタート 42、
一時停止ボタン 35, 83
- 20 スタート/ストップ 39、
再生/停止ボタン 35
- 21 シンクロストップボタン 42
- 22 [ACCOMP] 伴奏 39、
ミュージックプリセットボタン 47
- 23 フリーズボタン 59
- 24 バンクボタン 59
- 25 ストアボタン 59
- 26 フレーズパッドボタン 48
- 27 ストップボタン 48
- 28 レジストレーションボタン 59
- 29 メトロノーム、拍子ボタン 24
- 30 テンポボタン 41
- 31 タップテンポボタン 41
- 32 ポルタメントボタン 28
- 33 サステインボタン 28
- 34 オートハーモナイズ/アルペジエーター、
タイプボタン 25, 46
- 35 スプリット、スプリットポイントボタン 18, 45
- 36 アッパーレイヤー、ローワーレイヤー
ボタン 19
- 37 オクターブボタン 31
- 38 トランスポーズボタン 31
- 39 モジュレーション/アサイナブルボタン
(CT-X5000のみ) 29
- 40 ピッチベンドホイール 29
- 41 コードルート音名 43
- 42 打楽器イラスト 16

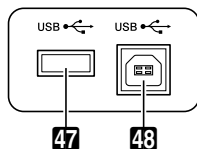
CT-X5000

- 43 トーングループセレクトボタン 17
- 44 トーンカテゴリーボタン 17
- 45 リズムグループセレクトボタン 39
- 46 リズムカテゴリーボタン 39

CT-X3000

- 43 トーンリスト
- 44 リズムリスト

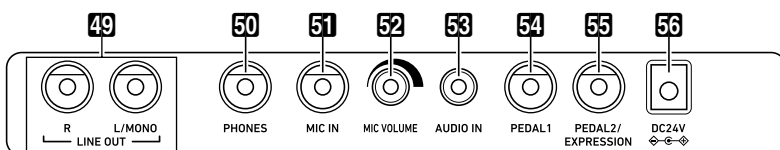
■ 背面部



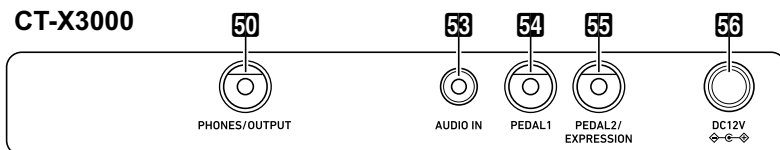
47 USBメモリー端子 103

48 USB端子 106

CT-X5000



CT-X3000



49 ラインアウト LINE OUT R, L/MONO端子 (CT-X5000のみ) 12

50 ヘッドホン PHONES端子 (CT-X5000)、
ヘッドホン / アウトプット PHONES/OUTPUT端子※ (CT-X3000) 11

51 マイクイン MIC IN端子 (CT-X5000のみ) 12

52 マイク音量つまみ (CT-X5000のみ) 12

53 オーディオ入力 AUDIO IN端子 12

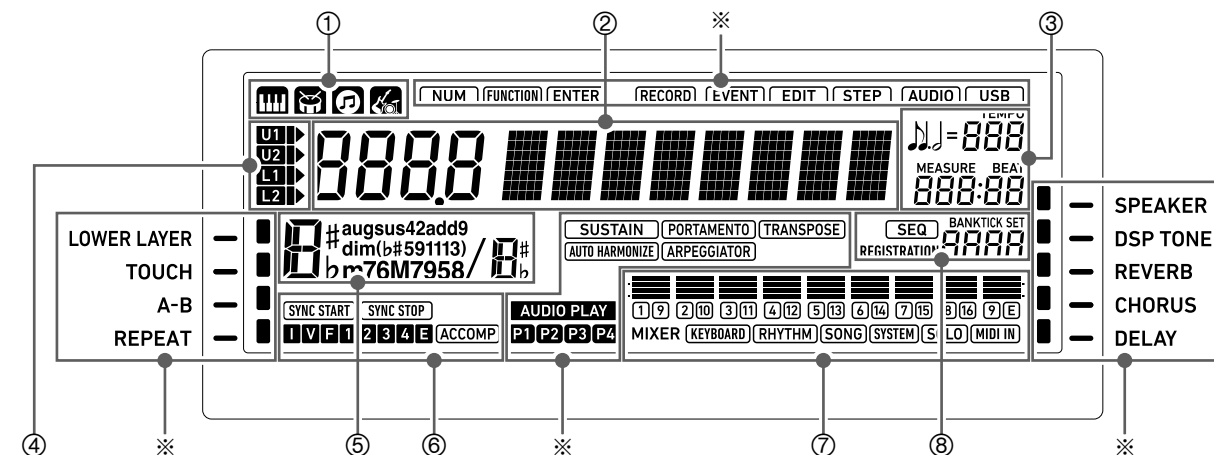
54 ペダル1 PEDAL1端子 26

55 ペダル2 / エクスプレッション PEDAL2/EXPRESSION端子 26

56 電源端子
(CT-X5000 : DC24V, CT-X3000 : DC12V) 8

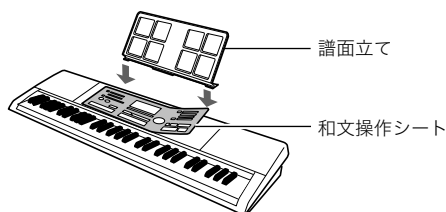
※本書中では「PHONES端子」と呼びます。

■液晶表示部



- ① トーンインジケーター
 リズムインジケーター
 ソングバンクインジケーター
 ミュージックプリセットインジケーター
- ② 番号または設定値表示部(左側)、名称表示部(右側)
 ③ テンポ、小節、拍表示部
 ④ 鍵盤パートインジケーター
 ⑤ コード名表示部
 ⑥ 自動伴奏インジケーター
 ⑦ ミキサー情報表示エリア
 ⑧ レジストレーション関連、およびイベントエディット関連表示部
 ※ その他各種インジケーター

譜面立て、和文操作シートの準備



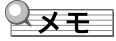
工場出荷時の状態に戻す(リセット)

各種の設定だけを工場出荷時の状態に戻す「セッティングリセット」と、設定だけでなく本機に記録したユーザーデータをすべて消去し、本機を完全に工場出荷時の状態に戻す「ファクトリーリセット」の2通りの操作があります。

詳細は、102ページ「本機に記録されているデータをまとめて消去する」をご参照ください。

電源の準備

本機は電源としてACアダプターを使用します。



- CT-X3000は電源として乾電池もご使用いただけますが、基本的にはACアダプターのご使用をお勧めします。

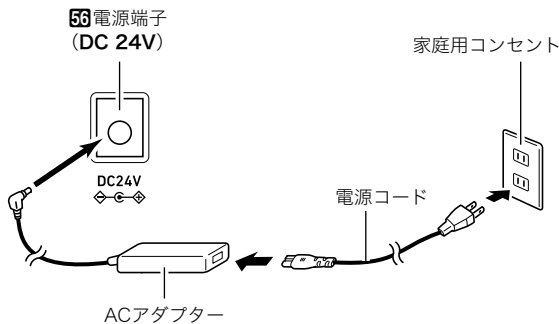
ACアダプターを使う

本機指定のACアダプター(JEITA規格・極性統一形プラグ付き)を使用してください。他のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

CT-X5000にACアダプターを接続する

ACアダプターの型式: AD-E24250LW
(JEITA Standard plug)

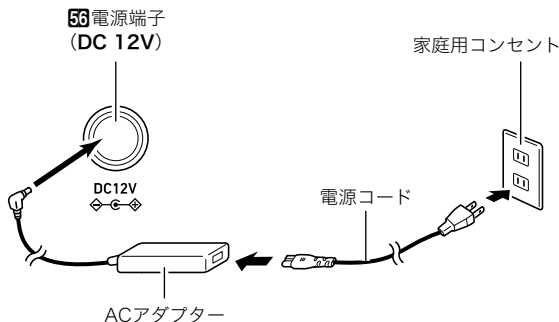
ACアダプターの接続には、下図のように付属の電源コードをご使用ください。



CT-X3000にACアダプターを接続する

ACアダプターの型式: AD-A12150LW
(JEITA Standard plug)

ACアダプターの接続には、下図のように付属の電源コードをご使用ください。

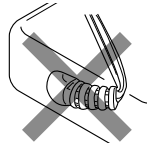


重要

- 本機付属のACアダプター(JEITA規格・極性統一形プラグ付き)は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ACアダプターを差したり抜いたりする前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 長時間ご使用になりますとACアダプターが若干熱をもちますが、故障ではありません。
- コード部の断線防止のため、下記の点にご注意ください。

<使用時>

- コードを強く引っ張らない
- コードを繰り返し引っ張らない
- コードの根元部分を折り曲げない

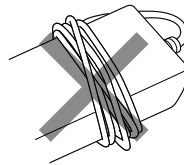


<移動時>

- 本体を移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから外す

<保管時>

- コードは図のようにACアダプター本体に巻き付けず、束ねてまとめる



- 本機の電源端子(CT-X5000:DC24V、CT-X3000:DC12V)に、金属片や鉛筆などを入れないようにご注意ください。これらが端子に入ると、事故の原因になります。
- 付属の電源コードは、本製品以外の電気機器には使用しないでください。
- ACアダプターは、ラベル貼り付け面が下向きになるように床に置いてご使用ください。逆向きに置くと電磁波が発生しやすくなる場合があります。
- ACアダプターは、使用する機器の近くにあるコンセントに差し込んで使用してください。不具合が生じた時には、コンセントから直に取り外せるようにしてください。
- ACアダプターは、屋内専用です。水滴のかかる場所には置かないでください。また、水の入った花瓶などをACアダプターの上にのせないでください。
- ACアダプターを、新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどで覆わないようにしてください。
- 本機を長い間使用しない時には、ACアダプターをコンセントから外してください。
- ACアダプターは、修理することができません。破損・故障時は、新品をお買い求めください。
- ACアダプターの使用環境: 温度0~40℃
湿度10%~90%RH
- 出力形式: ◇—C—◇

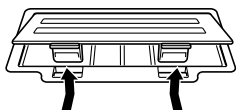
乾電池を使う(CT-X3000のみ)

単1形乾電池、6本をご使用ください。

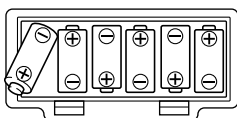
重要

- 乾電池を入れる前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 乾電池は市販の乾電池をご使用ください(オキシライド乾電池などのニッケル系一次電池は使用しないでください)。

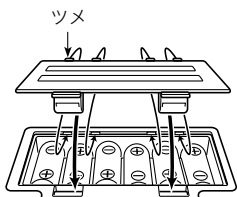
1. 本機の裏側にある電池ブタを外します。



2. 市販の単1形乾電池、6本を電池ケースに入れます。
イラストに合わせて⊕⊖の向きを間違えないように入れてください。

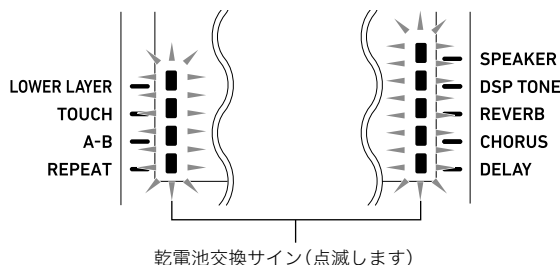


3. 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。



■乾電池交換時期のお知らせ表示

乾電池が消耗してくると下記の表示が点滅しますので、新しい乾電池と交換してください。



電源を入れる、電源を切る

1. 電源を確保します。

- ・8ページ「ACアダプターを使う」、または9ページ「乾電池を使う(CT-X3000のみ)」をご参照ください。

2. **1** (電源) を押して、本機の電源を入れます。

- ・**2** 音量つまみを使って、音量を調節します。

3. 本機の電源を切るには、**1** (電源) を長押しします。

液晶表示部に“Bye”と表示された後、電源が切れます。

重要

- ・**1** (電源) を軽く押すと、液晶表示部が一瞬点灯し、電源が入らない場合がありますが故障ではありません。その場合は**1** (電源) をしっかりと押し直してください。
- ・本機の電源を切ると、音色やリズム番号などの各種設定が初期化されます。10ページ「オートレジューム機能」をオンにしておくと、電源を切ってもほとんどの設定が保持されます。
- ・液晶表示部に“Wait...”または“Bye”が表示されているときは、本機の操作を一切行わないでお待ちください。“Wait...”または“Bye”の表示中は、本機内部でデータの保存処理を行っています。このとき本機の電源が落ちると、本機に記録しているデータが破損・消失する恐れがあります。

メモ

- ・**1** (電源) で電源を切った後も、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

オートパワーオフ機能

本機を使用中に30分間何も操作しないと、自動的に電源が切れます。

メモ

- ・オートパワーオフ機能はキャンセルすることができます。96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、101ページ「その他」(Other)→「オートパワーオフ」(AutoOff)をオフに切り替えてください。

オートレジューム機能

オートレジューム機能をオンにしておくと、電源を切っても、下記項目が保持されます(本機への電源供給が確保されており、**1** **⏻** (電源) を押すかオートパワーオフによって本機の電源が正常に切れた場合)。

● 下記の設定状態

音色 (UPPER 1、LOWER 1、UPPER 2、LOWER 2)、リズム、ソング番号、ミュージックプリセット番号、テンポ、トランスポーズ、オクターブシフト、ACCOMPインジケータの点灯／消灯状態

● 下記機能のオン／オフ状態

スプリット、レイヤー、ポルタメント、サステイン、オートハーモナイズまたはアルペジエーター、モジュレーション／アサインابل (CT-X5000のみ)^{※1}、パートモード

● 機能設定^{※2} (96ページ) による設定状態

● ミキサー機能 (55ページ) による設定状態

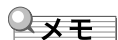
● CT-X5000のみ: 音色とリズムのカテゴリー選択状態、音色／リズムの各カテゴリーで最後に選択した音色／リズム

※1 98ページ「モジュレーション／アサインابل」(Mod/Asgn)→「ボタンの動作」(Btn Act)が“2 Toggle”の場合。

※2 リバース、コーラス、ディレイなどエフェクト設定も、機能設定の中に含まれています。

次回電源を入れたときは、上記の各項目が、前回本機の電源を切った時点の状態に復帰します。

96ページ「**10** 機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、101ページ「その他」(Other)→「オートレジューム」(AtResume)をオンに切り替えてください。



- オートレジューム機能のオン／オフに関わらず、機能設定 (96ページ) に含まれる下記項目の設定状態は、電源を切っても保持されます(本機への電源供給が確保されており、**1** **⏻** (電源) を押すかオートパワーオフによって本機の電源が正常に切れた場合)。
イコライザー、チューニング、レジストレーションメモリーフリーズターゲット、ペダル2のタイプ、エクスプレッションペダルのキャリブレーション、タップリズムスタート、エグザミネーションモード、液晶表示部のコントラスト
- オートレジューム機能で状態が復帰しない項目は、下記のとおりです。
音価表示設定、フレーズ録音設定、シンク口待機状態、オーディオモードでのファイル選択状態および再生状態、ローカルコントロール

液晶表示部のコントラストを調整する

1. **10** 機能を押します。
2. **12** 数字ボタンの[1] (**⏻**) を押して、“Other”を表示します。

Other

3. **12** 数字ボタンの[6] (エンター) を押します。
4. **12** 数字ボタンの[1] (**⏻**) または[3] (**⏻**) を使って“Contrast”を表示します。

現在の設定値

09 Contrast

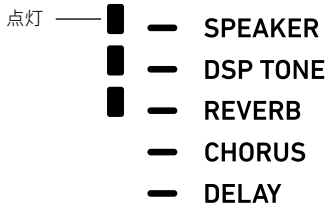
5. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、設定値を変更します。
6. **12** 数字ボタンの[4] (戻る) を長押しして、設定を終了します。

オーディオ機器との接続

本機の音声出力について

本機は内蔵のスピーカーやPHONES端子(およびCT-X5000のみLINE OUT端子)から音声出力します。

- 本機のスピーカーから音が出る状態のときは、スピーカーインジケーターが点灯します。



- 本機のスピーカーから音が出ない状態のときは、スピーカーインジケーターは消灯します。
下記の場合、本機のスピーカーからは音が出ません。
 - PHONES端子にプラグが差し込まれているとき※。
 - 100ページ「スピーカー」(Speaker)→「スピーカーオンオフ」(Enabled)の設定がオフのとき。
 - 本機のスピーカーから音が出ていないときは、ヘッドホン(または、CT-X5000ではLINE OUT端子)からの出力に適した音質に、スピーカーから音が出ているときは、スピーカーからの出力に適した音質に、自動的に切り替わります。
- ※100ページ「スピーカー」(Speaker)→「PHONES端子接続時オン」(PhoneSpk)の設定がオフの場合。

重要

- スピーカーインジケーターが点灯しているのに音が出ない場合は、**2**音量つまみや、音量に関する本機の各種設定をご確認ください。

スピーカーのオン/オフを切り替えるには

96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「スピーカー」(Speaker)→「スピーカーオンオフ」(Enabled)の設定を切り替えてください。

ヘッドホン接続中でもスピーカーから音を出すには

96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「スピーカー」(Speaker)→「PHONES端子接続時オン」(PhoneSpk)をオンに切り替えてください。PHONES端子にプラグが差し込まれていても、スピーカーから音が出るように設定されます。

ヘッドホンを接続する

ヘッドホンを使用すると内蔵スピーカーから音が出なくなり、夜間でも周囲に気兼ねなく演奏が楽しめます※。

※100ページ「スピーカー」(Speaker)→「PHONES端子接続時オン」(PhoneSpk)の設定がオフの場合。



重要

- 接続の際は、本機の**2**音量つまみを絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。
- 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害になる恐れがあります。
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。

メモ

- ヘッドホンは本製品に付属されておりません。別売または市販のヘッドホンがご使用になれます。

本機の音を外部機器で鳴らす

オーディオ機器や楽器用アンプと接続すれば、それらの機器のスピーカーの能力に応じた、より迫力のある音量や音質で、演奏を楽しめます。

重要

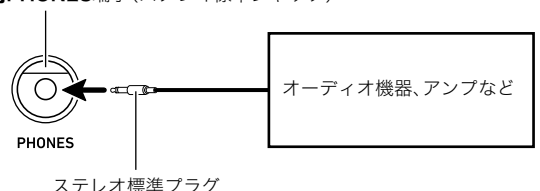
- 接続するときはすべての外部機器の電源を切ってください。また、電源のオンオフ操作のときは本機と外部機器の音量設定を小さめに絞っておいてください。
- 接続した後は本機、外部機器の順番で電源を入れてください。
- 外部機器で鳴らした本機の音が歪んだ音で聴こえる場合は、本機の音量を下げてください。

本機のPHONES端子に外部機器を接続するには

接続には市販の接続コードが使用できます。

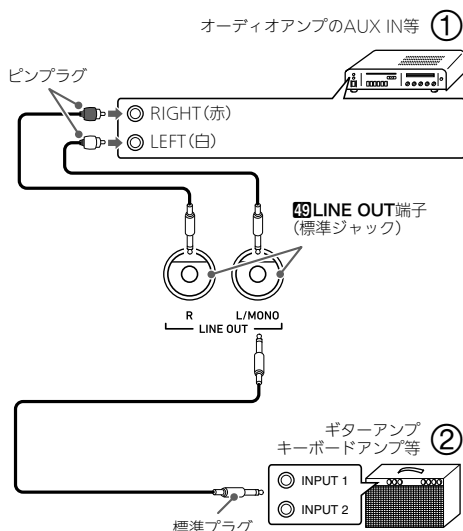
- 片側がステレオ標準プラグ、もう一方は外部機器の入力端子に接続できるものをご用意ください。

50PHONES端子(ステレオ標準ジャック)



本機のLINE OUT端子に外部機器を接続するには(CT-X5000のみ)

接続には市販の接続コードが使用できます。



■オーディオ機器と接続する場合(図①)

LINE OUT R(Right)が右チャンネル、LINE OUT L/MONO (Left)が左チャンネルの音です。市販の接続コードで図①のように、両方とも接続してください。通常はオーディオ機器のインプットセクターを、接続した端子(AUX IN等)に切り替えます。

■楽器用アンプと接続する場合(図②)

LINE OUT L/MONOだけに接続すれば、両方のチャンネルの混ざった音になります。市販の接続コードで図②のように接続してください。

外部機器の音を本機で鳴らす

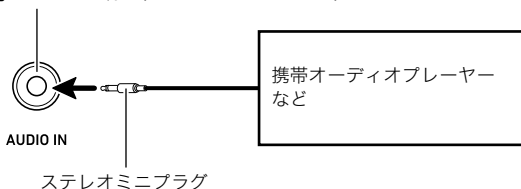
接続には市販の接続コードが使用できます。

- 片側がステレオミニプラグ、もう一方は外部機器の出力端子に接続できるものをご用意ください。

❗重要

- 接続するときは本機の電源を切ってください。また、電源のオンオフ操作のときは本機と外部機器の音量設定を小さめに絞っておいてください。
- 接続した後は外部機器、本機の順番で電源を入れてください。
- 本機で鳴らした外部機器の音が歪んだ音で聴こえる場合は、外部機器の音量を下げてください。

58 AUDIO IN端子(ステレオミニジャック)



センターキャンセル(ボーカルカット)

オンにすると、オーディオ入力端子から入力された音のボーカルをカット(消去、低減)します。センター定位の音をキャンセルする機能ですので、ボーカル以外の音もカットされる場合があります。効果の度合いは、入力する音によって異なります。

96ページ「10機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、101ページ「その他」(Other)→「オーディオインのセンターキャンセル(ボーカルカット)」(Aln CCan)の設定を変更してください。

メモ

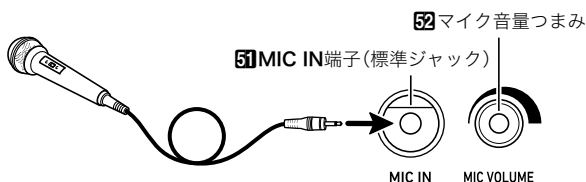
- AUDIO IN端子からの入力音には、本機内蔵のエフェクト(リバーブ、コーラス、ディレイ、DSP)はかかりません。

マイクを接続する(CT-X5000のみ)

市販のマイク※をMIC IN端子に接続すると、マイクから入力した音声の本機のスピーカーから鳴らすことができます。

※ダイナミックマイクをご使用ください。

マイクからの入力音声の音量は52マイク音量つまみを使って、キーボード全体の音量とは独立して調節することができます。



❗重要

- 接続する前に、本機とマイクの電源を切ってください。
- 接続する前に、本機の2音量つまみと52マイク音量つまみの両方を絞っておき、マイクを接続後、適切な音量に調節してください。
- デモ演奏中は、マイクを使用できません。

マイク関連の設定について

ミキサー機能を使うと、マイクからの入力音声にかけるリバーブ、コーラス、ディレイの各エフェクト量を独立して調節することが可能です。

55ページ「ミキサーを使う」をご参照ください。

共通の操作

操作説明の前提について

本書中の操作手順は、特に断りがなければ、本機の電源を入れた直後の状態から操作を開始することが前提となっています。操作がうまくいかないと感じたときは、いったん本機の電源を切り、電源を入れ直すことをお勧めします。

❗ 重要

- 何らかの操作の途中で本機の電源を切ると、未保存のデータは消失します。

数値の入力について

数値入力可能な場合は、NUMインジケーターが点灯します。



本機で鳴らす音色番号の指定や設定値の変更など、数値を入力するには、下記のように操作します。

■ 12 数字ボタンを使う

番号や数値の全桁を入力します。入力が必要な桁数は、何を入力するかによって異なります。例えば015という音色番号(3桁の入力が必要)は、“0”→“1”→“5”と入力します。この場合、“5”を入力するまでは入力途中の数字が点滅し、最後まで入力し終わると数値が確定して、“015”が点灯します。

- 何を入力するかによって、入力できる数値の範囲は決まっています。その範囲を超える値を入力すると、入力可能な範囲でもっとも近い数値が入力されます。
- 全桁を入力せずに数値を確定するには、**10機能**を押します。例えば音色番号(3桁)を入力する場合、“1”→“0”→**10機能**の順に押すと、音色番号010が指定されます。
- 入力が確定する前は、**12数字ボタン**の[4] (戻る) を長押しすることで、入力をキャンセルできます。

■ 13 [-]、[+] ボタンを使う

- [-] を押すと表示中の番号や数値が1減り、[+] を押すと1増えます。ボタンを押したままにすると、連続的に増減します。また、両方のボタンを同時に押すと初期値、またはお勧めの数値になります。
- 負の値を設定できる項目の場合、入力中で数値が点滅している間に[-] を押すと、数値の先頭に「-」が追加され、負の値になります。数値が点滅している間に[+] を押すと、再び正の値になります。

■ 11 ダイヤルを使う

ダイヤルを回すと、表示中の番号や数値が連続的に増減します。

12 数字ボタンの別機能について

NUMインジケーターの消灯中は、**12数字ボタン**には下表の機能が割り当てられます。一部の機能は、特定の状態のときに利用可能となります。

ボタン	主な別機能
[0] (数値入力)	数値を入力するタイプの設定項目の表示中に、数値入力可能な状態 (NUMインジケーター点灯状態) に切り替えます。
[1] (∟) [3] (∟)	設定項目メニューの表示中に、項目を切り替えます。また一部の機能では、設定対象のパートを切り替えるのに使います。
[2] (∨) [5] (∧)	ミキサーモード (55ページ) やMIDIレコーダーのイベントエディット (90ページ) の操作で、設定項目を切り替えるのに使います。
[4] (戻る)	特定の機能を利用しているときに、その機能から抜けます。
[6] (エンター)	表示中のメニュー項目を実行します (結果としてサブメニューに入るか、何らかの操作が実行されます)。
[7] (記録)	ユーザー音色 (61ページ) やユーザーリズム (66ページ) を保存するのに使います。
[8] (挿入) [9] (削除)	文字入力 (14ページ) の際に、文字の挿入、削除に使います。 また、[9] (削除) は、MIDIレコーダーのイベントエディット (90ページ) の操作でも使います。

4 カテゴリーボタンについて

多数の音色から1つを手早く選ぶために、音色は20個のカテゴリーに分けられています。**4カテゴリーボタン**を使うと、各カテゴリーで前回最後に選んだ音色 (本機の初期設定では各カテゴリーの先頭の音色) に切り替えることができます。

- 下記の操作例では、**4カテゴリーボタン**を使って音色を切り替えます。リズム、ソング、ミュージックプリセットも音色のようにカテゴリー分けされているので、同様の操作が可能です。

音色のカテゴリーを切り替えるには

- 5 トーン**を押します。
液晶表示部に  (トーンインジケーター) が点灯します。点灯中は、音色を選ぶことができます。
- 4 カテゴリー**を押します。
数秒の間、先頭に“C”付きで現在のカテゴリー番号、およびカテゴリー名の表示に切り替わります。

カテゴリー番号 カテゴリー名

C 01 Piano

 - 数秒後、表示が音色番号と音色名に切り替わり、 が点滅を始めます。 の点滅中は、カテゴリー内の音色だけが選べます(手順4参照)。- 次のカテゴリーに切り替えるには、“C”が表示されている間に **4 カテゴリー**を押します。
次のカテゴリー番号とカテゴリー名が表示されます。
 - 切り替え先のカテゴリー内で、前回最後に選んだ音色(初期設定ではカテゴリー先頭の音色)が選択されます。
 - 4 カテゴリー**の代わりに **13 [-]** または **[+]** を押すと、前後のカテゴリーに切り替わります。
 - 13 [-]** と **[+]** を同時に押すと、カテゴリー番号1番に移動し、カテゴリー内で前回最後に選んだ音色が選択されます。
- 表示中のカテゴリー内だけで音色を選びたいときは、 が点滅し始めるのを待つか、**10 機能**を押して  を点滅させます。
 -  の点滅中は、**13 [-]** または **[+]** を押すか **11 ダイヤル** を回すと、現在選択されているカテゴリー内だけで音色が切り替わります。
 - 別カテゴリーの音色を選びたい場合は、**5 トーン**を押して  を点灯させます。

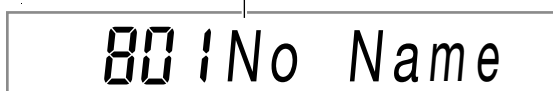
各カテゴリーの先頭音色にジャンプするには

- 5 トーン**を押します。
- 音色名が表示されている間に、**4 カテゴリー**ボタンを押したまま **13 [-]**、または **[+]** を押します。
表示していた音色が属するカテゴリーの1つ前、または1つ後のカテゴリーにジャンプし、そのカテゴリー内先頭の音色が表示されます。

文字の入力について

ユーザーデータの名前を変更するときなどは、下記の操作で文字を入力します。

カーソル(点滅)



文字を挿入するには

- 12** 数字ボタンの **[1]** () または **[3]** () を使って、文字を挿入したい位置にカーソルを移動します。
- 12** 数字ボタンの **[8]** (挿入) を押します。
 - カーソル位置に“A”が挿入されます。

文字を変更するには

- 12** 数字ボタンの **[1]** () または **[3]** () を使って、変更したい文字にカーソルを移動します。
- 13 [-]** または **[+]** を使って、文字を変更します。
 - 手順1、2の操作を必要なだけ繰り返します。
 - USBメモリーにファイルを保存する際に入力が可能な文字は、下表のとおりです。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z	\$	&	_	'
(	)	-	^	{	}	@	~	`	

- “~”は、本機の液晶表示部には“→”と表示されます。
- 本機のメモリーにデータを保存する際に入力が可能な文字は、下表のとおりです。

!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*
+			-	.	/	0	1	2	3
4	5	6	7	8	9	:	;	<	=
>	?	@	A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[
]	^	_	`	a	b	c	d	e	
f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
p	q	r	s	t	u	v	w	x	y
z	{		}						

文字を削除するには

1. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って、削除したい文字にカーソルを移動します。
2. **12**数字ボタンの[9](削除)を押します。

FUNCTIONインジケータについて

本機の機能設定(96ページ)や、その他一部の特殊な設定操作中は、FUNCTIONインジケータが点灯、または点滅します。点灯中、点滅中に液晶表示部に表示される文字には、下記の意味があります。

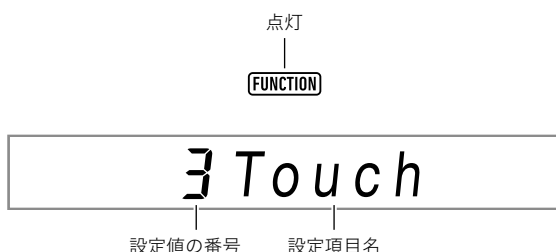
点灯中	設定項目名が表示されています※。
点滅中	点灯中に表示されていた設定項目の設定値が表示されています。

※機能設定に含まれる設定項目名の表示中のみ

下記の操作例をお試しください。

例:タッチレスポンスの設定を変更するには

1. **10**機能を押しします。
2. **12**数字ボタンの[3]()を数回押して、“Touch”(タッチレスポンス)を表示します。
“Touch”は設定項目名なので、FUNCTIONインジケータは点灯しています。



3. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、タッチレスポンスの設定値を変更します。

この操作で、表示は“Off”、“Light”、“Normal”、“Heavy”と切り替わります。これらはタッチレスポンスの設定値なので、FUNCTIONインジケータは点滅に変わります。



4. 設定項目名の表示に戻すには、**10**機能を押しします。FUNCTIONインジケータが点灯します。
5. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。
FUNCTIONインジケータが消灯します。

デモ演奏を聴く

1. **5** トーンと **6** リズム同時に押します。
 (ソングバンクインジケーター) が点滅し、デモ専用曲 (全3曲) の再生が開始されます。
 - デモ演奏中は、**13** [-] または [+] を使って前後の曲を頭出しできます。
 - デモ演奏は下記手順2を行うまで繰り返されます。
2. デモ演奏を終了するには、**20** 再生/停止を押すか、**5** トーンと **6** リズム同時に押します。
 (ソングバンクインジケーター) が消灯します。

メモ

- デモ演奏中でも、オートパワーオフ機能が有効になっている場合は、何も操作しないと約30分で電源が切れます。オートパワーオフ機能はキャンセルすることができます。96ページ「**10** 機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、101ページ「その他」(Other) → 「オートパワーオフ」(AutoOff) をオフに切り替えてください。

鍵盤で演奏する

音色を選ぶ

本機には、数多くの音色が用意されています。音色を選んで弾いてみましょう。

音色を選ぶには

1. **5** トーンを押します。
液晶表示部に  (トーンインジケーター) が点灯します。点灯中は、音色を選ぶことができます。



2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、鍵盤で演奏したい音色の番号を選びます。
 - 番号を選ぶ操作については、13ページ「数値の入力について」をご参照ください。
 - 音色は複数のカテゴリーに分かれています。音色のカテゴリーを、例えばピアノ系の音色からオルガン系の音色へ、手早く切り替える操作が可能です。詳細は、13ページ「**4** カテゴリーボタンについて」をご参照ください。
 - 音色のカテゴリーと種類の詳細は、別冊「Appendix」をご参照ください。

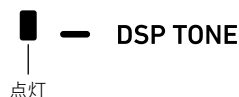
3. 鍵盤を弾いて、選んだ音色を確認しましょう。

メモ

- ドラムセットのカテゴリーに属する音色が選ばれている場合、鍵盤ごとにさまざまな打楽器が鳴ります。

■DSPトーンについて

本機には特殊なエフェクトがかかった音色 (DSPトーン) があります。DSPトーンを選んだ場合、液晶表示部右端のDSPトーンインジケーターが点灯します。

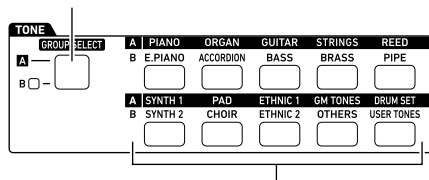


44 トーンカテゴリーボタンで音色のカテゴリーを選ぶには(CT-X5000のみ)

メモ

- 44 トーンカテゴリーボタンを使うと、カテゴリー間で手早く音色を切り替えることができます。

43 トーングループセレクトボタン



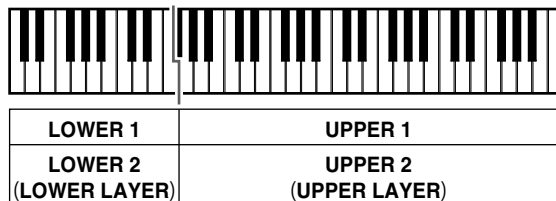
44 トーンカテゴリーボタン

音色のカテゴリーは、グループAとグループBに分かれています。43 トーングループセレクト左側のランプが点灯しているか、消灯しているかで、44 トーンカテゴリーを押したときにどちらのグループから選べるかが決まります。

- 43 トーングループセレクトを押して、グループA (ランプ消灯) またはグループB (ランプ点灯) を選びます。
- 44 トーンカテゴリーのいずれか1つを押して、希望するカテゴリーを選びます。
 - 液晶表示部の  (トーンインジケーター) が点滅します。
 - 押したボタンに対応するカテゴリーで前回最後に選んだ音色に切り替わり、 が点滅している間は、カテゴリー内の音色だけが選択可能な状態になります。(この状態をすぐに解除したい場合は、5 トーンを押して、 を点灯させます。)
- 12 数字ボタン、13 [-]、[+]、または 11 ダイヤルを使って、鍵盤で演奏したい音色の番号を選びます。

2つ以上の音色を同時に鳴らす (スプリット、レイヤー)

鍵盤を左右に分けてそれぞれ異なる音色で演奏したり(スプリット)、2つの音色を重ねて鳴らしたり(レイヤー)できます。スプリットとレイヤーを組み合わせると、下図のように最大4つの鍵盤パート(UPPER 1、LOWER 1、UPPER 2、LOWER 2)を同時に使った演奏が可能です。



■ 鍵盤パートインジケーターについて

スプリットとレイヤーの使用状態は、液晶表示部左上の鍵盤パートインジケーターに表示されます(点灯中の鍵盤パートの音が鳴ります)。

-  U1 (UPPER 1) インジケーター
-  U2 (UPPER 2) インジケーター
-  L1 (LOWER 1) インジケーター
-  L2 (LOWER 2) インジケーター

メモ

- パートごとの音量やエフェクト量などの調整が可能です。詳細は、55ページ「ミキサーを使う」をご参照ください。
- 複数のパートにDSPトーンが使われている場合、音色のエフェクトが取れて、音質が変わることがあります。

2つの音色を左右に分けるには(スプリット)

1. 液晶表示部左上の鍵盤パートインジケーターが **U1**▶ のようになっているのを確認し、音色を選びます。
 - これがUPPER 1パートの音色になります。

2. **35**スプリットを押します。

- L1インジケーターが点灯し、同時に ▶ がL1の右側に移動します。この状態で、LOWER 1パートの音色が選べます。



3. LOWER 1パートに割り当てる音色を選びます。

4. 鍵盤を弾いてみましょう。

- 各パートの音色を選び直す操作については、20ページ「スプリット・レイヤー各パートの音色を変えるには」をご参照ください。

5. スプリットを解除する(鍵盤全体をUPPER 1パートに戻す)には、**35**スプリットを押します。

L1インジケーターが消灯します。

音色の分け目を変えるには(スプリットポイント)

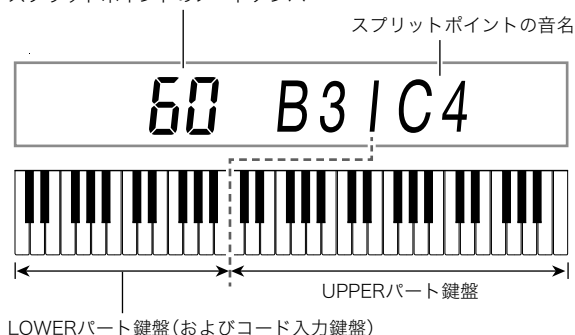
1. “Split Pt”と表示されるまで、**35**スプリットを押したままにします。

2. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、スプリットポイント(UPPERパート下限)を音名で指定します。

- **35**スプリットを押したまま鍵盤を押すと、押した鍵盤がスプリットポイントとして指定されます。
- 指定の状態は、液晶表示部に下記のように表示されます。

例: スプリットポイントとしてC4を指定した場合

スプリットポイントのノートナンバー



- この操作で、LOWERパート鍵盤と同じ範囲が、同時にコード入力鍵盤(40ページ)として指定されます。

3. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

メモ

- スプリットポイントの指定では、LOWERパート鍵盤とコード入力鍵盤が同じ範囲になりますが、それぞれの範囲を個別に指定することもできます。また、LOWERパート鍵盤とコード入力鍵盤が重なる範囲では、LOWERパートの音を鳴らさないようにすることが可能です。こうした設定についての詳細は、44ページ「スプリットの詳細設定」をご参照ください。

2つの音色を重ねるには(レイヤー)

1. 液晶表示部左上の鍵盤パートインジケーターが **U1**▶ のようになっているのを確認し、音色を選びます。
 - これがUPPER 1パートの音色になります。
2. **36** **アップパーレイヤー**を押します。
 - U2インジケーターが点灯し、同時に ▶ がU2の右側に移動します。この状態で、UPPER 2パートの音色が選べます。



3. UPPER 2パートに割り当てる音色を選びます。
4. 鍵盤を弾いてみましょう。
 - 各パートの音色を選び直す操作については、20ページ「スプリット・レイヤー各パートの音色を変えるには」をご参照ください。
 - ここで **35** **スプリット**を押すと、UPPER 1 + UPPER 2のレイヤーに加えて、スプリットによるLOWER 1のパートも使える状態になります。
5. レイヤーを解除する(鍵盤全体をUPPER 1パートに戻す)には、**36** **アップパーレイヤー**を押します。U2インジケーターが消灯します。

スプリットとレイヤーを同時に使うには

1. 18ページ「2つの音色を左右に分けるには(スプリット)」の手順1~3を実行します。
2. UPPERパートで2つの音色を重ねて鳴らしたい場合は、下記手順を実行します。
 - (1) **36** **アップパーレイヤー**を押して、U2インジケーターを点灯させます。
 - (2) UPPER 2パートに割り当てる音色を選びます。
3. LOWERパートで2つの音色を重ねて鳴らしたい場合は、下記手順を実行します。
 - (1) **36** **アップパーレイヤー**を、L2インジケーターが点灯するまで長押しします。
このとき、液晶表示部左端のロワーレイヤーインジケーターも点灯します。



- (2) LOWER 2パートに割り当てる音色を選びます。
4. 鍵盤を弾いてみましょう。
 - 各パートの音色を選び直す操作については、20ページ「スプリット・レイヤー各パートの音色を変えるには」をご参照ください。



- スプリットとレイヤーを併用する場合のUPPER 2パートを「アップパーレイヤー」、LOWER 2パートを「ロワーレイヤー」と呼びます。
- 上記手順1~3を実行した後でアップパーレイヤーのみ解除するには、**36** **アップパーレイヤー**を押して、U2インジケーターを消灯させます。ロワーレイヤーのみ解除するには、**36** **アップパーレイヤー**(ロワーレイヤー)を、L2インジケーターが消灯するまで長押しします(ロワーレイヤーインジケーターも消灯します)。
- ロワーレイヤーインジケーターは、スプリットをしているか、いないかにかかわらず、ロワーレイヤーが有効な間は点灯します。ロワーレイヤーを解除すると、消灯します。
- 上記手順1~3を実行した後で **35** **スプリット**を押すとスプリットが解除されるので、L1、L2インジケーターが消灯し、UPPERパートだけのレイヤー状態(UPPER 1 + UPPER 2の状態)になります。

スプリット・レイヤー各パートの音色を変えるには

1. **5** トーンを押します。
液晶表示部に  (トーンインジケーター) が点灯します。
2. 鍵盤パートインジケーター(17ページ)右側の  が移動するまで、**5** トーンを長押しします。
 - この操作を必要なだけ繰り返して、音色を変更したい鍵盤パート(UPPER 1、LOWER 1、UPPER 2、LOWER 2)と対応する鍵盤パートインジケーター(U1、U2、L1、L2)の右側に、 を移動します。
3. 手順2で選んだ鍵盤パートの音色を変更します。
 - 音色を変更したい鍵盤パートの分だけ、手順2、3の操作を繰り返します。

音色にかけるエフェクトを選ぶ(リバーブ、コーラス、ディレイ)

音色に響きや厚みなどを与えるために、本機はリバーブ、コーラス、ディレイという3タイプのエフェクトを備えています。

● リバーブ(REVERB)

部屋の中、あるいはホール内といった、空間の残響を再現するタイプのエフェクトです。

● コーラス(CHORUS)

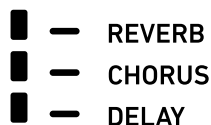
音の厚みを増したり、音に揺れを与えたりするエフェクトが含まれます。本機の初期設定では、音色ごとにプリセットされたコーラスエフェクトがかかります。

● ディレイ(DELAY)

ディレイは「遅れ」という意味です。同じ音が微妙に遅れて繰り返されるエコー(山びこ)が代表的です。リバーブとは違った残響感が音に加わります。本機の初期設定では、音色ごとにプリセットされたディレイエフェクトがかかります。



- 各エフェクトのオン/オフ状態は、該当するインジケーターの点灯状態でわかります。



- コーラスインジケーター、ディレイインジケーターの消灯中でも、音色ごとにプリセットされたコーラスエフェクト、ディレイエフェクトがかかります。
- 音色に対する各エフェクトのかかり方を、パートごとに調整することができます。詳細は、55ページ「ミキサーを使う」をご参照ください。調整に使う設定項目は、57ページ「ミキサー設定詳細」の「リバーブセンド」、「コーラスセンド」、「ディレイセンド」が該当します。

エフェクトを選ぶには



- 下記の操作手順では、手順2、3でリバーブ、手順4、5でコーラス、手順6、7でディレイの各エフェクトを選びます。必要のない操作は、省略して構いません。

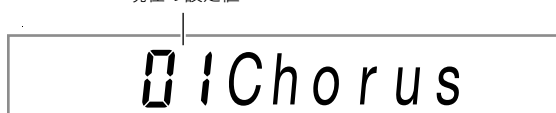
1. **10** 機能を押します。
2. **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Reverb”を表示します。

現在の設定値



3. **13** [-]、[+]、または**10**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
 - 設定値に応じたリバーブの種類については、21ページ「リバーブエフェクト一覧」をご参照ください。
4. **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Chorus”を表示します。

現在の設定値



5. **13** [-]、[+]、または**10**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
 - 設定値に応じたコーラスの種類については、22ページ「コーラスエフェクト一覧」をご参照ください。
6. **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Delay”を表示します。

現在の設定値



7. **13** [-]、[+]、または**10**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
 - 設定値に応じたディレイの種類については、22ページ「ディレイエフェクト一覧」をご参照ください。
8. **12** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

リバーブエフェクト一覧

■CT-X5000

設定値	設定の種類	表示
1	オフ	Off
2	Room1	Room 1
3	Room2	Room 2
4	Room3	Room 3
5	Room4	Room 4
6	Room5	Room 5
7	Room6	Room 6
8	Room7	Room 7
9	Room8	Room 8
10	Room9	Room 9
11	Large Room1	L.Room 1
12	Large Room2	L.Room 2
13	Hall1	Hall 1
14	Hall2	Hall 2
15	Hall3	Hall 3
16	Hall4	Hall 4
17	Hall5	Hall 5
18	Hall6	Hall 6
19	Hall7	Hall 7
20	Hall8	Hall 8
21	Hall9	Hall 9
22	Stadium1	Stadium1
23	Stadium2	Stadium2
24	Stadium3	Stadium3
25	Plate1	Plate 1
26	Plate2	Plate 2
27	Plate3	Plate 3
28	Delay	Delay
29	Pan Delay	PanDelay
30	Long Delay1	L.Delay1
31	Long Delay2	L.Delay2
32	Church	Church
33	Cathedral	Cathedrl

■CT-X3000

設定値	設定の種類	表示
1	オフ	Off
2	Room1	Room 1
3	Room2	Room 2
4	Room3	Room 3
5	Room4	Room 4
6	Room5	Room 5
7	Large Room1	L.Room 1
8	Large Room2	L.Room 2
9	Hall1	Hall 1
10	Hall2	Hall 2
11	Hall3	Hall 3
12	Hall4	Hall 4
13	Hall5	Hall 5
14	Hall6	Hall 6
15	Stadium1	Stadium1
16	Stadium2	Stadium2
17	Stadium3	Stadium3
18	Plate1	Plate 1
19	Plate2	Plate 2
20	Delay	Delay
21	Pan Delay	PanDelay
22	Long Delay1	L.Delay1
23	Long Delay2	L.Delay2
24	Church	Church
25	Cathedral	Cathedrl

コーラスエフェクト一覧

■CT-X5000

設定値	設定の種類	表示
1	Tone*	Tone
2	Chorus 1	Chorus 1
3	Chorus 2	Chorus 2
4	Chorus 3	Chorus 3
5	Chorus 4	Chorus 4
6	FB Chorus	FBChorus
7	Soft Chorus	Soft C
8	Bright Chorus	Bright C
9	Deep Chorus	Deep C
10	Flanger 1	Flanger1
11	Flanger 2	Flanger2
12	Flanger 3	Flanger3
13	Flanger 4	Flanger4
14	Short Delay 1	S.Delay1
15	Short Delay 2	S.Delay2
16	Short Delay 3	S.Delay3
17	Short Delay 4	S.Delay4

■CT-X3000

設定値	設定の種類	表示
1	Tone*	Tone
2	Chorus 1	Chorus 1
3	Chorus 2	Chorus 2
4	Chorus 3	Chorus 3
5	Chorus 4	Chorus 4
6	FB Chorus	FBChorus
7	Deep Chorus	Deep C
8	Flanger 1	Flanger1
9	Flanger 2	Flanger2
10	Flanger 3	Flanger3
11	Flanger 4	Flanger4
12	Short Delay 1	S.Delay1
13	Short Delay 2	S.Delay2

※設定値1の“Tone”を選ぶと液晶表示部のコーラスインジケータが消灯しますが、音色には個々にプリセットされているコーラスがかかります。

ディレイエフェクト一覧

■CT-X5000

設定値	設定の種類	表示
1	Tone*	Tone
2	Short1	Short 1
3	Short2	Short 2
4	Echo	Echo
5	Tempo Sync Short	TSync S
6	Tempo Sync Middle	TSync M
7	Tempo Sync Long	TSync L
8	Ambience	Ambience
9	Mid 1	Mid 1
10	Mid 2	Mid 2
11	Long 1	Long 1
12	Long 2	Long 2
13	Mid Pan	Mid Pan
14	Long Pan 1	LongPan1
15	Long Pan 2	LongPan2
16	Long Pan 3	LongPan3
17	Short Single	ShrtSngl
18	Mid Single	Mid Sngl
19	Long Single	LongSngl
20	Long Double	Long Dbl
21	Long Triple	LongTrpl

■CT-X3000

設定値	設定の種類	表示
1	Tone*	Tone
2	Short1	Short 1
3	Short2	Short 2
4	Echo	Echo
5	Tempo Sync Short	TSync S
6	Tempo Sync Middle	TSync M
7	Tempo Sync Long	TSync L
8	Ambience	Ambience
9	Mid 1	Mid 1
10	Mid 2	Mid 2
11	Long 1	Long 1
12	Long 2	Long 2
13	Mid Pan	Mid Pan
14	Long Pan 1	LongPan1
15	Long Pan 2	LongPan2
16	Long Pan 3	LongPan3

※設定値1の“Tone”を選ぶと液晶表示部のディレイインジケータが消灯しますが、音色には個々にプリセットされているディレイがかかります。

音質を補正する(イコライザー)

特定の音域を強調したり、音の印象を柔らかくしたりといった音質補正を、プリセット設定の中から選びます。
CT-X5000では、4バンドイコライザーのユーザー設定が可能です(ユーザーイコライザー)。

音質補正の設定を選ぶには

1. **[F10]**機能を押します。
2. **[F12]**数字ボタンの[1](**↙**)または[3](**↘**)を使って、“Equalizr”を表示します。
3. **[F13]**[-]、[+]、または**[F11]**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
 • 設定値に応じた内容は、下記のとおりです。

設定値	表示	内容
1	Standard	通常の設定
2	Bass +	低音を強調します。
3	Treble +	高音を強調します。
4	Loudness	全体の音を強くします。
5	Mellow	柔らかい印象の音にします。
6	Bright	明るい印象の音にします。
7	Rock	ロックに最適な音にします。
8	Dance	ダンスに最適な音にします。
9	Jazz	ジャズに最適な音にします。
10	Classic	クラシックに最適な音にします。
11	User	ユーザーイコライザー設定です(CT-X5000のみ)。

4. **[F12]**数字ボタンの[4](**↵**)を長押しして、設定を終了します。

ユーザーイコライザーを設定するには(CT-X5000のみ)

1. **[F10]**機能を押します。
2. **[F12]**数字ボタンの[1](**↙**)または[3](**↘**)を使って“User EQ”を表示し、[6](**↵**)を押します。
3. 音域ごとの補正設定を変更します。
 (1) **[F12]**数字ボタンの[1](**↙**)または[3](**↘**)を使って、補正したい音域のメニューを表示します。

この音域を補正するには:	これを表示する:
低音域(50Hz~800Hz)	EQ Low
中音域1(100Hz~8kHz)	EQ Mid1
中音域2(100Hz~8kHz)	EQ Mid2
高音域(2kHz~16kHz)	EQ High

- (2) [6](**↵**)を押します。
 • このとき、自動的に“Equalizr”(イコライザー)の設定が“User”に切り替わります。23ページ「音質補正の設定を選ぶには」をご参照ください。
- (3) [1](**↙**)または[3](**↘**)を使って、“__ Freq”(中心周波数またはカットオフ周波数)または“__ Gain”(ゲイン)を表示します。
 メニュー項目の先頭部分は、補正対象の音域によって異なります。
- (4) **[F13]**[-]、[+]、または**[F11]**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
 設定値と設定される内容の関係は、下記「ユーザーイコライザー設定一覧」をご参照ください。
- (5) **[F12]**数字ボタンの[4](**↵**)を押します。
- (6) 手順(1)~(5)の操作を必要なだけ繰り返して、各音域の設定を変更します。

4. 必要に応じて、入力レベルと出力レベルの設定を変更します。

- (1) **[F12]**数字ボタンの[1](**↙**)または[3](**↘**)を使って“Input Lv”(入力レベル)を表示し、**[F13]**[-]、[+]、または**[F11]**ダイヤルを使って設定値を変更します。
- (2) [1](**↙**)または[3](**↘**)を使って“OutputLv”(出力レベル)を表示し、**[F13]**[-]、[+]、または**[F11]**ダイヤルを使って設定値を変更します。

5. **[F12]**数字ボタンの[4](**↵**)を長押しして、設定を終了します。

■ユーザーイコライザー設定一覧

設定項目	表示	設定値
低音域	EQ Low	
カットオフ周波数	Low Freq	1~13※1
ゲイン	Low Gain	-12~12
中音域1	EQ Mid1	
中心周波数	Mid1 Freq	1~20※2
ゲイン	Mid1 Gain	-12~12
中音域2	EQ Mid2	
中心周波数	Mid2 Freq	1~20※2
ゲイン	Mid2 Gain	-12~12
高音域	EQ High	
カットオフ周波数	High Freq	1~10※3
ゲイン	High Gain	-12~12
入力レベル	Input Lv	0~127
出力レベル	Output Lv	0~127

※1 設定値1~13(下表A)のそれぞれに、カットオフ周波数50Hz~800Hz(下表B)が対応します。

A	1	2	3	4	5
B	50Hz	63Hz	80Hz	100Hz	125Hz
A	6	7	8	9	10
B	160Hz	200Hz	250Hz	315Hz	400Hz
A	11	12	13		
B	500Hz	630Hz	800Hz		

※2 設定値1~20(下表A)のそれぞれに、中心周波数100Hz~8.0kHz(下表B)が対応します。

A	1	2	3	4	5
B	100Hz	125Hz	160Hz	200Hz	250Hz
A	6	7	8	9	10
B	315Hz	400Hz	500Hz	630Hz	800Hz
A	11	12	13	14	15
B	1.0kHz	1.3kHz	1.6kHz	2.0kHz	2.5kHz
A	16	17	18	19	20
B	3.2kHz	4.0kHz	5.0kHz	6.3kHz	8.0kHz

※3 設定値1~10(下表A)のそれぞれに、カットオフ周波数2.0kHz~16kHz(下表B)が対応します。

A	1	2	3	4	5
B	2.0kHz	2.5kHz	3.2kHz	4.0kHz	5.0kHz
A	6	7	8	9	10
B	6.0kHz	8.0kHz	10kHz	13kHz	16kHz

メトロノームを使う

メトロノームは一定の間隔で音を刻みます。曲を練習するときにメトロノームを使うと、一定のテンポを保つことができます。

メトロノームを鳴らし始めるには/止めるには

1. 拍子を設定します。
- 拍子の分子(0~16拍子)と分母(4または8)を、それぞれ指定できます。
 - (1) 液晶表示部に“BeatNum”と表示されるまで、**29**メトロノームを押したままにします。
 - (2) **18**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、拍子の分子を0~16の間で指定します(初期設定:4)。

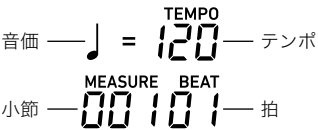
設定値	鳴り方
2~16	2拍子~16拍子です。拍頭で強調音が鳴り、他の拍では弱音が鳴ります。
1	すべての拍で強調音が鳴ります。
0	すべての拍で弱音が鳴ります。

- (3) **12**数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\triangle$)を使って“BeatDeno”を表示します。
- (4) **18**[-]または[+]を使って、拍子の分母を指定します。
 - 設定値の1がX/4拍子、2がX/8拍子です。
- (5) **12**数字ボタンの[4](戻る)を押します。

2. **30**テンポの[$\vee$]または[$\wedge$]を使って、テンポを設定します。

- テンポ設定の詳細は、40ページ「テンポ(速さ)を変える」をご参照ください。

3. **29**メトロノームを押します。
- メトロノームが鳴り始めます。鳴り始めからの小節と拍が、液晶表示部の右上に表示されます。



4. メトロノームを止めるには、**29**メトロノームを押します。

メトロノームと鍵盤演奏の音量バランスを変えるには

96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「メトロノーム」(Metronom)→「メトロノームの音量」(Volume)の設定を変更してください。

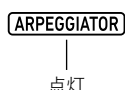
アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす(アルペジエーター)

アルペジエーターを使うと、鍵盤を押さえるだけで、アルペジオ(分散和音)や、さまざまなフレーズが自動的に再生されます。押さえている和音からアルペジオが再生されるタイプや、さまざまなフレーズを自動的に再生するものなど、数多くのタイプから選べます。

- アルペジエーター機能とオートハーモナイズ機能(46ページ)は、1つのボタンを共有しています。アルペジエーター機能を使える状態にすると、オートハーモナイズ機能は使えなくなります。

アルペジエーター機能をオンにするには

- 84** オートハーモナイズ/アルペジエーターを押して、液晶表示部にARPEGGIATORインジケータを点灯させます。



- 鍵盤で和音、または単音を押さえると、現在選択されているタイプのアルペジオが再生されます。

- アルペジエーター機能をオフにするには、**84** オートハーモナイズ/アルペジエーターを押します。ARPEGGIATORインジケータが消灯します。

重要

- 手順1で、ARPEGGIATORインジケータではなく、AUTO HARMONIZEインジケータが点灯した場合は、ボタンの割り当てを変更する必要があります。96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、98ページ「オートハーモナイズ/アルペジエーター」(AHar/Arp)→「オートハーモナイズ/アルペジエーターボタンの割り当て」(BtnAssign)の設定を“2 Arpeg.”に切り替えてください。

メモ

- 和音を押さえている指を鍵盤から離れた後も、アルペジオが鳴り続けるようにすることができます。96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、98ページ「オートハーモナイズ/アルペジエーター」(AHar/Arp)→「アルペジエーターホールド」(ArpegHld)をオンに切り替えてください。
- スプリット(18ページ)の使用中に、アルペジエーターをUPPER 1パート、LOWER 1パートのどちらで鳴らすかを指定できます。96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、98ページ「オートハーモナイズ/アルペジエーター」(AHar/Arp)→「アルペジエーターパート」(ArpegPart)を変更してください。

アルペジエーターのタイプを選ぶには

- 「アルペジエーター機能をオンにするには」の操作で、液晶表示部にARPEGGIATORインジケータを点灯させます。
- FUNCTIONインジケータが点滅するまで、**84** オートハーモナイズ/アルペジエーターを長押しします。
現在選択されているアルペジエーターのタイプ番号と名前が表示されます。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、選択したいアルペジエーターのタイプを表示します。
 - アルペジエーターのタイプを表示しているときに**84** オートハーモナイズ/アルペジエーターを長押しすると、表示中のタイプに合うお好みの音色が選ばれます。
 - タイプの詳細は、別冊「Appendix」をご参照ください。
- 12** 数字ボタンの[4](戻)を長押しして、設定を終了します。

押鍵の強さに対する音量の強弱を調節する(タッチレスポンス)

タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ(速さ)で音量を変化させる機能です。タッチレスポンス機能を使うと本物のピアノのように鍵盤を押す強さ(速さ)で音量が変化し、演奏の表現が豊かになります。

タッチレスポンスの感度を変えるには

- 10** 機能を押します。
- 12** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って“Touch”を表示します。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
 - 設定値に応じて、タッチレスポンスの感度が下記のように切り替わります。

設定値	感度(表示)	内容
01	オフ(Off)	タッチレスポンスを解除します。鍵盤を押す速度が変化しても音量は一定のままです。
02	ライト(Light)	弱めに弾いても大きな音が出ます。
03	ノーマル(Normal)	標準的な設定です。
04	ヘビー(Heavy)	強めに弾いて、標準の音が出ます。

- オフ以外の設定にした場合は、タッチレスポンスインジケータが点灯します。

- 12** 数字ボタンの[4](戻)を長押しして、設定を終了します。

音をコントロールする

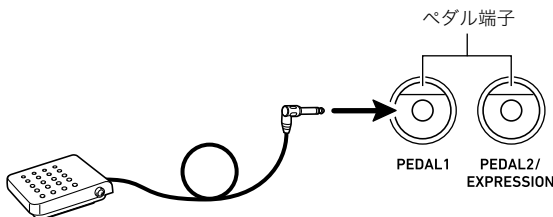
ペダルを使う

ペダルを接続することにより、ペダルを踏んで演奏にさまざまな効果をかけることができます。自動伴奏やソングバンク(34ページ)のソングを開始、停止する操作に使うことも可能です。

- ペダルは本製品に付属されておりません。お買い求めの販売店で別途ご購入ください。
- ペダルを使って、レジストレーションのセットアップを切り替えることも可能です。詳細は、60ページ「ペダルを使って複数のセットアップを順番に呼び出す(レジストレーションシーケンス)」をご参照ください。

ペダルを接続するには

ペダルを目的に応じて、**54** PEDAL1 端子または **55** PEDAL2/EXPRESSION 端子に接続します。



- **54** PEDAL1 端子には弊社製サステインペダル(表紙を参照)が接続できます。**55** PEDAL2/EXPRESSION 端子には、弊社製サステインペダルに加え、市販のエクスペッションペダルが接続可能です。

重要

- **55** PEDAL2/EXPRESSION 端子に市販のエクスペッションペダルを接続して使う場合は、エクスペッションペダルの極性タイプを指定した上で、使用前の調整(キャリブレーション)が必要です。
26ページ「**55** PEDAL2/EXPRESSION 端子にペダルを接続して使うには」に従って、操作してください。

54 PEDAL1 端子にペダルを接続して使うには

1. **54** PEDAL1 端子にペダルを接続します。
2. **10** 機能を押します。
3. **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Cntrlr”を表示し、[6](エンター)を押します。
4. [1]()または[3]()を使って“Pedal”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Pd1Effect”と表示されます。ペダル1の機能が選択できる状態です。
5. **13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、設定値を変更します。
 - 設定値に応じてペダルに割り当てられる機能の詳細は、27ページ「ペダル機能一覧」をご参照ください。
6. 必要に応じて、各鍵盤パート※に対するペダル効果のオン/オフを切り替えます。
 - (1) **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Pd1Enabl”を表示します。
 - (2) **12** 数字ボタンの[6](エンター)を押します。
 - (3) [1]()または[3]()を使って、設定を変更したいパートを表示します。
 - (4) **13** [-]または[+]を使って、オン/オフを切り替えます。
 - オンにしたパートにはペダル効果がかかり、オフにしたパートにはかかりません。
 - オートハーモナイズ(46ページ)で鳴る音は、UPPER 1パートに対する設定状態に従います。
7. **12** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

※17ページ「2つ以上の音色を同時に鳴らす(スプリット、レイヤー)」をご参照ください。

55 PEDAL2/EXPRESSION 端子にペダルを接続して使うには

1. **55** PEDAL2/EXPRESSION 端子にペダルを接続します。
2. **10** 機能を押します。
3. **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Cntrlr”を表示し、[6](エンター)を押します。
4. [1]()または[3]()を使って“Pedal”を表示し、[6](エンター)を押します。
5. [1]()または[3]()を使って“Pd2 Type”を表示します。

6. **13** [–]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。

このタイプのペダルを使うには:	これを選ぶ:
フットスイッチペダル	1 Foot Sw
エクスプレッションペダル (極性タイプ1※)	2 ExpType1
エクスプレッションペダル (極性タイプ2※)	3 ExpType2

※詳細は、28ページ「接続可能なエクスプレッションペダルについて」をご参照ください。

重要

- 設定が済んだ後でペダルが正しく動作しなかった場合、本機に接続しているペダルと、上記“Pd2 Type”の設定が合っていないことが考えられます。このような場合は、“Pd2 Type”で別のタイプを選んで、正しく動作するかを確認ください。

7. 選んだペダルのタイプに応じて操作します。

■ フットスイッチペダルを選んだ場合

ペダルの効果を選択します。

- 12** 数字ボタンの[1](**△**)または[3](**▽**)を使って“Pd2Effect”を表示します。
- 13** [–]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
 - 設定値に対応するペダル効果の詳細は、27ページ「ペダル機能一覧」をご参照ください。

■ エクスプレッションペダルを選んだ場合

手順6で“2 ExpType1”または“3 ExpType2”を選ぶと、“Pd2Effect”は自動的に“5 Exp.”(エクスプレッション)に切り替わります。**53** PEDAL2/EXPRESSION端子に接続したエクスプレッションペダルをエクスプレッションペダルとして使う場合は、下記の操作で使用前の調整(キャリブレーション)を行ってください。

- 12** 数字ボタンの[1](**△**)または[3](**▽**)を使って“ExPCalib”を表示し、[6](エンター)を押します。“Sure?”と表示されます。
- 調整を開始してよい場合は**13** [+] (はい)を、中止するには**13** [–] (いいえ)を押します。
- 液晶表示部に“Highest”と表示されたら、ペダルを踏み込んだ状態にして、[6](エンター)を押します。
- 液晶表示部に“Lowest”と表示されたら、ペダルを離れた(ペダルオープン)状態にして、[6](エンター)を押します。
 - “Complete”(完了)が表示されたら終了です。
 - 53** PEDAL2/EXPRESSION端子に接続したエクスプレッションペダルをフットスイッチペダルと同じ用途(サステインなど)として使う場合は、上記「■ フットスイッチペダルを選んだ場合」と同様の操作で、ペダルの効果を選択してください。

8. 必要に応じて、各鍵盤パートに対するペダル効果のオン/オフを切り替えます。

- 26ページ「**54** PEDAL1端子にペダルを接続して使うには」の手順6を実行してください。ただし手順中の(1)では、“Pd2Enabl”を表示してください。

9. **12** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

■ ペダル機能一覧

設定値	機能(表示)	内容
1	サステイン (Sustain)	ペダルを踏んでいる間は、鍵盤を離しても音の余韻が残ります。オルガンなど、鍵盤を押している間音が持続する音色では、ペダルを踏んでいる間、音が鳴り続けます。
2	ソステヌート (Sostenut)	ペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまで音の余韻が残ります。
3	ソフト (Soft)	ペダルを踏んでいる間に弾いた音が若干小さくなることに加え、音が柔らかく聴こえる効果が得られます。
4	リズム/ソング (Rhy/Song)	自動伴奏やソングの開始、停止を行います。
5	エクスプレッション (Exp.)	26ページ「 53 PEDAL2/EXPRESSION端子にペダルを接続して使うには」の手順6で“2 ExpType1”または“3 ExpType2”を選んだ場合に限り、選択可能です。 53 PEDAL2/EXPRESSION端子に接続したエクスプレッションペダルを踏み込む量に応じた効果がかかります。

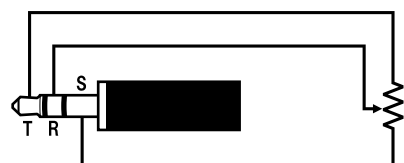
■接続可能なエクスプレッションペダルについて

市販のエクスプレッションペダルは、下記仕様のものが

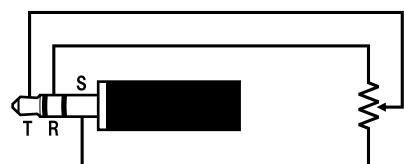
53 PEDAL2/EXPRESSION端子に接続可能です(動作確認品の使用をお勧めします)。

- 最大抵抗値が、 $10k\Omega \pm 20\%$ ～ $50k\Omega \pm 20\%$ の範囲のものをご使用ください。
- ペダルの極性はメーカーによって異なります。極性タイプを、26ページ「**53 PEDAL2/EXPRESSION**端子にペダルを接続して使うには」の操作で設定してください。

極性タイプ 1



極性タイプ 2※



※動作確認済みペダル

Roland EV-5 (「ミニマム・ボリューム」を「0」に設定してください。)

KURZWEIL CC-1

FATAR VP-25, VP-26

音を伸ばす(サステイン)

音の余韻を伸ばし、豊かな響きで演奏することができます。

1. **33**サステインを押します。

SUSTAINインジケーターが点灯します。



- 点灯中は、鍵盤演奏に対してサステイン効果(鍵盤を離してもすぐに音が消えずに徐々に音が消える効果)がかかります。

2. サステインを解除するには、**33**サステインを押して、SUSTAINインジケーターを消灯させます。



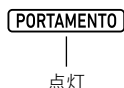
- サステイン効果のかかり方を、鍵盤音色のパート別に変更できます。96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、97ページ「コントローラー」(Cntrlr)→「サステイン」(Sustain)の設定を変更してください。

音高を滑らかに変化させる(ポルタメント)

弦楽器や管楽器のように、演奏時の音高を滑らかに変化させることができます。

1. **32**ポルタメントを押します。

PORTAMENTインジケーターが点灯します。



- 点灯中は、連続して押した2つの鍵盤の間で、音高が滑らかに変化します。

2. ポルタメントを解除するには、**32**ポルタメントを押して、PORTAMENTインジケーターを消灯させます。



- 32**ポルタメントを押したときの音高変化の速さを、鍵盤音色のパート別に変更できます。96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、97ページ「コントローラー」(Cntrlr)→「ポルタメント」(Portamnt)の設定を変更してください。

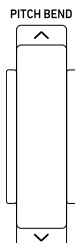
ピッチベンドホイールで音の高さを変える

押鍵中で現在鳴っている音の音高(ピッチ)を、滑らかに上下させることができます。サクソやエレキギターのチョーキング奏法のような効果を出すことができます。

1. 右手で鍵盤を押しながら、左手で**40**ピッチベンドホイールを上下に動かします。

ホイールを動かした量に応じて、音の高さが変わります。

- 本機の電源を入れるときには、ホイールに触らないようにしてください。



メモ

- ホイールを上限や下限まで動かしたときの、音の高さの変化量を変更できます。96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、97ページ「コントローラー」(Cntrlr)→「ピッチベンド」(PitchBnd)→「ピッチベンドレンジ」(Range)の設定を変更してください。

39モジュレーション/アサインブルボタンを使う(CT-X5000のみ)

39モジュレーション/アサインブルボタンを使うと、音にビブラート効果を与えることができます(初期設定時)。また、ボタンの機能を切り替えて、音色に対するDSPエフェクトのかかりかたに変化を与えることも可能です。

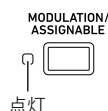
音にビブラート効果を与えるには

メモ

- 下記は、本機の初期設定状態での操作です。

1. **39**モジュレーション/アサインブルを押したままにします。

ボタンを押している間、ランプが点灯します。



- 点灯中は、鍵盤演奏に対してビブラート効果がかかります。

2. 効果を解除するには、ボタンを離します。 ランプが消灯します。

メモ

- ランプ点灯中にビブラート効果がかかる量を変更できません。96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、97ページ「コントローラー」(Cntrlr)→「モジュレーション/アサインブル」(Mod/Asgn)→「モジュレーションオン時の値」(ModValue)の設定を変更してください。

39モジュレーション/アサインブルボタンを押したときの動作を変えるには

1. **10**機能を押します。

2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Cntrlr”を表示し、[6](エンター)を押します。

3. [1]()または[3]()を使って“Mod/Asgn”を表示し、[6](エンター)を押します。 “Btn Act”と表示されます。

4. **13**[-]または[+]を使って、**39**モジュレーション/アサインブルボタンの動作を選びます。

この動作を選ぶには:	この設定値にする:
ボタンを押している間だけ、ボタンに割り当てられている機能をオンにする	1 Moment
ボタンを押すたびに、ボタンに割り当てられている機能のオン、オフを切り替える	2 Toggle

- ボタンに割り当てられている機能がオンのときはボタン左側のランプが点灯し、オフのときは消灯します。

5. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

39 モジュレーション/アサイナブルボタンの機能を切り替えるには

- 29ページ「39 モジュレーション/アサイナブルボタンを押したときの動作を変えるには」の手順1～3を実行します。
- 12 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Btn Func”を表示します。
- 13 [-]または[+]を使って、39 モジュレーション/アサイナブルボタンに割り当てる機能を切り替えます。

この機能に切り替えるには:	この設定値にする:
音にビブラート効果をかける機能	1 Mod
音色に対するDSPエフェクトのかかり方をユーザー設定※に従って変更する機能	2 DSP

※この設定操作については、30ページ「39 モジュレーション/アサイナブルボタンを押したときのDSPエフェクトのかかり方を変えるには」をご参照ください。

- 12 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

39 モジュレーション/アサイナブルボタンを押したときに効果がかかる鍵盤パートを指定するには

- 29ページ「39 モジュレーション/アサイナブルボタンを押したときの動作を変えるには」の手順1～3を実行します。
- 12 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“PartEnbl”を表示し、[6](エンター)を押します。
- [1]()または[3]()を使って、設定を変更したいパートを表示します。
- 13 [-]または[+]を使って、オン/オフを切り替えます。
 - オンにしたパートには効果がかかり、オフにしたパートにはかかりません。
- 12 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

メモ

- 鍵盤パートについての詳細は、17ページ「2つ以上の音色を同時に鳴らす(スプリット、レイヤー)」をご参照ください。

39 モジュレーション/アサイナブルボタンを押したときのDSPエフェクトのかかり方を変えるには

メモ

- 下記の操作中に登場する「DSPモジュール」は、本機のDSPエフェクトを構成する要素です。DSPエフェクトの構成や、パラメーターについての詳細は、62ページ「DSPエディットについて」をご参照ください。

- 29ページ「39 モジュレーション/アサイナブルボタンを押したときの動作を変えるには」の手順1～3を実行します。
- 12 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Btn Func”を表示します。
- 13 [-]または[+]を使って、設定値を“2 DSP”にします。
- [1]()または[3]()を使って“DSPModle”(対象となるDSPモジュール)を表示します。
DSPモジュール名が表示されます。

モジュール番号	DSPモジュール名
1	Mon1B EQ

- 13 [-]、[+]、または11 ダイヤルを使って、DSPモジュールを指定します。
- 12 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“DSPParam”(対象となるDSPパラメーター)を表示します。
手順5で指定したDSPモジュールの、先頭のパラメーター名が表示されます。

パラメーター番号	パラメーター名
1	EQ Gain

- 13 [-]、[+]、または11 ダイヤルを使って、39 モジュレーション/アサイナブルボタンを押したときに変更を加えたいパラメーターを表示します。
- [1]()または[3]()を使って“DSPValue”(DSPオン時の値)を表示します。
- 13 [-]、[+]、または11 ダイヤルを使って、39 モジュレーション/アサイナブルボタンを押したときに適用される設定値に変更します。

10. **12** 数字ボタンの[4] (戻) を長押しして、設定を終了します。

メモ

- 音色によって、割り当てられているDSPモジュールは異なります。音色ごとのDSPモジュールを確認するには、62ページ「DSPエディットでエフェクトを編集するには」を実行してください。

音高を半音単位で変える(トランスポーズ)

音の高さを半音単位で全体的に上げたり下げたりすることができます。歌う人の声の高さに合わせて、伴奏のキーを上げ下げしたいときなどに便利です。

音高を半音単位で変えるには

1. **38** トランスポーズの[✓]または[へ]を押します。
“Trans.”と表示されます。
 - -12～00～+12半音の間で変更できます。
 - “Trans.”と表示されている間は、**12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または**11** ダイアルを使って、設定値を変更可能です。
 - **10** 機能を押すか、しばらく何も操作しないと、トランスポーズの設定状態から抜けます。

メモ

- トランスポーズの設定が0ではない場合、液晶表示部にはTRANSPOSEインジケータが点灯します。

TRANSPOSE

点灯

パートごとの音高をオクターブ単位で変える(オクターブシフト)

鍵盤の音域をオクターブ単位でシフト(上げ下げ)することができます。オクターブシフトは、各鍵盤パート※(UPPER 1、LOWER 1、UPPER 2、LOWER 2)に対して個別に設定することが可能です。

- オクターブシフト量(何オクターブシフトするか)を、パート別に設定できます。
- あらかじめ指定しておいたパートを、手早くオクターブシフトできます(クイックオクターブシフト)。

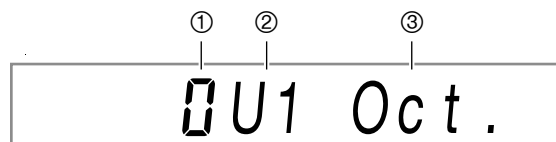
※17ページ「2つ以上の音色を同時に鳴らす(スプリット、レイヤー)」をご参照ください。

メモ

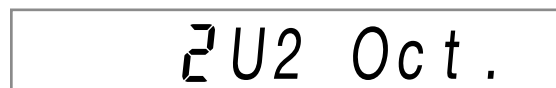
- 選択した音色によっては、オクターブシフトが自動的に変更される場合があります。詳細は、別紙「Appendix」の音色リストのキーオクターブシフト欄をご参照ください。
- オートハーモナイズ(46ページ)で鳴る音は、UPPER 1パートに対する設定状態に従います。

パートごとのオクターブシフト量を設定するには

1. **37** オクターブを押します。



- ① シフト量(何オクターブ変えているか)を表す数字です。0は変更なし、1は1オクターブ上、-1は1オクターブ下を表します。±3の範囲で設定できます。
 - ② 鍵盤パートを表します。この表示と各鍵盤パートについては、17ページ「鍵盤パートインジケータについて」をご参照ください。
 - ③ オクターブシフトの設定中を表します。
2. **12** 数字ボタンの[1] (∟) または[3] (∟) を使って、オクターブシフトの対象パートを選びます。
 3. **13** [-] または[+] を使って、手順2で選択したパートのシフト量を指定します。



4. 手順2、3を必要なだけ繰り返し、パートごとのシフト量を指定します。
5. 操作を終了して手順1の前の状態に戻るには、**37** オクターブまたは**12** 数字ボタンの[4] (戻) を押します。

指定パートを手早くオクターブシフトするには (クイックオクターブシフト)

1. **87**オクターブを押したまま、**88**トランスポーズの[**▼**]または[**▲**]を押します。
 - 指定されているパートが、[**▼**]を押すと1オクターブ下がり、[**▲**]を押すと1オクターブ上がります。
 - この操作を実行したときにオクターブシフトの対象となるパートは、下記「クイックオクターブシフトの対象パートを選ぶには」で指定します。

クイックオクターブシフトの対象パートを選ぶには

1. **87**オクターブを押します。
“U1 Oct.”と表示されます。
2. **12**数字ボタンの[1](**∟**)または[3](**∟**)を使って“Btn Trgt”を表示し、[6](エンター)を押します。
“U1 OctBtn”と表示されます。
3. [1](**∟**)または[3](**∟**)を使って、設定を変更したいパートを表示します。
4. **18**[-]または[+]を使って、オン/オフを切り替えます。
 - オンにすると、表示中のパートは、32ページ「指定パートを手早くオクターブシフトするには(クイックオクターブシフト)」の操作をしたときにオクターブシフトします。
5. 手順3、4を必要なだけ繰り返します。
6. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

鍵盤全体とパート別の音高を微調整する

鍵盤全体の音高を微調整します。調整する際は、A4の音(鍵盤中央からすぐ上のラの音)が基準になります。

音高を微調整するには(チューニング)

1. **10**機能を押します。
2. **12**数字ボタンの[1](**∟**)または[3](**∟**)を使って“Tune”を表示し、[6](エンター)を押します。
“MstrTune”が表示されます。
3. **12**数字ボタン、**18**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
 - 設定範囲は415.5～465.9Hz(初期値440.0Hz)です。
 - **12**数字ボタンを使うと、整数値が入力されます。
 - **18**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使うと、0.1Hz単位で変更することができます。
4. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

鍵盤パート個別に音高を微調整するには(パートコースチューン、パートファインチューン)

スプリット、レイヤー使用時の各パート(UPPER 1、LOWER 1、UPPER 2、LOWER 2)の音高を、個別に微調整できます。96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、99ページ「チューニング」(Tune)→「パートコースチューン」(Prt Coars)と「パートファインチューン」(Prt Fine)の設定を変更してください。



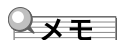
- パートコースチューンでは半音単位で音高を変更し、パートファインチューンではセント単位で音高を微調整します。
- オートハーモナイズ(46ページ)で鳴る音は、UPPER 1パートに対する設定状態に従います。

音律(スケール)を選ぶ

時代ごとのクラシック音楽に適した音律や、アラビア音楽の音律など、下記17種類から選ぶことができます。

■スケール一覧

設定値	スケール名	表示
01	平均律	Equal
02	純正律長調	PureMajr
03	純正律短調	PureMinr
04	ピタゴラス音律	Pythagor
05	キルンベルガー第III法	Kirnbrg3
06	ヴェルクマイスター第1技法第3法	Wercmeis
07	ミーントーン(中全音律)	MeanTone
08	ラスト(Rast)	Rast
09	バヤティ(Bayati)	Bayati
10	ヒジャーズ(Hijaz)	Hijaz
11	サバ(Saba)	Saba
12	ダシュティ(Dashti)	Dashti
13	チャハルガー(Chahargah)	Chaharga
14	セガー(Segah)	Segah
15	グジャリ・トーディ(Gurjari Todi)	GujrTodi
16	チャンドラコウンス (Chandrakauns)	Cndrkuns
17	チャルケシ(Charukeshi)	Carukesi



- CからBまでの音名ごとの音高を、1セント単位で微調整することができます。音律を選んでから、その音律のチューニングを編集することが可能です。詳細は、33ページ「スケールを微調整するには(スケールファインチューン)」をご参照ください。
- 選んだ音律にかかわらず、自動伴奏の音律は平均律に固定しておくこともできます。34ページ「自動伴奏に使う音律設定を切り替えるには」の操作で、“AcompScl”をオフに切り替えてください。

鍵盤演奏に使う音律を選ぶには

1. **10**機能を押します。
2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Scale”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Type”と表示されます。
3. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
• 設定値と選択されるスケールの対応は、33ページ「スケール一覧」をご参照ください。
4. **12**数字ボタンの[3]()を押して、“Root”を表示します。
5. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、基音を選びます。
6. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

スケールを微調整するには(スケールファインチューン)

1. 33ページ「鍵盤演奏に使う音律を選ぶには」の手順1、2を行います。
2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“FineTune”を表示し、[6](エンター)を押します。
“C Tune”と表示されます。
3. 音名ごとの音高を微調整します。
(1) [1]()または[3]()を使って、音高を微調整したい音名(C~B)を表示します。
(2) **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、表示中の音名の音高を微調整します。
• ±99セントの範囲で、音高を変更できます。
(3) 微調整したい音名の分だけ、(1)と(2)の操作を繰り返します。
4. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

自動伴奏に使う音律設定を切り替えるには

1. 33ページ「鍵盤演奏に使う音律を選ぶには」の手順1、2を行います。
2. **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って、「AcompScl」を表示します。
3. **13** [+]**13** または[-]を押して、オンまたはオフに切り替えます。
 - オン(On):「鍵盤演奏に使う音律を選ぶには」で選択した音律が、自動伴奏にも適用されます。
 - オフ(Off):自動伴奏の音律が、常に平均律になります。
4. **12** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

内蔵曲や USB メモリーの曲を再生する(ソングバンクモード)

本機は30曲分のソング※を内蔵しています。内蔵のソングは再生を聴いたり、ピアノの片手パートを消して、再生に合わせて練習したりすることができます。また、本機にUSBメモリーを接続すると、USBメモリーに保存されているMIDIファイル(SMFまたはCMF)を、内蔵のソングと同じ操作で再生することが可能です。

※ソング(SONG)とはふつう「歌」のことを意味しますが、本機では曲データのことを指します。

メモ

- 内蔵のソングまたはUSBメモリーに保存されているCMF形式のソングの再生時は、次の機能は利用できません。
 - ミキサー機能(55ページ)
 - パートモード(54ページ)でのパートオン/オフ切り替え操作(パート選択状態の確認のみ可能です)

内蔵のソングを選んで再生する

内蔵のソング1曲を選んで再生するには

1. **7** ソングバンクを押します。
液晶表示部に

The image shows a digital display in Song Bank Mode. Above the display, 'ソング番号' (Song Number) is aligned with '001' and '曲名' (Song Name) is aligned with 'SaintsGo'. The display itself shows '001 SaintsGo' in a stylized font.

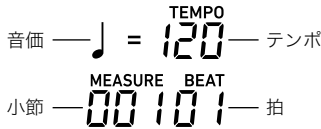
2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、ソング番号を選びます。
 - 番号を選ぶ操作については、13ページ「数値の入力について」をご参照ください。
 - ソングの一覧は124ページをご参照ください。

メモ

- この操作によって、メトロノーム(24ページ)の拍子設定が、選んだソングの拍子に自動的に変更されます。メトロノーム機能による拍子設定の範囲外であっても、ソングの拍子がメトロノームに適用されます。
- この操作によって、リバーブ(20ページ)の設定が、選んだソングに合わせた設定に変更されます。
- 選んだソングによっては、テンポ表示位置(手順3の図を参照)に“Lod”と表示されることがあります。これは、データの読み込み中を表します。

3. 20再生/停止を押します。

ソングの再生が始まります。再生のテンポ、曲の小節と拍が、液晶表示部の右上に表示されます。



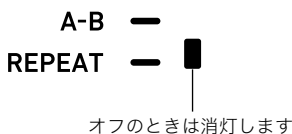
- ソングの再生中は下記の操作が可能です。

これをするには:	この操作をする:
ソングを途中で止める	20再生/停止 を押す。
ソングを一時停止する、一時停止したソングを再開する	19 一時停止 を押す。
ソング再生の速さを変える	30テンポ の[✓]または[^]を押す。
ソングを1小節先に進める	18>>早送り を押す。
ソングを早送りする	18>>早送り を押したままにする。
ソングを1小節前に戻す	17<<早戻し を押す。
ソングを早戻しする	17<<早戻し を押したままにする。

- ソングの再生中も、ソングの再生を開始する前に選ばれていた音色(スプリットやレイヤーの状態を含む)で、鍵盤演奏できます。

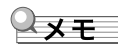
4. ソングの再生を止めるには、20再生/停止を押します。

- ソングは**20再生/停止**を押すまでリピート再生されます(リピート再生がオンの状態)。リピート再生をオフにするには、**15リピート**を押して、リピートインジケータを消灯させます。



鍵盤で弾く音色をソングバンクモードで選ぶには

1. ソングバンクモードで**5トーン**を押します。
 (ソングバンクインジケータ)が点灯したままで、
 (トーンインジケータ)が点灯します。
2. **12**数字ボタン、**13[-]**、**[+]**、または**11**ダイヤルを使って、鍵盤で演奏したい音色の番号を選びます。
 - が点灯している間は、スプリットやレイヤーの音色を選ぶ操作も可能です。詳細は、16ページ「音色を選ぶ」をご参照ください。



- 上記を実行した後でソング番号を変更するには、**7ソングバンク**を押します。 が消灯して、 だけが点灯した状態に戻ります。

ソングと鍵盤演奏の音量バランスを変えるには

96ページ「**10機能**ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、99ページ「ソングの音量」(Song Vol)の設定を変更してください。

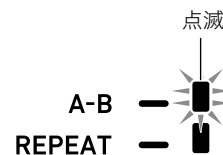
曲の小節間を繰り返し再生する(A-Bリピート)

曲中の特定の小節間を繰り返し再生するには、繰り返し再生したい範囲(リピート区間)の始めの小節と、終わりの小節を指定します。



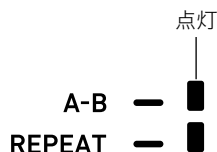
区間を指定して繰り返し再生するには

1. リピートインジケータが消灯している場合は、**15リピート**を押して点灯させます。
2. 34ページ「内蔵のソング1曲を選んで再生するには」の手順1~3の操作で、ソングを再生します。
3. リピート区間の先頭部分まで曲の再生が進んだら、**16A-B**を押します。
16A-Bを押したときの小節冒頭が、リピート区間の先頭として指定され、A-Bインジケータが点滅を始めます。



4. リピート区間の終わり部分まで曲の再生が進んだら、もう一度**16 A-B**を押します。

16 A-Bを押したときの小節末尾が、リピート区間の末尾として指定され、A-Bインジケーターが点灯に変わります。



5. 通常の再生に戻るには、**16 A-B**を押します。

A-Bインジケーターが消灯します。

片手パートの音を消して再生する

ソングの片手パートの音だけを消して再生できます。再生に合わせて、音を消したパートの練習ができます。こうした練習には、内蔵のソング※、またはUSBメモリーに保存されているCMF形式(カシオMIDIファイルの一種)のソング※が利用できます。

※これらのソングは、パートチャンネル情報(37ページ)を持っています。

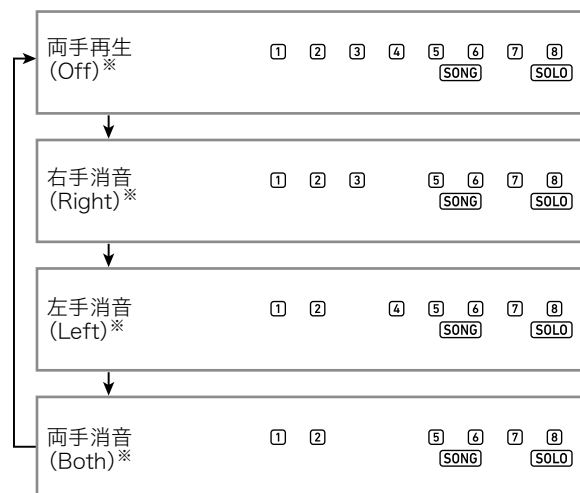
片手パートの音を消して再生するには

1. **7** ソングバンクを押します。
2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、ソング番号を選びます。
3. **20** 再生/停止を押して、ソングの再生を開始します。

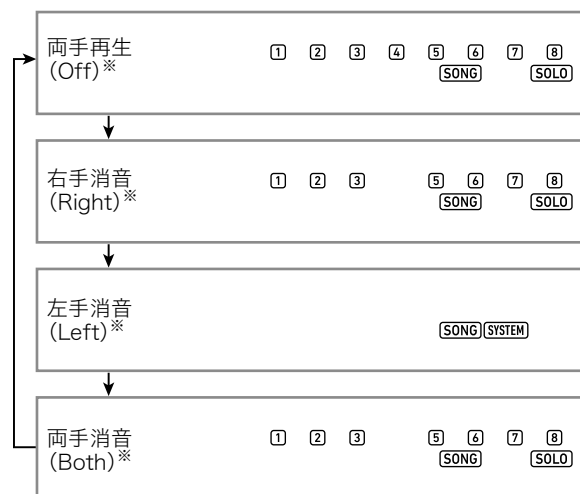
4. **14** パートセレクトを押して、練習するパートを選びます。

- **14** パートセレクトを押すたびに、曲のタイプに応じて下記のようにインジケーターが点灯/消灯します。

■ 左手、右手各1パートの曲



■ 左手側がコード演奏、右手側がメロディーの曲



※これらの文字は、**14** パートセレクトを押すたびに、一時的に液晶表示部に現れます。

5. ソングの再生を止めるには、**20** 再生/停止を押します。

■パートチャンネル情報について

内蔵のソングやCMF形式のソングは、左手の演奏が記録されているパートと、右手の演奏が記録されているパートが別々になっています。これらのソングは、右手、左手それぞれの演奏が、本機のどのパートに割り当てられるかという情報を持っています。この情報をパートチャンネル情報と呼びます。内蔵のソングや、一般的なCMF形式のソングが持っているパートチャンネル情報は、下表のとおりです。

曲のタイプ	左手パート	右手パート
通常のピアノ曲など、両手とも1つの音色で鳴るタイプの曲	SONG SOLO パートグループ のパート3	SONG SOLO パートグループ のパート4
左手パートが自動伴奏、 右手パートがメロ ディーの曲	RHYTHMパー トグループの パート1～8	SONG SOLO パートグループ のパート4

なお、USBメモリーに保存されている標準MIDIファイル(SMF形式)も本機で再生できますが、パートチャンネル情報は持っていません。こうしたソングを再生する際に、**14パートセレクト**を押したときに消音の対象となる右手パートと左手パートを指定したい場合は、下記をご参照ください。

パートチャンネルを指定するには

96ページ「**10機能**ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、101ページ「その他」(Other)→「右手(メロディー)パートチャンネル」(PartR Ch)、「左手パートチャンネル」(PartL Ch)の設定を変更してください。

メモ

- 上記の設定は、パートチャンネル情報を持たないソングのみに対して、再生時に適用されます。パートチャンネル情報を持っているソングでは、その情報が優先され、ここでの設定は無視されます。

USBメモリーのソングを再生する

USBメモリーの“MUSICDAT”フォルダに保存されているMIDIファイル※を、内蔵ソングと同様に再生することができます。USBメモリーにMIDIファイルを保存する操作については、106ページ「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」をご参照ください。

※標準MIDIファイル(SMFフォーマット0/1)、およびカシオMIDIファイル(CMF形式)

USBメモリーのソングを再生するには

1. USBメモリーを本機のUSBメモリー端子に装着します。

- USBメモリーを本機に装着して最初にUSBメモリーを操作するとき、あるいは電源投入後に最初にUSBメモリーを操作するとき、本機のシステムがUSBメモリーとデータをやり取りする準備(マウント)を行うため、一時的に本機の操作ができなくなる場合があります。マウント中は、液晶表示部でUSBインジケータが点滅します。本機がマウントを完了し、操作が可能になるまで数十秒間かかることがあります(この間、液晶表示部には“Listing”と表示されます)。マウント中は、本機を操作しないでください。マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。

2. 34ページ「内蔵のソング1曲を選んで再生するには」を実行します。

- ソング番号は、USBメモリーに保存されているMIDIファイルのファイル名昇順に、自動的に振られます。ファイル名昇順で先頭のMIDIファイルが、ソング番号41番になります。

USB メモリーのオーディオ ファイルを再生する (オーディオモード)

本機はUSBメモリーの“MUSICDAT”フォルダに保存されているオーディオファイル(WAV形式、44.1kHz 16bit)を再生することができます。USBメモリーにオーディオファイルを保存する操作については、106ページ「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」をご参照ください。

メモ

- オーディオファイルの再生中も、通常の鍵盤演奏、レイヤー、スプリットを使った演奏が可能です。
- USBメモリーの取り扱い一般については、103ページ「USBメモリーを使用する」をご参照ください。

オーディオファイルを再生するには

1. 本機で再生することが可能なオーディオファイルが保存されているUSBメモリーを本機に装着します。
2. **7** **ソングバンク**(オーディオ)を、液晶表示部右上にAUDIOインジケーターが点灯するまで長押しします。

AUDIO

点灯

点灯すると本機はオーディオモードに入り、オーディオファイルの再生待機状態になります。

曲番号

ファイル名

001 Absolute

- 曲番号は、USBメモリーに保存されているオーディオファイルのファイル名昇順に、自動的に振られます。

3. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、再生したいオーディオファイルの番号を選びます。
4. 再生を開始するには、**8** **オーディオ再生/停止**を押します。
オーディオファイルの再生が開始され、AUDIO PLAYインジケーターが点灯します。

AUDIO PLAY

点灯

- 再生中は下記の操作が可能です。

これをするには:	このボタンを押す:
次のファイルにスキップ	13 [+]
前のファイルにスキップ	13 [-]

5. 再生を停止するには、**8** **オーディオ再生/停止**を押します。

AUDIO PLAYインジケーターが消灯します。

6. オーディオモードを終了するには、**7** **ソングバンク**(オーディオ)を押します。

AUDIOインジケーターが消灯します。

メモ

- オーディオファイルの再生中にオーディオモードを終了しても、再生は継続されます。この場合も、再生を停止するには**8** **オーディオ再生/停止**を押します。
- オーディオファイルをリピート再生できます。96ページ「**10** 機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「オーディオ再生」(AudioPly)→「オーディオ再生のリピート」(Repeat)の設定をオンにしてください。

オーディオファイルの再生音と鍵盤演奏の音量 バランスを変えるには

96ページ「**10** 機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「オーディオ再生」(AudioPly)→「オーディオ再生の音量」(Volume)の設定を変更してください。

センターキャンセル(ボーカルカット)

オンにすると、オーディオファイル再生音のボーカルをカット(消去、低減)します。センター定位の音をキャンセルする機能ですので、ボーカル以外の音もカットされる場合があります。効果の度合いは、入力する音によって異なります。

96ページ「**10** 機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「オーディオ再生」(AudioPly)→「オーディオ再生のセンターキャンセル(ボーカルカット)」(C Cancel)の設定を変更してください。

自動伴奏をバックに演奏する (リズムモード)

自動伴奏とは、お好みの伴奏リズムを選び、左手でコード(和音)を押すだけで、選んだリズムにあった伴奏(ベースやギターなどの楽器音による演奏)が自動的に鳴る機能です。バンド演奏のようなアンサンブルをバックに、鍵盤演奏をお楽しみいただけます。

本機に内蔵されているリズムを編集して、オリジナルの自動伴奏(ユーザーリズム)を作り保存することもできます。詳細は、66ページ「自動伴奏を作成する(ユーザーリズム)」をご参照ください。

リズムを選ぶ

リズムを選ぶには

1. **6** リズムを押します。

液晶表示部に (リズムインジケーター) が点灯し、リズムモードに入ります。



2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または **11** ダイヤルを使って、リズムの番号を選びます。

- 番号を選ぶ操作については、13ページ「数値の入力について」をご参照ください。
- リズムは複数のカテゴリに分かれており、カテゴリ間で手早く切り替える操作が可能です。詳細は、13ページ「**4** カテゴリボタンについて」をご参照ください。
- リズムのカテゴリと種類の詳細は、別冊「Appendix」をご参照ください。

メモ

- この操作によって、メトロノーム(24ページ)の拍子設定が、選んだリズムの拍子に自動的に変更されます。メトロノーム機能による拍子設定の範囲外であっても、リズムの拍子がメトロノームに適用されます。

3. **20** スタート/ストップを押して、選んだリズムを鳴らしてみましょう。

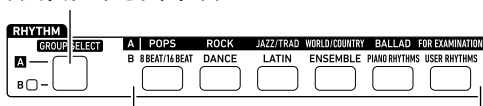
- リズム(ドラムとパーカッション)だけの自動伴奏がスタートします。リズムを止めるには、もう一度 **20** スタート/ストップを押します。

46 リズムカテゴリーボタンでリズムのカテゴリを選ぶには(CT-X5000のみ)

メモ

- 46** リズムカテゴリーボタンを使うと、カテゴリ間で手早くリズムを切り替えることができます。

45 リズムグループセレクトボタン



46 リズムカテゴリーボタン

リズムのカテゴリは、グループAとグループBに分かれています。**45** リズムグループセレクト左側のランプが点灯しているか、消灯しているかで、**46** リズムカテゴリーを押したときにどちらのグループから選べるかが決まります。

1. **45** リズムグループセレクトを押して、グループA(ランプ消灯)またはグループB(ランプ点灯)を選びます。

2. **46** リズムカテゴリーのいずれか1つを押して、希望するカテゴリを選びます。

- 液晶表示部の (リズムインジケーター) が点滅します。
- 押したボタンに対応するカテゴリで前回最後に選んだリズムに切り替わり、 が点滅している間は、カテゴリ内のリズムだけが選択可能な状態になります。(この状態をすぐに解除したい場合は、**6** リズムを押して、 を点灯させます。)

3. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または **11** ダイヤルを使って、鳴らしたいリズムの番号を選びます。

自動伴奏を鳴らす

自動伴奏を鳴らすには

1. 39ページ「リズムを選ぶ」の操作で、鳴らしたいリズムを選びます。

2. **22** [ACCOMP] 伴奏を押して、ACCOMPインジケーターを点灯させます。

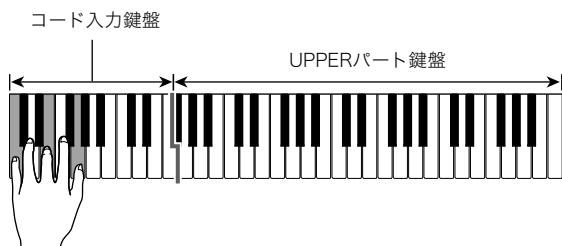


- このインジケーターについては、40ページ「自動伴奏のパートとACCOMPインジケーターについて」をご参照ください。

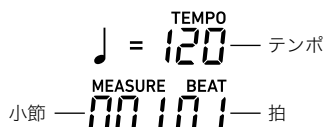
3. **[19]**エンディング/シンクロスタートを押します。
 ・シンクロスタート(42ページ)の待機状態になります。



4. コード入力鍵盤でコードを押さえます。
 コードが入力されて、自動伴奏がスタートします。
 例:コードC(ド・ミ・ソ)を押さえる。



5. **[80]**テンポの[✓]または[△]を使ってテンポを設定します。



- ・テンポは自動伴奏のスタート前でも設定できます。
- ・テンポ設定の詳細は、40ページ「テンポ(速さ)を変える」をご参照ください。

6. 左手でいろいろなコードを押さえて、右手でメロディーを弾きましょう。

- ・簡単にコードを押さえられる「カシオコード」など、コード入力方法にはいくつかの種類があります。44ページ「コードの入力方法を選ぶには」をご参照ください。
- ・**[15]**バリエーション/フィルイン1～**[18]**バリエーション/フィルイン4ボタンで、伴奏に変化をつけることもできます。41ページ「自動伴奏で曲を組み立てる(伴奏パターン)」をご参照ください。

7. 自動伴奏を止めるには、**[20]**スタート/ストップを押します。

- ・**[20]**スタート/ストップではなく**[19]**エンディング/シンクロスタートを押すと、エンディング(終止形)を鳴らして自動伴奏が終了します。41ページ「自動伴奏で曲を組み立てる(伴奏パターン)」をご参照ください。

メモ

- ・上記の操作では、自動伴奏で鳴らすコードを、自分で入力します。ミュージックプリセット機能を使うと、コードを入力しなくても、演奏したい曲のジャンルに応じたコード進行で自動伴奏を鳴らすことができます。詳細は、47ページ「ミュージックプリセットを使う」をご参照ください。

■自動伴奏のパートとACCOMPインジケータについて

本機の自動伴奏は、最大8つのパート(ドラム、パーカッション、ベース、コード1～5)が同時に鳴ります。ACCOMPインジケータは、自動伴奏で鳴らすパートの範囲を表します。

[22]ACCOMP伴奏を押すたびに、ACCOMPインジケータは点灯と消灯の間で切り替わります。

- ・消灯中の自動伴奏は、リズム(ドラムパートとパーカッションパート)だけが鳴ります。
- ・点灯中の自動伴奏は、コード入力鍵盤で指定したコードに従って、ベースやコードなどのパートを含むすべてのパートが鳴ります。

メモ

- ・多数あるパートの一部を手早くオフにしたり、オンに戻したりすることが可能です。詳細は、54ページ「特定パートの音を消す(パートモード)」をご参照ください。
- ・パートごとに音量やエフェクト量などを細かく設定することができます。詳細は、55ページ「ミキサーを使う」をご参照ください。

自動伴奏と鍵盤演奏の音量バランスを変えるには

96ページ「**[10]**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、99ページ「自動伴奏の音量」(AcompVol)の設定を変更してください。

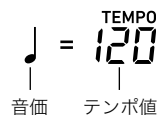
テンポ(速さ)を変える

テンポを変える操作には、下記の2通りがあります。

- ・1分間あたりの拍数を数値で指定する方法
- ・ボタンを2回以上連打して、その間隔でテンポを決める方法(タップ入力)

音価とテンポ値の表示について

現在設定されているテンポ値は、液晶表示部の右上に、常に表示されています。



テンポ値は、音価とセットで表示されます。上の表示例は、現在のテンポ設定が、4分音符で1分あたり120拍であることを表しています。

テンポを数値で指定するには

1. 必要に応じて、音価表示を切り替えます。
 - 下記「音価の表示を切り替えるには」をご参照ください。
2. **80**テンポの[**▼**]または[**▲**]を使って、テンポ値を変更します。

現在の設定値

060 TEMPO

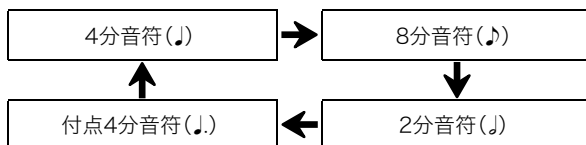
- テンポ値は、現在表示されている音価に応じて、下記の範囲で設定可能です。

音価	テンポ値の範囲
4分音符(♩)	20~255
8分音符(♪)	40~510
2分音符(♨)	10~128
付点4分音符(♩.)	13~170

- 音価として4分音符が表示されているときのテンポ値が、実際の1分あたりの拍数と一致します。8分音符のときは倍の数値、2分音符のときは半分の数値となります。

音価の表示を切り替えるには

1. 音価の表示が切り替わるまで、**81**タップテンポを長押しします。
 - **81**タップテンポを長押しするたびに、下記の順番で音価表示が切り替わります。



ボタンを連打してテンポを決めるには

1. **81**タップテンポを、なるべく一定の間隔になるように、2回以上続けて押します。

ボタンを押した間隔に応じたテンポになります。

 - まずこの方法でおよそのテンポを決めてから、前述の「テンポを数値で指定するには」で微調整をするなど、2種類の方法を組み合わせると便利です。

メモ

- この方法で入力されるテンポ値は、表示中の音価には影響を受けません。上記の操作をしたときに選択されていたリズムに応じて、4分音符または8分音符のテンポ値が入力されます。

81タップテンポボタンでリズムをスタートするには

上記「ボタンを連打してテンポを決めるには」の操作でテンポが指定されると同時に、リズムが自動的にスタートするように設定することが可能です。

96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、101ページ「その他」(Other)→「タップリズムスタート」(Tap Rhy)をオンに切り替えてください。

自動伴奏で曲を組み立てる(伴奏パターン)

一般に1つの曲は、イントロ(前奏)で始まり、主題に移り、間奏など変化が入ったり主題に戻ったりしながら進行し、エンディングに至ります。自動伴奏機能には、こうした曲の進行に合う、多数の伴奏パターンが用意されています。

伴奏パターン一覧

本機の自動伴奏機能が備えている伴奏パターンには、下記があります。

■バリエーション(4種類)

曲の主題や間奏に使うための伴奏パターンです。1小節から数小節のパターンが繰り返されます。

バリエーションを鳴らすには

15バリエーション/フィルイン1~**18**バリエーション/フィルイン4のいずれかを押します。ボタンに応じたバリエーションの伴奏パターンが鳴り始めます。



バリエーション2が鳴っている間のインジケーター

メモ

- **20**スタート/ストップボタンを押すと、バリエーション1のパターンが鳴り始めます。

■フィルイン(4種類)

曲の途中で1小節、または2小節の短いフィルイン(変化フレーズ)を挿入する伴奏パターンです。押したタイミングでフィルインがスタートし、1小節後、または2小節後の1拍目で、元のバリエーション伴奏パターンに戻ります。

フィルインを鳴らすには

バリエーション1が鳴っているときは、**[15]バリエーション/フィルイン1**を押します。他のバリエーションが鳴っている場合も同様に、現在鳴っているバリエーションに対応するボタンを押します。



フィルイン1が鳴っている間のインジケーター

■イントロ(1種類)

曲の始めに使うための伴奏パターンです。数小節のイントロ伴奏パターンが鳴った後で、バリエーション1に移行します。

イントロを鳴らすには

[14]イントロを押します。

イントロ後に移行するバリエーションを変えるには

イントロが鳴っている間に、イントロ終了後に鳴らしたいバリエーションのボタン(**[16]バリエーション/フィルイン2**~**[18]バリエーション/フィルイン4**のいずれか)を押します。



イントロが鳴っている間のインジケーター

■エンディング(1種類)

曲の終わりに使うための伴奏パターンです。数小節のエンディングを鳴らして、自動伴奏が終了します。

エンディングを鳴らすには

自動伴奏が鳴っているときに、**[19]エンディング/シンクロスタート**を押します。



エンディングが鳴っている間のインジケーター

コード入力鍵盤で自動伴奏を開始、終了する(シンクロスタート、シンクロストップ)

コード入力鍵盤でコードを押さえると同時に自動伴奏をスタートさせたり(シンクロスタート)、すべての指をコード入力鍵盤から離れたタイミングで自動伴奏をストップさせたり(シンクロストップ)することができます。

シンクロスタートで自動伴奏を開始するには

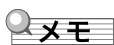
1. **[19]エンディング/シンクロスタート**を押します。シンクロスタートの待機状態になり、SYNC STARTインジケーターと **V 1** インジケーターが点滅します。



点滅

- イントロからスタートしたい場合は、ここで**[14]イントロ**を押します。**[1]**インジケーターが点滅します。
- スタート時どのバリエーションを鳴らすか選ぶには、ここで**[16]バリエーション/フィルイン1**~**[18]バリエーション/フィルイン4**のいずれかを押します。押したボタンに応じて、**V**インジケーターと、数字のインジケーター(1~4)の1つが点滅します。

2. コード入力鍵盤でコードを押さえます。自動伴奏がスタートします。



- シンクロスタートの待機状態から抜けるには、**[19]エンディング/シンクロスタート**を押します。

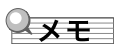
シンクロストップで自動伴奏を終了するには

1. **[21]シンクロストップ**を押します。シンクロストップの待機状態になります。



点灯

2. 自動伴奏が鳴っているときに、自動伴奏をストップしたいタイミングで、コード入力鍵盤からすべての指を離します。自動伴奏がストップします。
 - このとき、自動的にシンクロスタートの待機状態になります。



- シンクロストップの待機状態から抜けるには、**[21]シンクロストップ**を押します。

コード入力鍵盤の設定を変更する

コードの入力方法について

コードの入力方法は、下記の6種類から選べます。

- カシオコード
- フィンガード1
- フィンガード2
- フィンガードオンベース
- フィンガードアシスト
- フルレンジコード

選び方については、44ページ「コードの入力方法を選ぶには」をご参照ください。

■カシオコードについて

簡単な指使いで下記の4種類のコードを演奏できます。

コードの種類

メジャーコード

コード名と同じ音名の鍵盤を1つ押します(コード入力鍵盤の範囲内であれば、1オクターブ違う同音でもかまいません)。

例: C(Cメジャー)



マイナーコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を1つ押します。

例: Cm(Cマイナー)



セブンスコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を2つ押します。

例: C7(Cセブンス)



マイナーセブンスコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を3つ押します。

例: Cm7(Cマイナーセブンス)



- 2つ目以降の鍵盤は、1つ目より右側なら白鍵・黒鍵を問わずどれでも使用できます。

■フィンガードについて

コード構成音のままに鍵盤を押さえて入力する方法です。一部のコードでは構成音を省略して、1〜2鍵でも入力できます。入力できるコードの種類と鍵盤の押さえ方については、124ページ「指定できるコード種一覧」をご参照ください。

●フィンガード1

コードの構成音の鍵盤を押さえます。

●フィンガード2

フィンガード1とは違い、6thの入力はできません。m7、m7⁵の入力ができます。

●フィンガードオンベース

フィンガード1とは違い、一番低い鍵盤の音をベース音として分数コードが入力できます。

●フィンガードアシスト

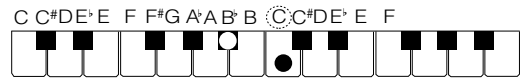
2鍵押し、3鍵押しの場合、フィンガード1と異なります。ルートキーとルートキーより左側の白鍵を押さえると7thコード、ルートキーより左側の黒鍵を押さえるとmコード、両方押さえるとm7コードになります。フィンガード1の押さえ方に加えて、3種類のコードを下記の手順で演奏できます。

コードの種類

マイナーコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより左の最も近い黒鍵を押します。

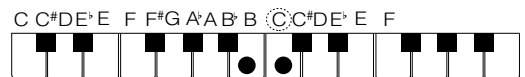
例: Cm(Cマイナー)



セブンスコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより左の最も近い白鍵を押します。

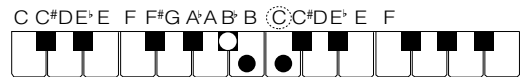
例: C7(Cセブンス)



マイナーセブンスコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより左の最も近い黒鍵と白鍵を押します。

例: Cm7(Cマイナーセブンス)



■フルレンジコードについて

すべての鍵盤でコードの入力とメロディー演奏ができます。入力できるコードの種類については、124ページ「指定できるコード種一覧」をご参照ください。

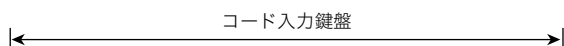
コードの入力方法を選ぶには

1. **10**機能を押します。
2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“ChordMod”を表示します。
3. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
 - 設定値と指定されるコードの入力方法の対応は、下記のとおりです。

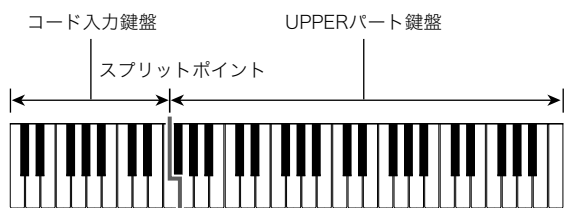
設定値	コードの入力方法	表示
1	カシオコード	CASIO Cd
2	フィンガード1	Fingerd1
3	フィンガード2	Fingerd2
4	フィンガードオンベース	FgOnBass
5	フィンガードアシスト	FgAssist
6	フルレンジコード	FulRange

- 選択したコードの入力方法に応じて、コード入力鍵盤の範囲は下図のようになります。なお、下図のスプリットポイント(18ページ)は、初期設定の場合です。

■ フルレンジコードの場合



■ フルレンジコード以外の場合



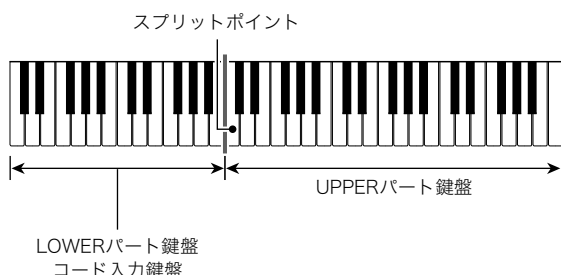
4. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

コード入力鍵盤の範囲設定について

スプリットポイント(18ページ)を指定すると、コード入力鍵盤はLOWERパート鍵盤と同じ範囲になりますが、それぞれの範囲を個別に指定することもできます。また、LOWERパート鍵盤とコード入力鍵盤が重なる範囲では、LOWERパートの音を鳴らさないようにすることが可能です。こうした設定についての詳細は、44ページ「スプリットの詳細設定」をご参照ください。

スプリットの詳細設定

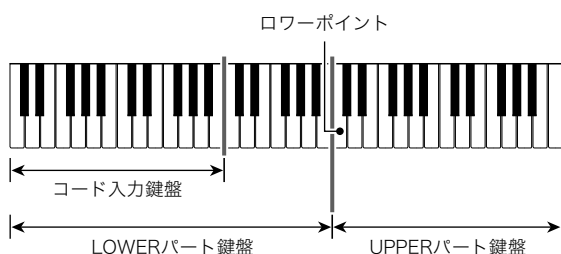
本機では、鍵盤をUPPERパート鍵盤、LOWERパート鍵盤、コード入力鍵盤という3つの用途で使います。スプリットポイント(18ページ)を指定すると、鍵盤は下図の状態になります。



「ローポイント」や「コードポイント」を指定することで、LOWERパート鍵盤とコード入力鍵盤を異なる鍵域に割り当てることが可能です。

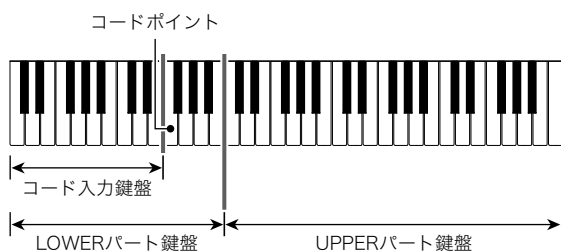
● ローポイント

UPPERパート鍵盤の下限を指定することで、鍵盤は下図の状態になります。コード入力鍵盤の範囲は変わりません。



● コードポイント

下図に従って、コードポイントとなる鍵盤を指定します。LOWERパート鍵盤の範囲は変わりません。



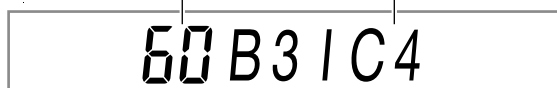
- 「コード入力優先モード」(45ページ)をオンにすると、LOWERパート鍵盤とコード入力鍵盤が重なる範囲で、LOWERパートの音を鳴らさないように設定可能です。

ローポイント指定するには

1. “Split Pt”と表示されるまで、**[F5]** スプリットを押したままにします。
2. **[12]** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って“Lower Pt”を表示します。
3. **[13]** [-]、[+]、または**[11]** ダイヤルを使って、ローポイント(UPPERパート鍵盤の下限)を音名で指定します。

ローポイントのノートナンバー

ローポイントの音名



- **[F5]** スプリットを押したまま鍵盤を押すと、押した鍵盤がローポイントとして指定されます。

重要

- ローポイントとして、コードポイントよりも下(左)の鍵盤は指定できません。指定した場合、コードポイントが強制的にローポイントと同じ鍵盤に指定されます。

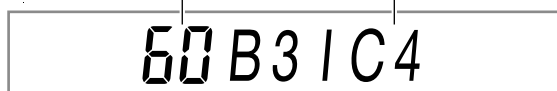
4. **[12]** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

コードポイント指定するには

1. “Split Pt”と表示されるまで、**[F5]** スプリットを押したままにします。
2. **[12]** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って“Chord Pt”を表示します。
3. **[13]** [-]、[+]、または**[11]** ダイヤルを使って、コードポイントを音名で指定します(44ページ)。

コードポイントのノートナンバー

コードポイントの音名



- **[F5]** スプリットを押したまま鍵盤を押すと、押した鍵盤がコードポイントとして指定されます。

重要

- コードポイントとして、ローポイントよりも上(右)の鍵盤は指定できません。指定した場合、ローポイントが強制的にコードポイントと同じ鍵盤に指定されます。

4. **[12]** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

コード入力優先モードのオン/オフを切り替えるには

1. “Split Pt”と表示されるまで、**[F5]** スプリットを押したままにします。
2. **[12]** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って“CdPrior”を表示します。
3. **[13]** [-]または[+]を使って、コード入力優先モードのオン/オフを切り替えます。
 - オンにすると、LOWERパート鍵盤とコード入力鍵盤が重なる範囲では、LOWERパートの音が鳴らなくなります。
4. **[12]** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

お勧めの音色やテンポにする(ワンタッチプリセット)

ワンタッチプリセットとは、リズムパターンごとにそのリズムによく合った音色やテンポを、ワンタッチで呼び出すことができる機能です。

1. 液晶表示部に音色名が表示されるまで、**[6]** リズムを押したままにします。
鍵盤の音色やテンポなどが現在選択されているリズムに対応した設定にセットされます。
2. 鍵盤でコードを押さえて演奏します。
自動伴奏も同時にスタートします。

メロディーの音に和音をつける (オートハーモナイズ)

右手で弾くメロディーの音に和音を追加して、メロディーに厚みをつけます。和音の追加のしかたを12種類(タイプ)の中から選べます。

- オートハーモナイズ機能とアルペジエーター機能(25ページ)は、1つのボタンを共有しています。オートハーモナイズ機能を使える状態にすると、アルペジエーター機能は使えなくなります。

オートハーモナイズ機能をオンにするには

1. **34**オートハーモナイズ/アルペジエーターを押して、液晶表示部にAUTO HARMONIZEインジケータを点灯させます。



- コード入力鍵盤でコードを押さえながらUPPERパート鍵盤でメロディーを弾くと、メロディー音に和音が加わります。
2. オートハーモナイズ機能をオフにするには、**34**オートハーモナイズ/アルペジエーターを押します。
AUTO HARMONIZEインジケータが消灯します。

❗ 重要

- 手順1で、AUTO HARMONIZEインジケータではなくARPEGGIATORインジケータが点灯した場合は、ボタンの割り当てを変更する必要があります。
96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、98ページ「オートハーモナイズ/アルペジエーター」(AHar/Arp)→「オートハーモナイズ/アルペジエーターボタンの割り当て」(BtnAssign)の設定を“1 A.Har.”に切り替えてください。

オートハーモナイズのタイプを選ぶには

- 「オートハーモナイズ機能をオンにするには」の操作で、液晶表示部にAUTO HARMONIZEインジケータを点灯させます。
- FUNCTIONインジケータが点滅するまで、**34**オートハーモナイズ/アルペジエーターを長押しします。
現在選択されているオートハーモナイズのタイプ番号と名前が表示されます。
- 13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、オートハーモナイズのタイプを選びます。
 - タイプの詳細は、46ページ「オートハーモナイズのタイプ一覧」をご参照ください。
- 12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

■オートハーモナイズのタイプ一覧

設定値	タイプ名	内容
01	Duet 1	演奏したメロディーの下に、クローズな(2～4度ほど離れた)ハーモニーを1音加えます。
02	Duet 2	演奏したメロディー音の下に、オープンな(4～6度以上離れた)ハーモニーを1音加えます。
03	Country	カントリーの演奏に適したハーモニーを加えます。
04	Octave	1オクターブ下の音を加えます。
05	5th	5度上の音を加えます。
06	3-Way Open	2声(演奏したメロディーと合わせて3声)のオープンハーモニーを加えます。
07	3-Way Close	2声(演奏したメロディーと合わせて3声)のクローズハーモニーを加えます。
08	Strings	ストリングス演奏に適したハーモニーを加えます。
09	4-Way Open	3声(演奏したメロディーと合わせて4声)のオープンハーモニーを加えます。
10	4-Way Close	3声(演奏したメロディーと合わせて4声)のクローズハーモニーを加えます。
11	Block	ブロックコード音を加えます。
12	Big Band	ビッグバンド演奏に適したハーモニーを加えます。

ミュージックプリセットを使う

ミュージックプリセットは、コード進行データ付きのセットアップ集です。音楽のジャンルや曲調に合う、音色やリズムなどの設定データ+自動伴奏のコード進行データのセット310種類から選んで、ワンタッチで呼び出すことができます。ミュージックプリセットのカテゴリーと種類の一覧は、別紙「Appendix」をご参照ください。

ミュージックプリセットを使って演奏するには

1. **6**リズムを押します。
2. ACCOMPインジケータが点滅を始めるまで、**22**[ACCOMP]伴奏を長押しします。

ミュージックプリセット番号

ミュージックプリセット名

00 1 Soft Pop

- ACCOMPインジケータの点滅は、本機がミュージックプリセットモードに入ったことを表します。

3. **12**数字ボタン、**13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、ミュージックプリセットの番号を選びます。
ミュージックプリセット名の表示が切り替わります。同時に、その名前が表すジャンルや曲調に合った音色、リズム、コード進行などの設定が呼び出されます。
 - 番号を選ぶ操作については、13ページ「数値の入力について」をご参照ください。
 - ミュージックプリセットは9のカテゴリーに分かれています。カテゴリーを、例えばダンス系からクラシック系へ、手早く切り替える操作が可能です。詳細は、13ページ「**4**カテゴリーボタンについて」をご参照ください。
4. **20**スタート/ストップまたは**14**イントロを押します。
プリセットのコード進行による自動伴奏がスタートします。
5. 自動伴奏にあわせて曲を弾いてみましょう。
6. 自動伴奏を止めるには、**20**スタート/ストップ、または**19**エンディング/シンクロスタートを押します。
7. ミュージックプリセットモードから抜けるには、**22**[ACCOMP]伴奏を押します。
 - このときの音色やリズムは、ミュージックプリセットモードで選ばれていた状態が維持されます。

メモ

- ミュージックプリセットによっては、手順3で番号を選ぶと同時にSYNC STARTインジケータが点滅し、シンクロスタート(42ページ)の待機状態になるものがあります。この場合は、手順4で**20**スタート/ストップを押す代わりに鍵盤演奏を開始すると、自動伴奏が同時にスタートします。シンクロスタート待機状態でできる操作についての詳細は、42ページ「シンクロスタートで自動伴奏を開始するには」の手順1をご参照ください。
- ミュージックプリセットを使った演奏中は、各種伴奏パターン(41ページ)の操作が可能です。
- ミュージックプリセットを使った演奏中は、下記の操作はできません。
 - リズムの切り替え(39ページ)
 - シンクロストップの操作(42ページ)
 - ワンタッチプリセットの操作(45ページ)
 - レジストレーション機能の利用(58ページ)

コード進行のキーを変更するには

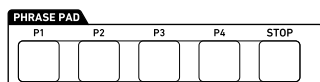
96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、101ページ「その他」(Other)→「ミュージックプリセットのキー変更」(MP Key)の設定を変更してください。

ミュージックプリセットで変更される各種設定について

ミュージックプリセットを選ぶたびに、本機の下記設定が自動的に切り替わります。切り替わった設定状態は、ミュージックプリセットモードから抜けた後も維持されます。

- テンポ
- レイヤー(オン/オフ)
- スプリット(オン/オフ)
- **34**オートハーモナイズ/アルペジエーターボタンの割り当て
- オートハーモナイズ(オン/オフ、タイプ)
- アルペジエーター(オン/オフ、タイプ)
- アルペジエーターホールド(オン/オフ)
- 音色番号(UPPER 1、LOWER 1、UPPER 2、LOWER 2の各パート)
- オクターブシフト(UPPER 1、LOWER 1、UPPER 2、LOWER 2の各パート)
- リバース、コーラス、ディレイ(オン/オフ、タイプ)

フレーズパッドを使う



4つのフレーズパッドには、それぞれに短いフレーズを録音して、割り当てることができます。パッドを押すと、録音したフレーズが繰り返し鳴ります(ループ再生)。フレーズは単独で鳴らしたり、複数を同時に鳴らしたりできます。下記の説明では、各フレーズパッドに割り当てられているフレーズのことを、「フレーズ1」～「フレーズ4」と呼びます。

■フレーズセットとフレーズの保存場所について

4つのフレーズパッドに割り当てられる4つのフレーズ1組のことを、フレーズセットと呼びます。フレーズセットは1番から25番まであり、最大100個(4フレーズ×25セット)のフレーズ(ユーザーフレーズ)が保存可能です。フレーズを録音する際の保存場所は、フレーズセット番号(1～25)とフレーズ番号(1～4)で指定します。

フレーズセットを切り替える

現在フレーズパッドに割り当てられているフレーズセットとは別のフレーズセットを呼び出すには、下記の操作でセットを切り替えます。

フレーズセットを切り替えるには

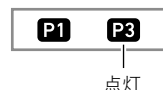
1. **10**機能を押します。
2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Phr Pad”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Phr Set”と表示されます。この状態で、フレーズセット番号を選ぶことができます。
3. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、フレーズセット番号を選びます。
4. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

フレーズの再生を開始/停止する

フレーズの再生を開始する前に、必要に応じてフレーズセットを切り替えてください。詳細は、48ページ「フレーズセットを切り替える」をご参照ください。

フレーズの再生を開始/停止するには

1. フレーズパッドの1つ(例: **26**フレーズパッドの[P1])を押します。
フレーズ1の再生が始まり、P1インジケーターが点灯します。
2. 別のフレーズパッド(例: **26**フレーズパッドの[P3])を押します。
フレーズ3の再生が始まり、フレーズ1とフレーズ3が同時に鳴ります。P1に加え、P3インジケーターが点灯します。



3. 1つのフレーズだけを停止するには、**27**ストップを押したまま、停止したいフレーズが割り当てられている**26**フレーズパッドを押します。
例えば**27**ストップを押したまま**26**フレーズパッドの[P1]を押すとフレーズ1だけが止まり、フレーズ3は鳴り続けます。P1インジケーターは消灯します。



4. フレーズが1つだけ再生されているときにそのフレーズを停止するには、**27**ストップを押します。
• 手順3と同様の操作でも停止できます。



- 再生中フレーズのパッドを押すと、再生がフレーズ先頭から再開されます。

すべてのフレーズの再生を停止するには

1. 複数のフレーズが再生されているときに、すべてのフレーズの再生を停止するには、**27**ストップを押します。

フレーズの再生と自動伴奏を同時に開始するには

メモ

- 下記の操作では、手順2で何らかの操作(**20**スタート/ストップや**14**イントロを押すなど)により自動伴奏を開始すると同時に、フレーズの再生も開始されます。

- 19**エンディング/シンクロススタートを押したまま、自動伴奏と同時に再生を開始させたいフレーズパッドの1つ(例:**26**フレーズパッドの[P1])を押します。



- 複数フレーズの再生を同時に開始したい場合は、他のフレーズパッドでも同様の操作を繰り返します。
- フレーズと自動伴奏の同時再生待機状態を解除するには、**19**エンディング/シンクロススタートを押したまま、解除対象のフレーズパッドを押します。

- 20**スタート/ストップを押して、自動伴奏を開始します。

自動伴奏とフレーズの再生が同時に始まります。

フレーズの再生設定を変更する

各フレーズパッド(1~4)を押したときに、パッドに割り当てられているフレーズがどのように再生されるかを設定します。ここで変更した設定は、各フレーズパッドに記録されます。

フレーズの再生設定を変更するには

- 再生設定の対象となるフレーズパッドを指定します。
 - 10**機能を押して、FUNCTIONインジケータを点灯させます。
 - 12**数字ボタンの[1](**△**)または[3](**▽**)を使って“Phr Pad”を表示し、[6](エンター)を押します。“Phr Set”と表示されます。
 - [1](**△**)または[3](**▽**)を使って、再生設定の対象となるフレーズパッド(“Pad 1”~“Pad 4”)を指定し、[6](エンター)を押します。
- [1](**△**)または[3](**▽**)を使って、設定を変更したい項目を選びます。
 - 設定項目については、下記「フレーズ再生時の設定項目」をご参照ください。
- 13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定を変更します。
 - 設定を変更したい項目ごとに、手順2と3を繰り返します。
- 12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

フレーズ再生時の設定項目

項目名 (表示)	内容	設定範囲
ループ再生 (Loop)	ループ再生するかどうかを指定します。 オフ(Off):フレーズを終わりまで再生して停止します。 オン(On):フレーズをループ再生します。	オン、オフ
キーシフト (KeyShift)	再生時の音高を半音単位で変えます。設定値が低いと再生時に音高が低く、設定値が高いと音高が高くなります。	-24~24
タイミング 同期 (TimingSy)	フレーズパッドを押したときにフレーズが鳴り始めるタイミングや再生の速さを、すでに再生されている自動伴奏、フレーズ、MIDIレコーダーで録音したソングと同期させるかどうか決めます。 オフ(Off):同期しません。 Beat:拍単位で強制的にずれを補正します。 Measure:小節単位で強制的にずれを補正します。	オフ、 Beat、 Measure
コード同期 (ChordSyn)	この機能をオン(On)にすると、鳴らしている自動伴奏のコードに応じて、フレーズの音高が自動的に補正されます。 <注意> 必ずCメジャー(ハ長調)で演奏したフレーズを録音したうえで、この機能をオンにして使いたいパッドに割り当ててください。この機能には、Cメジャーで録音したフレーズだけが適合します。	オン、オフ
ブレイク ポイント (Break Pt)	「コード同期」がオンの場合に適用される設定です。CからBの間で、そのキー(調)を超えるとオクターブ下げてフレーズを発音させるポイント(Break Point)を指定します。	C~B

フレーズを録音する

フレーズは、手弾き演奏を録音して作成します。1つのフレーズにつき、16小節以内の小節数を設定して、最大約1,000音符まで録音できます。フレーズパッドを押すとフレーズがループ再生されるのと同様に、録音時も、設定した小節数の終わりに到達したら先頭小節に戻る「ループ録音」になります。録音済みの内容を聴きながら演奏し、音を追加していくことができます。



- 録音中に録音できる残り音符数が100以下になると、RECORDインジケータが点滅します。残りがなくなると、録音は自動的に終了し、インジケータが消灯します。

フレーズを録音するには

1. フレーズ録音に使う音色を選びます。
 - 16ページ「音色を選ぶ」をご参照ください。
 - レイヤーやスプリットは使えません。
2. **10**機能を押します。
3. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Phr Pad”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Phr Set”と表示されます。
4. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、フレーズの録音に使うフレーズセット番号を選びます。
5. **8**録音/停止を押します。
録音待機状態になり、RECORDインジケータが点滅します。また、P1インジケータが点滅します。



- 録音済みのフレーズがあるフレーズパッドに対応するインジケータ(P2~P4)は、点灯します。
 - フレーズパッドのP1に録音済みのフレーズがある場合でも、この時点ではP1インジケータは点滅します。フレーズパッドのP1に録音済みのフレーズがあるかどうかは、手順6で[P1]以外の**26**フレーズパッドを押すと、P1インジケータの点灯、消灯の状態わかります。
 - ミキサー設定を変更したい場合は、ここで55ページ「ミキサー設定を変更するには」を実行してください。KEYBOARDパートグループのパート6(フレーズパッド1)~パート9(フレーズパッド4)が、設定変更の対象となります。
6. 録音先のフレーズ番号を、**26**フレーズパッドの[P1]~[P4]のいずれかを押して選びます。
 - 押したパッドに対応するインジケータ(P1~P4)が点滅します。

7. 録音を開始するには**20**再生/停止を押すか、鍵盤を弾きます。

鍵盤を弾くと、自動的に録音が始まります。

RECORDインジケータが点灯します。

- 液晶表示部の右上の小節と拍表示がカウントアップします。編集対象のフレーズに設定されている小節数※の最後の拍まで到達すると、001:01からカウントが再開されます。



※小節数の設定については、下記「フレーズの録音設定を変更する」をご参照ください。

8. 小節、拍の表示でタイミングを確認しながら、鍵盤で演奏します。

- 録音された内容は、録音した小節、拍に表示が戻ると、再生されます。再生を聴きながら、何度も重ねて録音できます。
- 録音中に鳴る再生音は、KEYBOARDパートグループのパート6(フレーズパッド1)~パート9(フレーズパッド4)で発音されています。フレーズ録音中の再生音に対するミキサー設定を変更したい場合は、現在録音中のパッドに対応するパートを、55ページ「ミキサー設定を変更するには」の操作対象として選んでください。

9. 録音を終了するには、**3**録音/停止を押します。
RECORDインジケータが消灯します。

フレーズの録音設定を変更する

フレーズの録音設定を変更すると、次回以降の録音時も、その設定が適用されます。新たなフレーズを録音する際は、必要に応じて録音設定を変更してください。

フレーズの録音設定を変更するには

1. **10**機能を押します。
2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Phr Pad”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Phr Set”と表示されます。
3. **8**録音/停止を押します。
RECORDインジケーターが点滅します。
4. “Length”と表示されるまで、**8**録音/停止を長押しします。
• フレーズの録音設定が変更できる状態になります。
5. [1]()または[3]()を使って、設定を変更したい項目を選びます。
• 設定項目については、51ページ「フレーズ録音時の設定項目」をご参照ください。
6. 設定が済んだら、**8**録音/停止を押します。
RECORDインジケーターが消灯します。

フレーズ録音時の設定項目

項目名 (表示)	内容	設定範囲
小節数 (Length)	録音するフレーズの長さを小節数で指定します。	1～16
クオンタイズ (Quantize)	鍵盤を押したとおりのタイミングで音符を記録するか、基準となる音価に合わせて音符のタイミングを自動的に補正するかを指定します。オフ(Off)以外の設定値は音価を表します(“4”は4分音符、“d”は付点音符、“t”は3連符)。	オフ、4、8、16、32、4d、8d、16d、32d、4t、8t、16t、32t
メトロノーム (Metronom)	録音時にメトロノームを鳴らすか、鳴らさないかを設定します。	オン、オフ
プレカウント (Precount)	録音時にプレカウント(録音開始までのカウント音)を鳴らすか鳴らさないかを設定します。	オン、オフ

フレーズセットを管理する

フレーズセットの消去、コピーの操作ができます。

フレーズセットをコピーするには

1. 48ページ「フレーズセットを切り替えるには」の手順1～3の操作で、コピー元になりたいフレーズセット番号を選びます。
2. 液晶表示部に“Copy”と表示されるまで、**8**録音/停止を長押しします。
3. **12**数字ボタンの[6](エンター)を押します。
“Phr Set”と表示され、コピー先の選択待機状態になります。
4. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、コピー元になりたいフレーズセット番号を選びます。
• コピー先には、必ず空エリアを指定してください。
5. [6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
6. 実行してよい場合は**13**[+] (はい)を、中止するには**13**[-] (いいえ)を押します。
• **13**[+] (はい)を押すと、“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
7. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

フレーズセットを消去するには

1. 48ページ「フレーズセットを切り替えるには」の手順1～3の操作で、消去したいフレーズセット番号を選びます。
2. 液晶表示部に“Copy”と表示されるまで、**8**録音/停止を長押しします。
3. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Clear”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
4. 消去してよい場合は**13**[+] (はい)を、中止するには**13**[-] (いいえ)を押します。
• **13**[+] (はい)を押すと、“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
5. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

フレーズを編集する

個別のフレーズに対する編集操作です。フレーズの消去、コピー、クオンタイズ、キーシフト、およびミキサー設定が可能です。

- クオンタイズは、基準となる音価に合わせて、録音されている音のタイミングを自動的に補正する操作です。
- キーシフトは、録音されている音の音高を半音単位ですらす操作です。

フレーズを編集するには、フレーズエディットモードに入ります。

フレーズエディットモードに入るには

1. **10**機能を押します。
2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Phr Pad”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Phr Set”と表示されます。
3. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、編集対象のフレーズが含まれているフレーズセット番号を選びます。
4. EDITインジケーターが点灯するまで、**10**機能を長押しします。



- フレーズのエディットモードに入ります。このとき液晶表示部には“Claer”と表示されます。

フレーズを消去するには

1. 52ページ「フレーズエディットモードに入るには」の操作で、フレーズエディットモードに入ります。
2. **12**数字ボタンの[6](エンター)を押します。
“Phrase”と表示され、P1インジケーターが点滅します。
3. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って消去したいフレーズ番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
4. 実行してよい場合は**13**[+] (はい)を、中止するには**13**[-] (いいえ)を押します。
 - **13**[+] (はい)を押すと、“Wait...” (実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete” (完了)と表示されます。
5. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

フレーズをコピーするには

1. 52ページ「フレーズエディットモードに入るには」の操作で、フレーズエディットモードに入ります。
2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Copy”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Src Set”と表示されます。
3. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使ってコピー元のフレーズを含むフレーズセットの番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Src Phr”と表示され、P1インジケーターが点灯します。
4. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使ってコピー元になりたいフレーズ番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Dst Phr”と表示され、P1インジケーターが点滅します。
5. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使ってコピー先にしたいフレーズ番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
6. 実行してよい場合は**13**[+] (はい)を、中止するには**13**[-] (いいえ)を押します。
 - **13**[+] (はい)を押すと、“Wait...” (実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete” (完了)と表示されます。
7. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

フレーズからノートイベントを除くすべてのデータを消去するには

1. 52ページ「フレーズエディットモードに入るには」の操作で、フレーズエディットモードに入ります。
2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Other Clr”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Phrase”と表示され、P1インジケーターが点滅します。
3. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使ってノートイベントを除くすべてのデータを消去したいフレーズの番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
4. 実行してよい場合は**13**[+] (はい)を、中止するには**13**[-] (いいえ)を押します。
 - **13**[+] (はい)を押すと、“Wait...” (実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete” (完了)と表示されます。
5. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

フレーズをクオンタイズするには

- 52ページ「フレーズエディットモードに入るには」の操作で、フレーズエディットモードに入ります。
- 12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Quantize”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Phrase”と表示され、P1インジケーターが点滅します。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使ってクオンタイズしたいフレーズ番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Value”と表示されます。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、クオンタイズの基準となる音価を指定します。

表示	設定内容
4、8、16、32	それぞれ4分音符、8分音符、16分音符、32分音符を表します。
4d、8d、16d、32d	付点音符を表します。
4t、8t、16t、32t	三連符を表します。

- [6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
- 実行してよい場合は**13** [+] (はい) を、中止するには**13** [-] (いいえ) を押します。
 - 13** [+] (はい) を押すと、“Wait...” (実行中) と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete” (完了) と表示されます。
- 12** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

フレーズをキーシフトするには

- 52ページ「フレーズエディットモードに入るには」の操作で、フレーズエディットモードに入ります。
- 12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“KeyShift”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Phrase”と表示され、P1インジケーターが点滅します。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使ってキーシフトしたいフレーズ番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Value”と表示されます。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、キーシフトの設定値を指定します。
 - 24~24の範囲で設定します。設定値が1下がるごとに半音下がり、1上がるごとに半音上がります。

- [6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
- 実行してよい場合は**13** [+] (はい) を、中止するには**13** [-] (いいえ) を押します。
 - 13** [+] (はい) を押すと、“Wait...” (実行中) と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete” (完了) と表示されます。
- 12** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

フレーズのミキサー設定を変更するには

- 52ページ「フレーズエディットモードに入るには」の操作で、フレーズエディットモードに入ります。
- 9** パート(ミキサー)を、MIXERインジケーターが点灯するまで長押しします。
KEYBOARDインジケーターと、ミキサーパートインジケーターの**6**が点灯します。
 - ミキサーパートインジケーター**6**~**9**が、それぞれフレーズ番号1~4に対応します。
- 12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って、ミキサー設定の対象フレーズを選びます。
- 12** 数字ボタンの[2]()または[5]()を使って、変更対象のメニュー項目を表示します。
 - アスタリスク(*)付きの設定値は、初期設定です。

項目名(表示)	内容	設定範囲
音色(Tone)	フレーズの音色を切り替えます。	0~900
音量(Volume)	フレーズの音量を調節します。	0~100*~127
パン(Pan)	フレーズのステレオ定位を調節します。0が中央で、数値が小さいほど左へ、大きいほど右へステレオ定位が移動します。	-64~0*~63
リバーブセンド (Rev Send)	選択したパートに対するリバーブのかかり具合を調節します。	0~40*~127
コーラスセンド (Cho Send)	選択したパートに対するコーラスのかかり具合を調節します。	0*~127
ディレイセンド (Dly Send)	選択したパートに対するディレイのかかり具合を調節します。	0*~127

- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
- 12** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

特定パートの音を消す (パートモード)

本機は自動伴奏や鍵盤演奏で、同時に多数のパートを使って音を鳴らします。パートオン/オフ機能を使うと、特定のパートをいくつか選んで消したり、再び鳴らしたりする操作が、簡単に実行できます。例えば自動伴奏のドラム、パーカッション、ベースパートだけを残して、その他のパートすべてを消すといった操作が可能です。

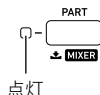
パートのオン/オフを切り替える

自動伴奏の各パートをオン/オフする操作を例に説明します。自動伴奏を鳴らしながら操作すると、パートのオン/オフによる違いが実感できます。

各パートのオン/オフを切り替えるには

1. 9パートを押します。

ボタン左側のランプが点灯します(パートモード)。



液晶表示部には、現在選択されているパートグループの名前が表示されます。

1-9 Keyboard

- パートグループの詳細は、54ページ「パートオン/オフ機能のパートグループについて」をご参照ください。

2. 13[-]または[+]を使って、パートをオン/オフする対象パートグループを選びます。

- ここでは、RHYTHMインジケータを点灯させます。RHYTHMインジケータの点灯中は、自動伴奏の各パートをオン/オフできます。現在鳴っている(オンの状態である)自動伴奏パートに対応した番号のミキサーパートインジケータが点灯します。

ミキサーパートインジケータ
(オンのパートが点灯)



- ミキサーパートインジケータの番号と、パートの対応については、56ページ「ミキサーのパートグループ別パート一覧」をご参照ください。

3. パートのオン/オフを切り替えるには、パートの番号に対応した12数字ボタンを押します。

- 例えば12数字ボタンの[2]を押すたびに、ドラムパートのオフ(2インジケータ消灯)/オン(2インジケータ点灯)が切り替わります。
- SONG SOLOとMIDI INパートグループには16のパートがあるため、一度に8パートずつ(1~8パートまたは9~16パート)が表示されます。9~16パートの表示中は、パート番号から8を引いた数の12数字ボタンを押してください。例えばパート16の場合は、12数字ボタンの[8]を押します。

4. パートモードから抜けるには、9パートを押します。

- パートモードから抜けた後も、パートのオン/オフ状態は維持されます。

パートオン/オフ機能のパートグループについて

上記で説明した自動伴奏以外にも、手弾きの鍵盤演奏やソング再生、外部からのMIDIメッセージによる発音などで、本機は異なるパートを使っています。パートオン/オフ機能では、これらをいくつかのパートグループに分けて管理しています。

■パートグループ/インジケータ一覧

パートグループ名 (インジケータ)	内容
鍵盤演奏 (KEYBOARD)	手弾き演奏パート、フレーズパッド 1~4、オートハーモナイズの各パート
自動伴奏(RHYTHM)	自動伴奏の各パート
ソング・システム (SONG SYSTEM)	MIDIレコーダーのシステムトラック の各パート(パート構成は “KEYBOARD”と同じです。)
ソング・ソロ (SONG SOLO)※1	ソングバンクのソング、およびMIDI レコーダーのソロトラックの各 パート
MIDI入力(MIDI IN)※1	MIDI INの各パート
マイク入力(E※2)	マイク入力パート

※1 ソング・ソロとMIDI入力は同じ音源パートを使用しているため、同じパート番号のパラメーターは共用されます。

※2 ミキサーパートインジケータの右端にEが表示されます。マイク入力パートがオンのときは、ミキサーパートインジケータの1が点灯します。

- パートグループに含まれるパートと、ミキサーパートインジケータの番号の対応については、56ページ「ミキサーのパートグループ別パート一覧」をご参照ください。

ミキサーを使う

本機は自動伴奏や鍵盤演奏で、同時に多数のパートを使って音を鳴らします。ミキサー機能を使うと、これらのパートごとに、音量やエフェクト量などを細かく設定することができます。

メモ

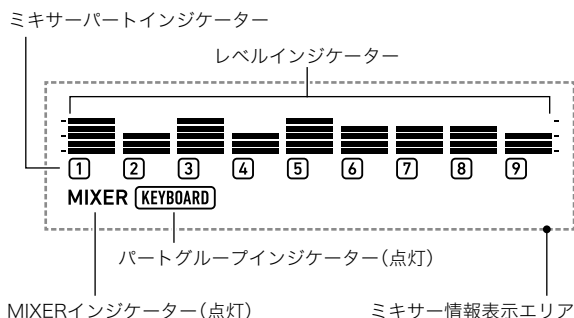
- 各パートのオン/オフ(パートごとの音を鳴らすか、鳴らないかの設定)は、より簡易な操作で実行できます。詳細は、54ページ「特定パートの音を消す(パートモード)」をご参照ください。

ミキサーの操作

ミキサー設定を変更するには

1. **9**パート(ミキサー)を、MIXERインジケーターが点灯するまで長押しします。

液晶表示部右下のミキサー情報表示エリアの表示が、下記ようになります(表示は一例です)。



- MIXERインジケーターが点灯中の状態を、ミキサーモードと呼びます。
- 点灯しているパートグループインジケーター(ここではKEYBOARD)は、現在ミキサーの操作対象がKEYBOARDパートグループ(手弾きの演奏パート)であることを表します。また、点滅しているミキサーパートインジケーター(ここでは**1**)は、現在の設定対象パート(KEYBOARDパートグループの場合はUPPER 1パート)を表します。パートグループとパートの詳細は、56ページ「ミキサーのパートグループ別パート一覧」をご参照ください。

2. ミキサー設定を変更する、対象パートグループを選びます。

- 9**パートを押して、ボタン左側のランプを点灯させます。
- 18**[-]または[+]を使って、設定対象パートグループを選びます。

このパートグループを選ぶには:	このインジケーターを点灯させる:
KEYBOARDパートグループ	KEYBOARD
RHYTHMパートグループ	RHYTHM
SONG SYSTEMパートグループ	SONGとSYSTEM
SONG SOLOパートグループ	SONGとSOLO
MIDI INパートグループ	MIDI IN
エクスターナルパートグループ(マイク入力)	E※ ¹

※1 ミキサーパートインジケーターの右端に**E**が表示されます。このとき、ミキサーパートインジケーターの**1**も同時に点灯します。

- パートグループの選択が済んだら**9**パートを押して、ボタン左側のランプを消灯させます。

3. **12**数字ボタンの[1](**△**)または[3](**▽**)を使って、ミキサー設定の対象パートを選びます。

- 右端パートの選択中に[3](**▽**)を押したり、左端パートの選択中に[1](**△**)を押したりすると、別のパートグループに表示が切り替わります※²。

※2 SONG SOLOまたはMIDI INパートグループのパート8で[3](**▽**)を押した場合は、同じパートグループの9~16パート、SONG SOLOまたはMIDI INパートグループのパート9で[1](**△**)を押した場合は、同じパートグループの1~8パートの表示に切り替わります。

- 12**数字ボタンを使って手早くパートを選ぶこともできます。56ページ「**12**数字ボタンでパートを選ぶには」をご参照ください。

4. **12**数字ボタンの[2](**✓**)または[5](**∧**)を使って、設定を変更したい項目を選びます。



選んだ設定項目に対する各パートの設定値に応じて、レベルインジケーター表示が切り替わります。

- 設定項目についての詳細は、57ページ「ミキサー設定詳細」をご参照ください。

5. **18**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。

6. ミキサーモードから抜けるには、**12**数字ボタンの[4](戻る)を押します。

メモ

- ミキサーモードに入ったときのミキサーパートインジケータの点灯(点滅)/消灯状態は、パートモードでのパートのオン/オフ状態に依存します。詳細は、54ページ「特定のパートの音を消す(パートモード)」をご参照ください。

12数字ボタンでパートを選ぶには

- 55ページ「ミキサー設定を変更するには」の手順1、2を実行し、ミキサー設定の対象パートグループを選びます。
- 9**パートを押します。
ボタン左側のランプが点灯します(ミキサーモード内のパートモード)。
- パートを選ぶには、パートの番号に対応した**12**数字ボタンを押します。
 - 例えばパート **2** を選ぶには、**12**数字ボタンの[2]を押します。
 - SONG SOLOとMIDI INパートグループには16のパートがあるため、一度に8パートずつ(1~8パートまたは9~16パート)が表示されます。9~16パートの表示中は、パート番号から8を引いた数の**12**数字ボタンを押してください。例えばパート **16** の場合は、**12**数字ボタンの[8]を押します。
- パートモードから抜けるには、**9**パートを押します。
ボタン左側のランプが消灯します。

ミキサーのパートグループ別パート一覧

ミキサーモードのパートグループと、パートグループに含まれるパートは、下記のとおりです。

● KEYBOARDパートグループ

手弾きの演奏パートで、オートハーモナイズやフレーズパッドも含まれます。

パート番号	該当パート
1	UPPER 1
2	UPPER 2
3	LOWER 1
4	LOWER 2
5	オートハーモナイズ
6	フレーズパッド1
7	フレーズパッド2
8	フレーズパッド3
9	フレーズパッド4

● RHYTHMパートグループ

自動伴奏の各パートです。

パート番号	該当パート
1	パーカッション
2	ドラム
3	ベース
4	コード1
5	コード2
6	コード3
7	コード4
8	コード5

● SONG SYSTEMパートグループ

MIDIレコーダーで録音したソングのうち、システムトラックの各パートです。

パート番号	該当パート
1	UPPER 1
2	UPPER 2
3	LOWER 1
4	LOWER 2
5	オートハーモナイズ
6	フレーズパッド1
7	フレーズパッド2
8	フレーズパッド3
9	フレーズパッド4

● SONG SOLOパートグループ

ソングバンクのソング、およびMIDIレコーダーで録音した曲のうちソロトラックの各パートです。

パート番号	該当パート
1~8	曲のパート1 ~ パート8
9~16	曲のパート9 ~ パート16

● MIDI INパートグループ

MIDI受信の各パートです。

パート番号	該当パート
1~8	MIDI受信のパート1 ~ パート8
9~16	MIDI受信のパート9 ~ パート16

● エクスターナルパートグループ

マイク入力です。

パート番号	該当パート
1	マイク入力

ミキサー設定詳細

各パートグループに対する設定項目

アスタリスク(*)付きの設定値は、初期設定です。

項目名(表示)	内容	設定範囲
パートオンオフ (Part)※1※2	選択したパートのオン、オフを指定します。	オン*, オフ
音量 (Volume)	選択したパートの音量を調節します。	0~100*~127
パン (Pan)※3	選択したパートのステレオ定位を調節します。 0が中央で、数値が小さいほど左へ、大きいほど右へステレオ定位が移動します。	-64~0*~63
リバーブセンド (Rev Send)	選択したパートに対するリバーブのかかり具合を調節します。	0~40*~127
コーラスセンド (Cho Send)	選択したパートに対するコーラスのかかり具合を調節します。	0*~127
ディレイセンド (Dly Send)	選択したパートに対するディレイのかかり具合を調節します。	0*~127

※1 この設定がオンのパートに対応するレベルインジケータは全点灯(5つの目盛りがすべて点灯)し、オフのパートは全消灯します。

※2 この設定項目の表示中に、選択中パートの音だけが鳴るようにすることができます。57ページ「選んだ単独パートの音だけを鳴らすには」をご参照ください。

※3 パンの設定状態は、レベルインジケータに下記のように表示されます(左端の全点灯表示は参考)。



選んだ単独パートの音だけを鳴らすには

1. 55ページ「ミキサー設定を変更するには」の手順1~4を実行します。

2. 設定対象になっているパートの音だけを鳴らすには、**12**数字ボタンの[6](エンター)を押します。
設定対象パートのミキサーパートインジケータと、その上のレベルインジケータ、およびレベルインジケータ左右両側の目盛りが点滅します。



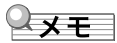
• 設定対象パートだけが鳴る状態になり、その他のパートはすべて鳴らない状態になります。

3. 他のパートが鳴る状態に戻すには、もう一度[6](エンター)を押します。

• **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を押して別のパートに切り替えても、他のパートが鳴る状態に戻ります。

セットアップを登録し再現する (レジストレーション)

レジストレーション機能を使うと、本機のセットアップ(音色やリズムなどの設定一式)を登録することができます。登録したセットアップは、特定の曲を演奏する際など、必要に応じて呼び出すことができます。

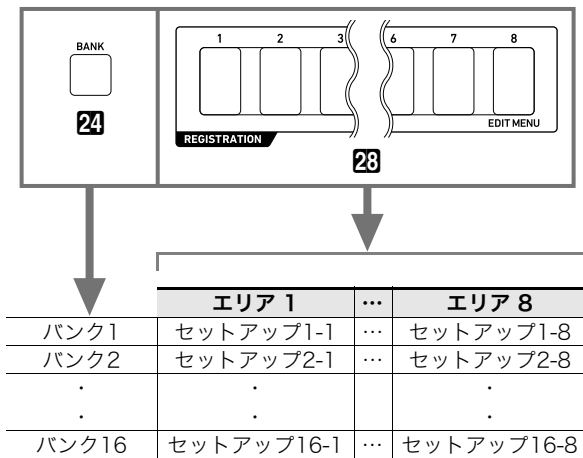


- レジストレーション機能はリズムモード(39ページ)で利用できます。
- レジストレーション機能はソングバンクモード(34ページ)、デモ演奏中(16ページ)、および各種の設定操作中(96ページ)は利用できません。

■セットアップの保存場所について

セットアップの登録には、専用の保存場所が使われます。この保存場所は、16個の「バンク」に分かれています。バンク1つあたりの保存場所が8つあるので、合計で128個(16バンク×8エリア)のセットアップが登録できます。

- バンクの指定には、**24**バンクボタンを使います。
- エリアの指定には、**28**レジストレーション[1]～[8]ボタンを使います。



セットアップを登録する

登録可能な設定項目

登録することが可能な設定項目は、下記のとおりです。

● 鍵盤演奏関連

- 音色番号 (UPPER 1、LOWER 1、UPPER 2、LOWER 2の各パート)
- レイヤー (オン/オフ)
- スプリット (オン/オフ)
- リバープ、コーラス、ディレイ (オン/オフ、タイプ)

● 音のコントロール関連

- トランスポーズ
- オクターブシフト (UPPER 1、LOWER 1、UPPER 2、LOWER 2の各パート)
- タッチレスポンスの設定状態
- ペダル1、ペダル2の効果 (ペダル2のタイプは記録されません)
- スケール、スケールファインチューン、パートファインチューン、パートコースチューン
- **33**サステインボタン (オン/オフおよび設定状態)
- **32**ボルタメントボタン (オン/オフおよび設定状態)
- **39**モジュレーション/アサイナブルボタン (オン/オフおよび設定状態) (CT-X5000のみ)

● スプリット設定関連

- スプリットポイント
- ロワーポイント
- コードポイント
- コード入力優先モード

● 自動伴奏関連

- リズム番号
- ACCOMPオン/オフ (ACCOMPインジケーターの点灯/消灯状態)
- テンポ、音価表示設定
- コード入力方式
- シンクロスタート
- 自動伴奏の音量

● オートハーモナイズ/アルペジエーター関連

- **34**オートハーモナイズ/アルペジエーターボタンの割り当て
- オートハーモナイズ (オン/オフ、タイプ)
- アルペジエーター (オン/オフ、タイプ)
- アルペジエーターホールド (オン/オフ)

● フレーズパッド関連

- フレーズセット番号
- フレーズ再生設定

● ミキサー関連

- パートのオン/オフ設定
- 音量、パン、リバープセンド、コーラスセンド、ディレイセンドの各設定

セットアップを登録するには

❗ 重要

- 下記の操作でデータを登録済みのバンクとエリアを指定すると、登録されていたデータは消去されます。バンクとエリアについては、58ページ「セットアップの保存場所について」をご参照ください。

1. 演奏する曲に合う音色やリズム、その他レジストレーションに登録可能な項目を、必要だけ設定します。

2. 登録先として指定するバンクを選びます。

(1) **24**バンクを押します。

- 液晶表示部に“Bank”の文字と、現在選択されているバンク番号が表示されます。



(2) “Bank”とバンク番号が表示されている間に、

13[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、バンク番号を選びます。

- “Bank”とバンク番号が表示されている間は、**24**バンクを押すたびに、バンク番号が切り替わります。

3. **25**ストアを押したまま、**23**レジストレーション[1]～[8]のいずれかを押して、登録先として指定するエリアを選びます。

2つのボタンを押した時点で本機に設定されていた状態が、手順2と3で指定したバンク、エリアに登録されます。



登録したセットアップを呼び出す

セットアップを呼び出すには

1. 必要に応じて、**23**フリーズを使ってフリーズ機能のオン/オフを切り替えます。

- ランプの点灯中はオン、消灯中はオフです。



- フリーズ機能の詳細は、下記「フリーズ機能について」をご参照ください。

2. **24**バンクを使って、呼び出したいセットアップのバンクを選びます。



3. **23**レジストレーション[1]～[8]のいずれかを押して、呼び出したいセットアップのエリアを選びます。

呼び出されたセットアップに従って、音色やリズムなどの設定が自動的に切り替わります。



セットアップを登録し再現する(レジストレーション)

フリーズ機能について

登録したセットアップを呼び出すと、通常は58ページ「登録可能な設定項目」にあるすべての設定が上書きされます。フリーズ機能を使うと、特定の設定項目を指定して、上書きしない(変えない)ようにすることができます。

セットアップの呼び出し時に設定を変えない項目を指定するには、96ページ「**10**機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「レジストレーションメモリー」(Reg Mem)→「レジストレーションメモリーフリーズターゲット」(RMFrzTgt)のサブメニューを表示し、各サブメニュー項目のオン/オフを設定してください。指定可能な項目は下記のとおりです。

表示	セットアップ呼び出し時に変更されない設定項目
Rhythm	リズム番号、ACCOMPオン/オフ、シンクロスタート/ストップ状態
Tempo	テンポ
Tone	音色番号、レイヤー(オン/オフ)、スプリット(オン/オフ)、オクターブシフト、KEYBOARDパートグループのミキサー設定
Split Pt	スプリットポイント、ロワーポイント、コードポイント、コード入力優先モード
AHar/Arp	オートハーモナイズ/アルペジエーター
Trans.	トランスポーズ
Scale	スケール
Touch	タッチレスポンス
Effect	エフェクトタイプ(リバーブ、コーラス、ディレイのオン/オフ状態)
PartTune	コースチューン、ファインチューン
Phr Pad	フレーズパッド
Cntrlr	97ページ「設定項目一覧」の「コントローラー」(Cntrlr)に含まれる設定項目

メモ

- 本機の初期設定では、上記の“Rhythm”と“Tempo”がオン、その他はすべてオフです。

ペダルを使って複数のセットアップを順番に呼び出す(レジストレーションシーケンス)

ペダルを踏むたびに、現在選ばれているバンクのレジストレーション(セットアップ)を、エリアの番号順に次々と呼び出すことができます。

レジストレーションシーケンス機能を使って演奏するには

- 1.** **10**機能を押します。
- 2.** **12**数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\triangle$)を使って“Reg Mem”(レジストレーションメモリー)を表示し、[6](エンター)を押します。

- 3.** [1]($\angle$)または[3]($\triangle$)を使って“Reg Seq”(レジストレーションシーケンス)を表示します。
- 4.** **13**[-]または[+]を使って、レジストレーションシーケンスの操作に使うペダル端子を選びます。

このペダル端子を選ぶには:	これを表示する:
54 PEDAL1端子	Pedal1
55 PEDAL2/ EXPRESSION端子	Pedal2
(レジストレーション機能をオフにする)	オフ(Off)



- SEQインジケーターが点灯し、レジストレーションシーケンス機能が有効になります。
 - ここで選んだ端子に接続したペダルの用途は、レジストレーションセットアップの呼び出し専用となります。通常の機能(26ページ「ペダルを使う」の操作で、そのペダルに割り当てられている機能)は利用できません。
- 5.** **12**数字ボタンの[4](戻)を長押しして、設定を終了します。
 - 6.** 手順4で選んだ端子に、弊社製サステインペダル(表紙を参照)を接続します。
 - 7.** レジストレーションのセットアップを呼び出したタイミングで、ペダルを踏みます。
 - ペダルを踏むたびに、現在選ばれているバンクのレジストレーションセットアップが、エリア1から順番に呼び出されます。
 - エリア8のセットアップを呼び出してからペダルを踏むと、エリア1のセットアップが呼び出されます。
 - 8.** ペダルを使ったレジストレーションセットアップの呼び出し操作を終了するには、手順1～5の操作でレジストレーションシーケンス機能をオフ(Off)にします。
SEQインジケーターが消灯します。

音色を編集する(ユーザー音色)

内蔵音色を編集してユーザー音色を作り、最大100個まで保存できます。

■外部機器への保存について

ユーザー音色を、USBメモリーやパソコンに保存できます。詳細は、104ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存するには」および107ページ「本機とパソコンの間でデータを転送する」をご参照ください。

ユーザー音色を作る

音色を編集するには

1. 編集元として使う音色を選びます。

- 必ずUPPER 1パートの音色(17ページ)を選んでください。UPPER 1パートの音色が編集元になります。
- 編集元として、ドラムセット音色は選ばません。

2. EDITインジケータが点灯するまで、**10**機能を長押しします。

EDIT

点灯

- 音色のエディットモードに入り、音色の編集ができる状態になります。

現在の設定値

編集項目名

000 Atk. Time

- 各編集項目についての詳細は、64ページ「音色編集項目一覧」をご参照ください。

3. **12**数字ボタンの[1](**△**)または[3](**▽**)を使って、変更したい編集項目を表示します。

- 液晶表示部にENTERインジケータが点灯した場合は、[6](エンター)を押してサブメニューに入った上で、[1](**△**)または[3](**▽**)を使って、変更したい編集項目を表示します。
- サブメニューから上位のメニューに戻るには、**12**数字ボタンの[4](戻る)を押します。
- 編集項目の“DSP Edit”(DSPエディット)を使うと、音色にかけるDSPエフェクトを、数多くのパラメーターによって、緻密に組み立てることが可能です。本機のDSPエフェクトの構成やDSPエディットの概要については、62ページ「DSPエディットについて」をご参照ください。またDSPエディットの操作については、62ページ「DSPエディットでエフェクトを編集するには」をご参照ください。

4. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。

5. 変更したい編集項目の分だけ、手順3、4の操作を繰り返します。

- 鍵盤を押すと、編集中の音を鳴らすことができます。音色の変化を確認しながら編集するとよいでしょう。

6. 編集後の音色を保存するには、**12**数字ボタンの[7](記録)を押します。

- 編集元がユーザー音色の場合、ここで“Replace?”と表示されます。元の音色データを新しいデータで置き替えてよい場合は**13**[+](はい)を、置き替えずに新規保存するには**13**[-](いいえ)を押します。
- すでに100個のユーザー音色を保存済みで、新規保存ができない場合、上記で**13**[-](いいえ)を押すと、“DataFull”というエラーメッセージが表示されます。
- 音色の保存中は“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。

7. 音色のエディットモードから抜けるには、**12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しします。

- 手順6の操作後に何の編集も実行していない場合は、音色のエディットモードから抜けてEDITインジケータが消灯します。
- 手順6の操作後に何らかの編集を実行した場合は、ここで“Exit?”と表示されます。下記のいずれかを実行してください。

これをするには:	この操作をする:
音色のエディットモードから抜けずに、編集を続ける	13 [-](いいえ)を押す。
編集後のデータを上書き保存して音色のエディットモードから抜ける	(1) 13 [+](はい)を押す。 (2) “Write?”と表示されたら、もう一度 13 [+](はい)を押す。
編集後のデータを破棄して音色のエディットモードから抜ける	(1) 13 [+](はい)を押す。 (2) “Write?”と表示されたら、 13 [-](いいえ)を押す。

メモ

- 新規保存の場合、保存先の音色番号は、ユーザー音色が保存されていない最小の番号となります。操作を終了すると、保存後のユーザー音色が選ばれた状態になります。

音色番号

音色名

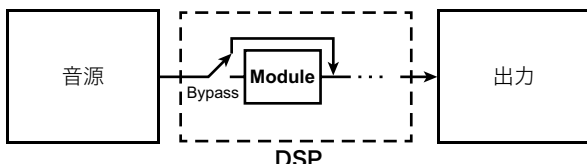
80 !No Name

- ユーザー音色の名前は、データを未保存の場合“No Data”、データを保存済みの場合は“No Name”となります。名前の変更については、63ページ「ユーザー音色の名前を変更するには」をご参照ください。

DSPエディットについて

DSP(デジタルシグナルプロセッサ)は音源と出力の間に接続するタイプのエフェクトで、その種類はイコライザーやトレモロ、リミッター、ワウなど多岐にわたります。本機の多くの内蔵音色には、音色に適したDSPが、あらかじめ使われています。こうした音色を「DSPトーン」と呼びます。

本機の音色編集機能には、DSPを編集するための設定項目である「DSPエディット」(DSP Edit)が含まれます。DSPエディットによって編集可能な本機のDSPは、下記のような構成になっています。



- DSPは、1つ以上のDSPモジュール(上图“Module”部分)で構成されています。
- 本機には、数百のDSPがプリセットされています。プリセットのDSPは、内蔵音色(DSPトーン)に割り当てられているものから選ぶか、DSPエディット専用用意されたDSPから選びます。
- DSPごとに、DSPモジュール数と、各モジュールの種類(イコライザー、リミッター、ワウなど)が決まっています。

DSPエディットでは、はじめにプリセットのDSPを選び、その中に含まれているDSPモジュールのパラメーターを編集します。DSPモジュール、および各DSPモジュールに応じたパラメーターについての詳細は、113ページ「DSPエフェクター一覧」をご参照ください。

DSPエディットでエフェクトを編集するには

- 61ページ「音色を編集するには」の手順1～2を実行します。
- 12** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って“DSP Edit”を表示し、[6](エンター)を押します。
“On/Off”と表示されます。
- 設定がオフ(Off)になっている場合は、**13** [-] または [+] を押してオン(On)にします。
- [3]($\angle$)を押して、“DSP Num”を表示します。
- 編集対象のDSPを選ぶには、**13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使ってDSP番号(1～900)を指定し、[6](エンター)を押します。
 - 64ページ「音色編集項目一覧」の「DSP番号」欄をご参照ください。

- 12** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って、パラメーターを変更したいDSPモジュールを選びます。

- ここで表示されるのは、DSPモジュール名です。DSPモジュールの詳細は、113ページ「DSPモジュール一覧」をご参照ください。



- 手順5で選んだDSPに含まれるDSPモジュールが1つの場合は、[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を押しても表示は切り替わりません。DSPモジュール名だけ確認し、手順7に進んでください。

- 12** 数字ボタンの[6](エンター)を押します。
“Bypass”と表示されます。
- 12** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って、設定を変更したいパラメーターを表示します。
 - DSPモジュールに応じて設定可能なDSPパラメーターについての詳細は、114ページ「DSPパラメーター一覧」をご参照ください。
- 13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、設定値を変更します。
- 手順8、9の操作を、設定を変更したいパラメーターの分だけ繰り返します。
- 12** 数字ボタンの[4](戻る)を押します。
- 手順6～11の操作を、設定を変更したいDSPモジュールの分だけ繰り返します。
- 61ページ「音色を編集するには」の手順6以降を実行します。

ユーザー音色の名前を変更するには

1. 名前を変更したいユーザー音色を選びます。
2. “ToneName”と表示されるまで、**8** 録音／停止を押したままにします。
3. **12** 数字ボタンの[6] (エンター)を押します。
名前を変更できる状態になります。
4. 新しい名前を入力します。
 - 文字の入力操作については、14ページ「文字の入力について」をご参照ください。
5. [6] (エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
6. 名前を変更してよい場合は**13** [+] (はい)を、中止するには**13** [-] (いいえ)を押します。
7. 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの[4] (戻る)を押します。

ユーザー音色をコピーするには

1. コピーを作成したいユーザー音色を選びます。
2. “ToneName”と表示されるまで、**8** 録音／停止を押したままにします。
3. **12** 数字ボタンの[1] ($\angle$)または[3] ($\angle$)を使って“ToneCopy”を表示し、[6] (エンター)を押します。
4. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使ってコピー先の音色番号を選び、[6] (エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
 - コピー先として指定した音色番号にすでにユーザー音色が保存済みの場合は、“Replace?”と表示されます。
5. コピーを実行してよい場合は**13** [+] (はい)を、中止するには**13** [-] (いいえ)を押します。
 - コピー中は“Wait...” (実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete” (完了)と表示されます。
6. 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの[4] (戻る)を押します。

ユーザー音色を消去するには

1. 消去したいユーザー音色を選びます。
2. “ToneName”と表示されるまで、**8** 録音／停止を押したままにします。
3. **12** 数字ボタンの[1] ($\angle$)または[3] ($\angle$)を使って“ToneClr”を表示し、[6] (エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
4. 消去してよい場合は**13** [+] (はい)を、中止するには**13** [-] (いいえ)を押します。
5. 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの[4] (戻る)を押します。

音色編集項目一覧

項目名	表示	内容	設定範囲															
アタックタイム	Atk.Time	押鍵後の、音が鳴り始めてから最大音量に到達するまで(音の立ち上がり)の時間を調節します。値が大きいほど、ゆっくりした立ち上がりになります。 A:アタックタイム R:リリースタイム	0~127															
リリースタイム	Rel.Time	離鍵後の、音の余韻の長さを調節します。値が大きいほど、余韻が長くなります。	0~127															
カットオフ周波数	Cutoff F	音の周波数特性のある周波数(カットオフ周波数)よりも高い成分を減衰させて、音質を調節します。 この設定値を大きくするほど音質が明るく(硬い感じ)になり、小さくするほど音質が暗く(柔らかい感じ)になります。	0~127															
レゾナンス	Resonance	上記設定項目の「カットオフ周波数」で指定した周波数付近で、倍音成分の利得を上げる度合いを調節します。 数値を大きくするほど、癖の強い音になります。	0~127															
ビブラート	Vibrato	音高の揺れ(ビブラート)に関する設定項目サブメニューです。																
ビブラートタイプ	Vib.Type	ビブラートの波形を選択します。 <table><thead><tr><th>設定値</th><th>内容</th><th>波形</th></tr></thead><tbody><tr><td>Sin</td><td>正弦波</td><td></td></tr><tr><td>Tri</td><td>トライアングル波</td><td></td></tr><tr><td>Saw</td><td>のこぎり波</td><td></td></tr><tr><td>Sqr</td><td>矩形波</td><td></td></tr></tbody></table>	設定値	内容	波形	Sin	正弦波		Tri	トライアングル波		Saw	のこぎり波		Sqr	矩形波		Sin、Tri、Saw、Sqr
設定値	内容	波形																
Sin	正弦波																	
Tri	トライアングル波																	
Saw	のこぎり波																	
Sqr	矩形波																	
ビブラートデプス	VibDepth	ビブラートの音高の揺れの深さを調節します。	0~127															
ビブラートレート	Vib.Rate	ビブラートの速さを調節します。	0~127															
ビブラートディレイ	VibDelay	音が鳴り始めてからビブラートが始まるまでの時間を調節します。	0~127															
オクターブシフト	OctShift	音高をオクターブ単位でシフト(上下)させます。	-3~0~3															
音量	Volume	音色全体の音量を決めるパラメーターです。値が大きいほど音量が上がります。	0~127															

項目名	表示	内容	設定範囲
ペロシティセンス	Vel.Sens	鍵盤演奏のタッチ(強弱)に応じて、音色や音量をどれだけ変化させるかを設定します。プラス側に大きくすると、タッチが強いほど明るく大きな音になります。マイナス側に大きくすると、タッチが強いほど柔らかく小さな音になります。値が0のときはタッチの強弱の影響を受けません。	-64～0～63
リバーブセンド	Rev.Send	音色に対するリバーブのかかり具合を調節します。	0～127
コーラスセンド	Cho.Send	音色に対するコーラスのかかり具合を調節します。	0～127
ディレイセンド	Dly.Send	音色に対するディレイのかかり具合を調節します。	0～127
DSPエディット	DSP Edit	DSPエフェクトに関する設定項目サブメニューです。	
オン/オフ	On/Off	音色に対してDSPエフェクトをかける場合はオン、かけない場合はオフにします。	オン、オフ
DSP番号	DSP Num	DSPエフェクトをかける場合のプリセットDSPを選びます。 • 1～800番は内蔵音色の番号と対応しており、DSP付き内蔵音色(DSPトーン)の番号だけが指定できます。この範囲の番号を指定すると、指定したDSPトーンに割り当てられているDSPが呼び出されます。 • 801～900番は、DSPエディット専用を用意されたDSPです。別冊「Appendix」の「DSP一覧」をご参照ください。	1～900
DSPモジュール1	※ ¹	選択したDSPに含まれるDSPモジュールの設定を変更するためのサブメニューです。	
バイパス	Bypass	このDSPモジュールをバイパスする(無効にする)場合はオン、有効にする場合はオフにします。	オン、オフ
(DSPモジュールによる※ ²)			
DSPモジュール2～ ※ ³	※ ¹	選択したDSPに含まれるDSPモジュールの設定を変更するためのサブメニューです。	
(モジュール1パラメーターと同様)			

※1 DSPモジュールの名前(“Compressor”、“Limiter”、“Enhancer”など)が表示されます。

DSPモジュールについての詳細は、113ページ「DSPモジュール一覧」をご参照ください。

※2 DSPモジュールに応じて、設定可能なパラメーターの数や内容が変わります。詳細は、114ページ「DSPパラメーター一覧」をご参照ください。

※3 編集対象として選択したDSPに含まれるDSPモジュールが1つの場合は、表示されません。2つ以上の場合に、DSPに含まれるDSPモジュール数に応じて、これらのサブメニューが現れます。

自動伴奏を作成する(ユーザーリズム)

本機の自動伴奏機能で鳴らすことのできる伴奏パターンを作成し、ユーザーリズムとして保存することができます。保存先と保存できる数は、機種によって下記のとおりです。
CT-X5000: リズム番号294番～393番(最大100個)
CT-X3000: リズム番号294番～343番(最大50個)

■外部機器への保存について

ユーザーリズムを、USBメモリーやパソコンに保存できます。詳細は、104ページ「本機データをUSBメモリーに保存するには」および107ページ「本機とパソコンの間でデータを転送する」をご参照ください。

リズムの構成について

リズムの1つ1つは、下記のような構成になっています。

リズム			
伴奏パターン[V1]～[V4]		伴奏パターン[F1]～[F4]	
パーカッション		パーカッション	
ドラム		ドラム	
ベース		ベース	
コード1～5		コード1～5	
伴奏パターン[I]		伴奏パターン[E]	
パーカッション		パーカッション	
ドラム		ドラム	
ベース		ベース	
コード1～5		コード1～5	

[V]…バリエーション、[F]…フィルイン、[I]…イントロ、
[E]…エンディング

リズム1つは10の伴奏パターンを含んでおり、各伴奏パターンは8つのパートでできています。1つのユーザーリズムを1から作る場合は、10伴奏パターン×8パートを録音します。内蔵リズムの伴奏パターンをベースに、一部のパートだけを新たな録音に置き替えたり、伴奏パターンをコピーして編集したりすることも可能です。

- 伴奏パターンについての詳細は、41ページ「伴奏パターン一覧」をご参照ください。

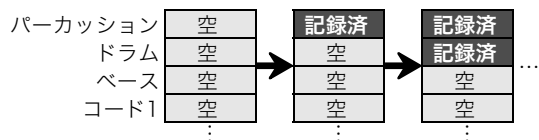
各パートに記録できる内容

伴奏パターンの各パートには、鍵盤演奏(ノートデータ)とピッチベンドホイール操作が記録可能です。

ユーザーリズムの作り方

● 伴奏パターンの全パートを新規作成

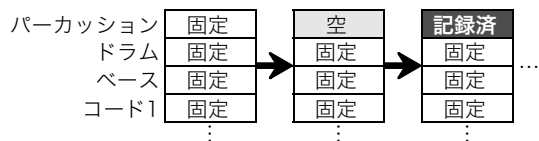
伴奏パターンをパートごとに、順番に録音していきます。



- 上図の「空」は、リズムを編集するための専用メモリーエリア(ユーザーエリア)で、パートの数だけ用意されています。録音後は「記録済」の状態となります。

● 既存リズム※1の伴奏パターンを編集

既存リズムの伴奏パターンをベースに、空にしたパートに鍵盤演奏を新規録音します(バリエーションまたはフィルインのみ可能※2)。



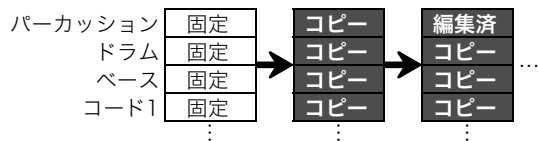
- 上図の「固定」は、既存リズムのデータがそのまま使われていることを表します。この部分は編集できません。

※1 内蔵リズムまたは保存済みのユーザーリズム

※2 既存リズムのイントロとエンディングでは、この操作はできません。全パートを空にして、新規作成することは可能です。

● 既存リズムの伴奏パターンをコピーして編集

既存リズムの伴奏パターンをユーザーエリアにコピーして、そのデータを編集します。



- 上図の「コピー」、「編集済」は、いずれも状態としては「記録済」と同じです。
- コピーしたデータを再生しながら、リアルタイムで音を追加したり、不要な音を消したりすることが可能です。

上記のほか、既存リズムの伴奏パターン各パートはすべて「固定」のまま残しつつ、ミキサー設定だけを変更して、ユーザーリズムとして保存することもできます。

ユーザーリズムを作成、編集する

メモ

- 下記操作手順中での、ミキサーパートインジケータの番号と、伴奏パターン各パートの対応については、56ページ「ミキサーのパートグループ別パート一覧」の「RHYTHMパートグループ」をご参照ください。

リズム全体を新規作成し保存するには

メモ

- 既存リズムの伴奏パターンをユーザーエリアにコピーして、各パートに記録されていた音を編集(追加や消去)することもできます。必要に応じて、下記の手順3で伴奏パターン全体のコピー、手順5で特定パートのコピーを実行します。各手順の説明をお読みください。

1. 何も保存されていないユーザーリズムを選びます。

- 39ページ「リズムを選ぶ」をご参照ください。
- 何も保存されていないユーザーリズムは、リズム名として“No Data”と表示されます。

2. EDITインジケータが点灯するまで、10機能を長押しします。



- リズムのエディットモードに入り、リズムの編集ができる状態になります。
- V 1** インジケータが点滅します。これは、編集対象の伴奏パターンがバリエーション1であることを表します。
- 編集対象パートとして“Drum”(ドラム)が表示されます。

3. 編集対象の伴奏パターンを選びます。

これを選ぶには:	このボタンを押す:
イントロ	12 イントロ
エンディング	19 エンディング/シンクロスタート
バリエーション1~4、 フィルイン1~4	15 バリエーション/フィルイン1~ 18 バリエーション/フィルイン4*

※ボタンを押すたびに、バリエーションとフィルインの間で交互に切り替わります。

- 選んだ伴奏パターンに応じたインジケータが点滅します(41ページ)。
- ここで、既存リズムの伴奏パターンを、ユーザーエリアにコピーすることも可能です。72ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集用にコピーするには」をご参照ください。

4. 作成する伴奏パターンの小節数と拍子を指定します。

- 28** レジストレーション[8](エディットメニュー)を押します。
- 12** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\triangle$)を使って“Element”を表示し、[6](エンター)を押します。
- [1]($\angle$)または[3]($\triangle$)を使って“Measure”(小節)を表示し、**18** [-]、[+]、または**11** ダイアルを使って設定値を変更します。

伴奏パターン	設定範囲
イントロ、エンディング	01~16
バリエーション	01~16
フィルイン	01~02

- [1]($\angle$)または[3]($\triangle$)を使って“Beat”(拍子)を表示し、**18** [-]、[+]、または**11** ダイアルを使って設定値を変更します(設定範囲: 2/4~8/4、2/8~16/8)。
- 12** 数字ボタンの[4](戻る)を押します。

5. 編集対象パートを選びます。

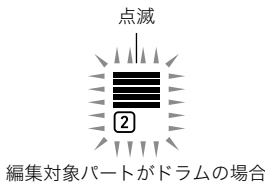
- 9** パートを押して、ボタン左側のランプを点灯させます。
- 12** 数字ボタンの[1]~[8]を使って、編集対象パートの名前を選びます。

このパートを選ぶには:	この数字ボタンを押す:
パーカッション	[1]
ドラム	[2]
ベース	[3]
コード1~コード5	[4]~[8]

- 選んだパートに応じたミキサーパートインジケータが点滅します。
- 9** パートを押して、ボタン左側のランプを消灯させます。
 - ここで、既存リズムのパートを、ユーザーエリアにコピーすることも可能です(伴奏パターンがイントロまたはエンディングの場合を除く)。73ページ「既存リズムのパートを編集用にコピーするには」をご参照ください。

6. 必要に応じて、パートの音色やオクターブシフト設定を変更します。

- (1) パートの録音に使う音色を選びます。16ページ「音色を選ぶ」をご参照ください。
- ドラムパートとパーカッションパートでは、ドラムセット音色のみ選ぶことができます。またベースとコード1～5では、ドラムセット音色を選ぶことはできません。
- (2) パートのオクターブシフトを設定します。
- 37**オクターブを押したまま、**33**トランスポーズの[**へ**]または[**∨**]を押します。
- (3) 既存リズムの伴奏パターンまたはパートをコピーするか、すでに手順10までの操作を一度以上実施しており、記録済みのデータがある場合は、ここで**20**スタート/ストップを押すと、現在編集中的の伴奏パターン全パートが繰り返し再生されます。設定変更後の状態を確認できます。
- (4) 記録済みのデータがある場合は、ここで**12**数字ボタンの[6] (エンター)を押すと、編集対象のパートの音だけを聴くことができます。
- 編集対象パートのミキサーパートインジケータと、その上のレベルインジケータが点滅します。



- 再度[6] (エンター)を押すと、この状態は解除されます。

7. 編集対象パートの再生設定を、必要に応じて変更します。

- 74ページ「ユーザーリズムのパート再生設定を変更するには」をご参照ください。

8. 編集対象パートに、鍵盤演奏を録音します。

- 70ページ「各パートに鍵盤演奏を録音するには」をご参照ください。

9. 編集対象パートのミキサー設定を、必要に応じて変更します。

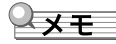
- 72ページ「編集対象パートのミキサー設定を変更するには」をご参照ください。

10. 手順5～9の操作を、すべてのパートについて実施します。

11. 手順3～10の操作を、すべての伴奏パターンについて実施します。

12. 74ページ「ユーザーリズムを保存するには」に従って、編集したリズムを保存します。

既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには



- 既存リズムの伴奏パターンを編集する場合、バリエーション1～4とフィルイン1～4は、特定のパートに新たに録音する操作が可能です。イントロとエンディングについては、いったん全パートをクリアしてから、各パートを録音して作成します。
- 既存リズムの伴奏パターンをユーザーエリアにコピーして、各パートに記録されていた音を編集(追加や消去)することもできます。必要に応じて、下記の手順3で伴奏パターン全体のコピー、手順5で特定パートのコピーを実行します。各手順の説明をお読みください。

1. 編集元として使う内蔵リズム、または保存済みのユーザーリズムを選びます。

- 39ページ「リズムを選ぶ」をご参照ください。

2. EDITインジケータが点灯するまで、**10**機能を長押しします。



- リズムのエディットモードに入り、リズムの編集ができる状態になります。
- V 1**インジケータが点滅します。これは、編集対象の伴奏パターンがバリエーション1であることを表します。
- 編集対象パートとして“Drum”(ドラム)が表示されます。

3. 編集対象の伴奏パターンを選びます。

これを選ぶには:	このボタンを押す:
イントロ	14 イントロ
エンディング	19 エンディング/シンクロスタート
バリエーション1～4、 フィルイン1～4	15 バリエーション/フィルイン1～ 18 バリエーション/フィルイン4*

※ボタンを押すたびに、バリエーションとフィルインの間で交互に切り替わります。

- 選んだ伴奏パターンに応じたインジケータが点滅します(41ページ)。
- ここで、既存リズムの伴奏パターンを、ユーザーエリアにコピーすることも可能です。72ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集用にコピーするには」をご参照ください。

4. 選んだ伴奏パターンに応じて操作します。

■ バリエーション1～4、フィルイン1～4を選んだ場合

このまま手順5に進みます。

■ イントロ、エンディングを選んだ場合

伴奏パターンの全パートをクリアします。

- (1) 73ページ「1つの伴奏パターンに含まれる全パートへの記録内容を一括してクリアするには」の手順2～4を実行します。
- (2) **23**レジストレーション[8](エディットメニュー)を押します。
- (3) **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Element”を表示し、[6](エンター)を押します。
- (4) **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Measure”(小節)を表示し、**13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って設定値を変更します。

伴奏パターン	設定範囲
イントロ、エンディング	01～16
バリエーション	01～16
フィルイン	01～02

- (5) [1]()または[3]()を使って“Beat”(拍子)を表示し、**13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って設定値を変更します(設定範囲: 2/4～8/4、2/8～16/8)。
- (6) **12**数字ボタンの[4](戻る)を押します。

5. 編集対象パートを選びます。

- (1) **9**パートを押して、ボタン左側のランプを点灯させます。
- (2) **12**数字ボタンの[1]～[8]を使って、編集対象パートの名前を選びます。

このパートを選ぶには:	この数字ボタンを押す:
パーカッション	[1]
ドラム	[2]
ベース	[3]
コード1～コード5	[4]～[8]

- 選んだパートに応じたミキサーパートインジケータが点滅します。
- (3) **9**パートを押して、ボタン左側のランプを消灯させます。
 - ここで、既存リズムのパートを、ユーザーエリアにコピーすることも可能です(伴奏パターンがイントロまたはエンディングの場合を除く)。73ページ「既存リズムのパートを編集用にコピーするには」をご参照ください。

6. 必要に応じて、パートの音色やオクターブシフト設定を変更します。

- (1) パートの録音に使う音色を選びます。16ページ「音色を選ぶ」をご参照ください。
 - ドラムパートとパーカッションパートでは、ドラムセット音色のみ選ぶことができます。またベースとコード1～5では、ドラムセット音色を選ぶことはできません。
- (2) パートのオクターブシフトを設定します。
 - 37**オクターブを押したまま、**38**トランスポーズの[)または[)を押します。
- (3) ここで**20**スタート/ストップを押すと、現在編集中的伴奏パターン全パートが繰り返し再生されます。設定変更後の状態を確認できます。
- (4) 記録済みのデータがある場合は、ここで**12**数字ボタンの[6](エンター)を押すと、編集対象のパートの音だけを聴くことができます。
 - 編集対象パートのミキサーパートインジケータと、その上のレベルインジケータが点滅します。



- 再度[6](エンター)を押すと、この状態は解除されます。

7. 編集対象パートの再生設定を、必要に応じて変更します。

- 74ページ「ユーザーリズムのパート再生設定を変更するには」をご参照ください。

8. 編集対象パートに、鍵盤演奏を録音します。

- 70ページ「各パートに鍵盤演奏を録音するには」をご参照ください。

9. 編集対象パートのミキサー設定を、必要に応じて変更します。

- 72ページ「編集対象パートのミキサー設定を変更するには」をご参照ください。

10. 手順5～9の操作を、すべてのパートについて実施します。

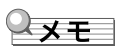
11. 手順3～10の操作を、すべての伴奏パターンについて実施します。

12. 74ページ「ユーザーリズムを保存するには」に従って、編集したリズムを保存します。

既存リズムのミキサー設定だけ変更し保存するには

1. 編集元として使う内蔵リズム、または保存済みのユーザーリズムを選びます。
• 39ページ「リズムを選ぶ」をご参照ください。
2. EDITインジケーターが点灯するまで、**10**機能を長押しします。
3. 68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順3を実行します。
4. 68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順5を実行します。
5. 72ページ「編集対象パートのミキサー設定を変更するには」を実行します。
6. 手順4～5の操作を、ミキサー設定を変更したいすべてのパートについて実施します。
7. 手順3～6の操作を、ミキサー設定を変更したいすべての伴奏パターンについて実施します。
8. 74ページ「ユーザーリズムを保存するには」に従って、編集したリズムを保存します。

各パートに鍵盤演奏を録音するには



- ここで示す操作は、下記いずれかの手順として実行します。
 - 67ページ「リズム全体を新規作成し保存するには」の手順8
 - 68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順8

1. **8**録音/停止を押します。



録音待機状態に入り、液晶表示部に“Recorded”(記録済みデータ)または“Empty”(空データ)と表示されます。ここで“Fixed”(固定データ)と表示された場合、現在のパートには録音できない状態です。数秒で**8**録音/停止を押す前の状態に戻ります。

- これら表示についての詳細は、71ページ「パートのデータ状態表示について」をご参照ください。
- 録音待機状態から抜けるには、**8**録音/停止を押します。RECORDインジケーターが消灯します。

2. 記録に関する設定を、必要に応じて変更します。

- 録音に関する設定を変更したことがある場合は、前回の設定が適用されます。設定を変更していない項目は、初期設定が適用されます。設定項目についての詳細は、71ページ「ユーザーリズムの記録に関する設定項目」をご参照ください。
- 設定を変更したい場合は、下記を実行します。

- (1) 液晶表示部に“Quantize”と表示されるまで、**8**録音/停止を長押しします。
- (2) **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って、変更対象のメニュー項目を表示します。
- (3) **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
- (4) 設定を終了するには、もう一度**8**録音/停止を押します。

3. 必要に応じて、録音前のリハーサルをします。

- 録音前に、伴奏パターンの各パートを鳴らしながら鍵盤を弾いて、録音前のリハーサルしたい場合は、下記を実行します。

- (1) ACCOMPインジケーターが点滅するまで、**22**[ACCOMP]伴奏を長押しします。
リハーサルモードに入ります。
• この状態では、録音を開始せずに、録音時と同じ状態でのリハーサルができます。
- (2) **20**スタート/ストップを押します。
伴奏パターン各パートの、録音済みデータが再生されます。
• ベースやコード1～5のパートは、Cメジャーで鳴ります。コード入力鍵盤を押しても、キーやコードの種類は変わりません。
- (3) 再生に合わせて、鍵盤を弾きます。
録音待機状態に入る前に選択した音色が鳴ります。
- (4) リハーサルモードを抜けるには、ACCOMPインジケーターが消灯するまで**22**[ACCOMP]伴奏を長押しします。

4. 録音を開始するには、**20**スタート/ストップを押します。



- 液晶表示部に“Record..”と表示されます。
- 液晶表示部の右上の小節と拍表示がカウントアップします。編集対象の伴奏パターンに設定されている小節数の最後の拍まで到達すると、001:01からカウントが再開されます。



5. 小節、拍の表示でタイミングを確認しながら、鍵盤で演奏します。

- **40**ピッチベンドホイールの操作も記録されます。
- **39**モジュレーション/アサインابلボタンの操作も記録されます(CT-X5000のみ)。
- 録音された内容は、録音した小節、拍に表示が戻ると、再生されます。
- 録音済みの特定のノート(音)を消去したい場合は、**28**レジストレーション[2]を押したままの状態、消去したいノートが再生されるタイミングで、そのノートと同じ鍵盤を押します。**28**レジストレーション[2]と鍵盤(いくつ押してもかまいません)を同時に押したままにすると、その間に再生された、押している鍵盤と同じノートは、すべて消去されます。
- 手順6を実行するまでは、何度でも演奏を重ねて記録したり、記録済みのノートを消去できます。

6. 録音を終了するには、**8**録音/停止を押します。RECORDインジケーターが消灯します。

- **20**スタート/ストップを押すと、録音した内容が繰り返し再生されます。
- 録音した内容をバックに、通常の鍵盤演奏を試したい場合(録音したパートの音色ではなく、鍵盤パートの音色で弾いてみたい場合)は、**5**トーンを長押しして、液晶表示部左上の鍵盤パートインジケーター **U1** を点灯させます。鍵盤パートに割り当てられている音色名が表示され、その音色で鍵盤演奏ができます。

■パートのデータ状態表示について

リズムの編集集中に表示される、編集対象パートの状態表示には、下表の意味があります。

表示	意味
Fixed (固定データ)	ユーザーエリアのデータではなく、内蔵リズムまたは保存済みのユーザーリズムから呼び出されたデータです。鍵盤演奏のリアルタイム記録はできません。可能な編集操作は、ミキサー設定だけです。
Recorded (記録済みデータ)	編集可能なユーザーエリアのデータで、記録済みの状態です。ミキサー設定、鍵盤演奏のリアルタイム記録が可能です。
Empty (空データ)	編集可能なユーザーエリアのデータで、何も記録されていない状態です。ミキサー設定、鍵盤演奏のリアルタイム記録が可能です。

■ユーザーリズムの記録に関する設定項目

アスタリスク(*)付きの設定値は、初期設定です。

項目名(表示)	内容	設定範囲
クオンタイズ (Quantize)	鍵盤を押したとおりのタイミングで音符を記録するか、基準となる音価に合わせて音符のタイミングを自動的に補正するかを指定します。オフ(Off)以外の設定値は音価を表します(“4”は4分音符、“d”は付点音符、“t”は3連符)。	オフ*、4、8、16、32、4d、8d、16d、32d、4t、8t、16t、32t
プレカウント (Precount)	記録待機状態で 20 スタート/ストップを押したとき、記録が開始される前のプレカウントを鳴らすかどうかを指定します。“1”、“2”にすると、それぞれ1小節、2小節分のプレカウントが鳴ります。オフ(Off)にするとプレカウントは鳴らずに、 20 スタート/ストップまたは鍵盤を押すと同時に記録が開始されます。	オフ、1*、2
プレイコード (PlayChrd)	伴奏パターンの記録を開始すると、記録対象パートを除く各パートの繰り返し再生が開始されます。この再生音のうち、記録対象パートを除くベース/コードパートでの再生に使われるコードの種類を、“C”(Cメジャー)、“C7”(Cセブンス)、“Cm”(Cマイナー)から選びます。オフ(Off)を選ぶと、記録対象パート以外のベース/コードパートの音は鳴りません。	オフ、C*、C7、Cm
メトロノーム (Metronom)	録音時にメトロノームを鳴らすか、鳴らさないかを設定します。	オン、オフ*

編集対象パートのミキサー設定を変更するには

メモ

- ここで示す操作は、下記いずれかの手順として実行します。
 - 67ページ「リズム全体を新規作成し保存するには」の手順9
 - 68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順9
 - 70ページ「既存リズムのミキサー設定だけ変更し保存するには」の手順5

- 9**パート(ミキサー)を、MIXERインジケーターが点灯するまで長押しします。
編集対象パートのパートオンオフ設定状態が表示されます。
- 12**数字ボタンの[2](✓)または[5](∧)を使って、変更対象のメニュー項目を表示します。
 - アスタリスク(*)付きの設定値は、初期設定です。

項目名(表示)	内容	設定範囲
パートオンオフ(Part)	選択したパートのオン、オフを指定します。	オン*、オフ
パート音色(Tone)	選択したパートの音色を切り替えます。	*
音量(Volume)	選択したパートの音量を調節します。	0~127*
パン(Pan)	選択したパートのステレオ定位を調節します。0が中央で、数値が小さいほど左へ、大きいほど右へステレオ定位が移動します。	-64~0*~63
リバーブセンド(Rev Send)	選択したパートに対するリバーブのかかり具合を調節します。	0~40*~127
コーラスセンド(Cho Send)	選択したパートに対するコーラスのかかり具合を調節します。	0*~127
ディレイセンド(Dly Send)	選択したパートに対するディレイのかかり具合を調節します。	0*~127

※ドラムパートとパーカッションパートでは、ドラムセット音色のみ選ぶことができます。またベースとコード1~5では、ドラムセット音色を選ぶことはできません。

- 13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
- ミキサー設定を終了するには、**12**数字ボタンの[4](戻る)を押します。

既存リズムの伴奏パターンを編集用にコピーするには

- リズムのエディットモードで、コピー先の伴奏パターンを選びます。
 - 67ページ「リズム全体を新規作成し保存するには」の手順1~3、または68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順1~3を実行してください。
- 23**レジストレーション[1]を押します。
“Element”と表示されます。
- 12**数字ボタンの[6](エンター)を押します。
現在選択されているリズム番号とリズム名が表示されます。
- 13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、伴奏パターンのコピー元として使いたいリズムの番号を選びます。
- コピー元として使いたい伴奏パターンを選びます。
選んだ伴奏パターンに応じたインジケーターが点滅します(41ページ)。

これを選ぶには:	このボタンを押す:
イントロ	14 イントロ
エンディング	19 エンディング/シンクロスタート
バリエーション1~4、 フィルイン1~4	15 バリエーション/フィルイン1~ 18 バリエーション/フィルイン4*

※ボタンを押すたびに、バリエーションとフィルインの間で交互に切り替わります。

- コピー先がイントロの場合はイントロを、エンディングの場合はエンディングを選びます。
 - コピー先がバリエーション1~4の場合は、バリエーション1~4のいずれかを選びます。
 - コピー先がフィルイン1~4の場合は、フィルイン1~4のいずれかを選びます。
 - ここで**20**スタート/ストップを押すと、コピー元として選んだ伴奏パターンが繰り返し再生されます。
- コピーを実行するには、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
 - コピーしてよい場合は**13**[+](はい)を、中止するには**13**[-](いいえ)を押します。
 - コピー中は“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。

既存リズムのパートを編集用にコピーするには

❗ 重要

- ・イントロまたはエンディングに含まれるパートは、コピーできません。

1. リズムのエディットモードで、コピー先のパートを選びます。
 - ・67ページ「リズム全体を新規作成し保存するには」の手順1～5、または68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順1～5を実行してください。
2. **28**レジストレーション[1]を押します。
“Element”と表示されます。
3. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Part”を表示し、[6](エンター)を押します。
現在選択されているリズム番号とリズム名が表示されます。
4. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、伴奏パターンのコピー元として使いたいリズムの番号を選びます。
5. コピー元として使いたいパートが含まれている伴奏パターンを選びます。
選んだ伴奏パターンに応じたインジケーターが点滅します(41ページ)。

これを選ぶには:	このボタンを押す:
バリエーション1～4、 フィルイン1～4	15 バリエーション/フィルイン1～ 18 バリエーション/フィルイン4*

※ボタンを押すたびに、バリエーションとフィルインの間で交互に切り替わります。

6. コピー元として使いたいパートを選びます。
 - (1) **9**パートを押して、ボタン左側のランプを点灯させます。
 - (2) **12**数字ボタンの[1]～[8]を使って、編集対象パートの名前を選びます。

このパートを選ぶには:	この数字ボタンを押す:
パーカッション	[1]
ドラム	[2]
ベース	[3]
コード1～コード5	[4]～[8]

- (3) **9**パートを押して、ボタン左側のランプを消灯させます。
 - ・ここで**20**スタート/ストップを押すと、コピー元として選んだパートだけが、繰り返し再生されます。

7. コピーを実行するには、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。

8. コピーしてよい場合は**13**[+](はい)を、中止するには**13**[-](いいえ)を押します。
 - ・コピー中は“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。

1つの伴奏パターンに含まれる全パートへの記録内容を一括してクリアするには

1. リズムのエディットモードで、全パートをクリアしたい伴奏パターンを選びます。
 - ・68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順1～3を実行してください。
2. **28**レジストレーション[2]を押します。
“Element”と表示されます。
3. **12**数字ボタンの[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
4. クリアしてよい場合は**13**[+](はい)を、中止するには**13**[-](いいえ)を押します。
 - ・選んだ伴奏パターンのすべてのパートがクリアされます。

1つの伴奏パターンに含まれる特定パートへの記録内容をクリアするには

📝 メモ

- ・イントロまたはエンディングに含まれるパートは、クリアできません。
1. リズムのエディットモードで、クリアしたいパートを選びます。
 - ・68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順1～5を実行してください。
 2. **28**レジストレーション[2]を押します。
“Element”と表示されます。
 3. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Part”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
 4. クリアしてよい場合は**13**[+](はい)を、中止するには**13**[-](いいえ)を押します。
 - ・選んだパートがクリアされます。

ユーザーリズムを保存するには

メモ

- ここで示す操作は、下記いずれかの手順として実行します。
 - 67ページ「リズム全体を新規作成し保存するには」の手順12
 - 68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順12
 - 70ページ「既存リズムのミキサー設定だけ変更し保存するには」の手順8

1. **12**数字ボタンの[7](記録)を押します。

- 編集元がユーザーリズムの場合、ここで“Replace?”と表示されます。元のリズムデータを新しいデータで置き替えてよい場合は**13**[+](はい)を、置き替えずに新規保存するには**13**[-](いいえ)を押します。
- すでに内蔵メモリーの上限(CT-X5000:100個、CT-X3000:50個)までユーザーリズムを保存済みで、新規保存ができない場合、上記で**13**[-](いいえ)を押すと、“DataFull”というエラーメッセージが表示されます。
- リズムの保存中は“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。

2. リズムのエディットモードから抜けるには、**12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しします。

- 手順1の操作後に何の編集も実行していない場合は、リズムのエディットモードから抜けてEDITインジケーターが消灯します。
- 手順1の操作後に何らかの編集を実行した場合は、ここで“Exit?”と表示されます。下記のいずれかを実行してください。

これをするには:	この操作をする:
リズムのエディットモードから抜けずに、編集を続ける	13 [-](いいえ)を押す。
編集後のデータを上書き保存してリズムのエディットモードから抜ける	(1) 13 [+](はい)を押す。 (2) “Write?”と表示されたら、もう一度 13 [+](はい)を押す。
編集後のデータを破棄してリズムのエディットモードから抜ける	(1) 13 [+](はい)を押す。 (2) “Write?”と表示されたら、 13 [-](いいえ)を押す。

メモ

- 新規保存の場合、保存先のリズム番号は、ユーザーリズムが保存されていない最小のユーザーリズム番号となります。操作を終了すると、保存後のユーザーリズムが選ばれた状態になります。

リズム番号	リズム名
294	No Name

- ユーザーリズムの名前は、データを未保存の場合“ No Data”、データを保存済みの場合は“ No Name”となります。名前の変更については、77ページ「ユーザーリズムの名前を変更するには」をご参照ください。

ユーザーリズムのパート再生設定

ユーザーリズムのパート再生設定を変更するには

メモ

- ここで示す操作は、下記いずれかの手順として実行します。
 - 67ページ「リズム全体を新規作成し保存するには」の手順7
 - 68ページ「既存リズムの伴奏パターンを編集し保存するには」の手順7

1. **23**レジストレーション[8](エディットメニュー)を押します。

2. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Part”を表示し、[6](エンター)を押します。

3. [1]()または[3]()を使って、変更対象のメニュー項目を表示します。

4. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。 - メニュー項目と設定値の範囲は下記のとおりです。

項目名 (表示)	設定範囲
コード変換テーブル(Table)	01~19
ブレイクポイント(Break Pt)	C~B
インバージョン(Invert)	オン、オフ、7th
リトリガー(Retrig.)	オン、オフ
バンドレンジ(BndRng)	00~24

- 各項目についての詳細は、75ページ「ユーザーリズムのパート再生設定詳細」をご参照ください。

5. **12**数字ボタンの[4](戻る)を押します。

ユーザーリズムのパート再生設定詳細

■コード変換テーブル(Table)

各伴奏パターンの記録は、通常Cメジャー(ルートがC、タイプがメジャーのコード)で行います。一方、自動伴奏の演奏時は、Cメジャー以外のルートやタイプのコードが再生できます。これは本機が、Cメジャーで記録されているデータを、異なるルートやタイプのコードに変換しているためです。変換時には、どんなルートやタイプのコードを指定してもなるべく音楽的に自然に演奏されるように、楽器パートや音楽のジャンルに応じた補正も行われます。この補正に使われるのが「コード変換テーブル」です。

コード変換テーブルは、下記の19種類から選ぶことができます。

番号	テーブル名	伴奏パターン	楽器パート	内容
01	Bass Basic	※1	ベース	ベースパートに通常使用。
02	Bass f-root	※1	ベース	01番のバリエーション。コードを切り替えた時に最初のノートを強制的にルート音にする。
03	Bass 7th	※1	ベース	7thコードで記録したベースパートに使用。
04	Bass 7th f-root	※1	ベース	03番のバリエーション。コードを切り替えた時に最初のノートを強制的にルート音にする。
05	Chord Basic	※1	コード	コードパートに通常使用。
06	Chord Var2	※1	コード	テンションコードがあるコードパートに使用。
07	Chord Var3	※1	コード	演奏時に7thコードを指定すると5度の音が7度の音に変換される。例えばC7の場合、G音がB♭音になる。
08	Chord Var4	※1	コード	05番のバリエーション。
09	Chord 7th	※1	コード	7thコードで記録したコードパートに使用。
10	Chord Minor	※1	コード	マイナーコードで記録したコードパートに使用。
11	Phrase	※1	コード	メジャースケール等のフレーズで記録したコードパートに使用。
12	Chord Minor	※1	ベース	マイナーコードで記録したベースパートに使用。
13	Chord Minor f-root	※1	ベース	12番のバリエーション。コードを切り替えた時に最初のノートを強制的にルート音にする。
14	Penta Phrase	※1	コード	ペンタトニックスケールフレーズで記録したコードパートに使用。
15	Intro n-minor	※2	ベース/コード	演奏時にマイナーコードを指定するとナチュラルマイナーに変換される。
16	Intro m-minor	※2	ベース/コード	演奏時にマイナーコードを指定するとメロディックマイナー(上行系)に変換される。
17	Intro h-minor	※2	ベース/コード	演奏時にマイナーコードを指定するとハーモニックマイナーに変換される。
18	Intro no Change	※2	ベース/コード	演奏時のコード指定に応じたマイナー/メジャー変換をせず、記録されたオリジナルのまま。
19	Intro dorian	※2	ベース/コード	演奏時にマイナーコードを指定するとドリアンスケールに変換される。

※1 バリエーションおよびフィルイン用

※2 イントロおよびエンディング用

■ブレイクポイント(Break Pt)

CからBまでのどのキーを境に、自動伴奏のベースとコードの演奏音を1オクターブ下げるか指定します。

例えばFを指定すると、Cメジャーによる記録音がC3E3G3(ドミソ)のとき、コード入力鍵盤でのコード指定がDのときD3F#3A3(1音ずつ上のレファ#ラ)、EのときE3G#3B3(1音ずつ上のミソ#シ)、FのときF2A2C3(1オクターブ下のファラド)になります。

■インバージョン(Invert)

自動伴奏の演奏時に、コードを転回形(「ドミソ」という和音に対する「ミソド」や「ソドミ」)で鳴らすかどうかを指定します。例えばCメジャーで記録した元のコードが「ドミソ」の場合、再生時にコード入力鍵盤でFを指定すると、この設定がオフ(Off)ならば平行移動で「ファラド」、オン(On)(または「7th」)ならば「ドミソ」に近い転回形に変換されて「ドファラ」が鳴ります。オン(On)(または「7th」)にすると、再生されるコードの音の移動が小さくなるので、伴奏がより自然な感じになります。

なお「7th」は、記録をC7コードで行い(「PlayChrd」設定※:「C7」)、コード変換テーブルとして「09」を選択した場合に限り、オン(On)の代わりに選んでください。

※「PlayChrd」については、71ページ「ユーザーリズムの記録に関する設定項目」をご参照ください。



- この設定をオン(On)(または「7th」)にした場合は、ブレイクポイント(Break Pt)の値を「C」にしてください。

■リトリガー(Retrig.)

自動伴奏の演奏時にコードを変更したとき、その時点で鳴っていた変更前のコード指定による伴奏音を、変更後のコードでも、変更したタイミングで再発音するかどうかを指定します。オン(On)にすると再発音し、オフ(Off)にすると再発音しません。

■ベンドレンジ(BndRng)

ピッチベンドホイール操作時のベンドレンジを半音単位で設定します。

リズム全体に対する操作

リズム全体のミキサー設定を変更するには

- リズムのエディットモードでユーザーリズムの編集中に、**[23]**レジストレーション[8](エディットメニュー)を押します。
- [12]**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って「Rhythm」を表示し、[6](エンター)を押します。
「Volume」と表示されます。
- [1]()または[3]()を使って、変更対象のメニュー項目を表示します。

項目名(表示)	内容	設定範囲
音量(Volume)	リズム全体の音量を調整します。	0~127
リバーブタイプ(Reverb)	リズム全体にかかるリバーブのタイプを指定します。	※1
コーラスタイプ(Chorus)	リズム全体にかかるコーラスのタイプを指定します。	※2
ディレイタイプ(Delay)	リズム全体にかかるディレイのタイプを指定します。	※3

※1 21ページ「リバーブエフェクター一覧」をご参照ください。

※2 22ページ「コーラスエフェクター一覧」をご参照ください。

※3 22ページ「ディレイエフェクター一覧」をご参照ください。

- [13]**[-]、[+]、または**[11]**ダイヤルを使って、設定値を変更します。
- [12]**数字ボタンの[4](戻る)を押します。

リズム内すべての伴奏パターンの記録内容を一括してクリアするには

- 上記「リズム全体のミキサー設定を変更するには」の手順1, 2を実行します。
- [12]**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って「All Clear」を表示し、[6](エンター)を押します。
「Sure?」と表示されます。
- 一括クリアを実行してよい場合は**[13]**[+] (はい)を、中止するには**[13]**[-] (いいえ)を押します。
- [12]**数字ボタンの[4](戻る)を押します。

ユーザーリズムの名前を変更するには

1. 名前を変更したいユーザーリズムを選びます。
2. “Rhy Name”と表示されるまで、**8** 録音／停止を押したままにします。
3. **12** 数字ボタンの[6] (エンター)を押します。
名前を変更できる状態になります。
4. 新しい名前を入力します。
• 文字の入力操作については、14ページ「文字の入力について」をご参照ください。
5. [6] (エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
6. 名前を変更してよい場合は**13** [+] (はい) を、中止するには**13** [-] (いいえ) を押します。
7. 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの[4] (戻る)を押します。

ユーザーリズムをコピーするには

1. コピーを作成したいユーザーリズムを選びます。
2. “Rhy Name”と表示されるまで、**8** 録音／停止を押したままにします。
3. **12** 数字ボタンの[1] ($\angle$)または[3] ($\angle$)を使って“Rhy Copy”を表示し、[6] (エンター)を押します。
4. **13** [-]、[+]、または**11** ダイアルを使ってコピー先のリズム番号を選び、[6] (エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
• コピー先として指定したリズム番号にすでにユーザーリズムが保存済みの場合は、“Replace?”と表示されます。
5. コピーを実行してよい場合は**13** [+] (はい) を、中止するには**13** [-] (いいえ) を押します。
• コピー中は“Wait...” (実行中) と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete” (完了) と表示されます。
6. 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの[4] (戻る)を押します。

ユーザーリズムを消去するには

1. 消去したいユーザーリズムを選びます。
2. “Rhy Name”と表示されるまで、**8** 録音／停止を押したままにします。
3. **12** 数字ボタンの[1] ($\angle$)または[3] ($\angle$)を使って“Rhy Clr”を表示し、[6] (エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
4. 消去してよい場合は**13** [+] (はい) を、中止するには**13** [-] (いいえ) を押します。
5. 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの[4] (戻る)を押します。

MIDI レコーダーを使って録音する

本機を使った演奏をそのまま録音し、再生できます。

- 10曲まで録音できます。録音した内容は、ソングバンクの31～40番(ユーザー録音)に保存されます。
- 1曲あたり999小節、または1曲あたり約40,000音符まで録音できます(どちらかの制限に到達すると、録音は終了します)。
- 録音したソングを再生しながら、それに合わせて鍵盤演奏ができます。

重要

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

MIDIレコーダーについて

MIDIデータ※として、内蔵メモリーにあるシステムトラックと16個のソロトラック(演奏が記録されるデータ領域)へ録音します。

- 鍵盤の演奏情報(鍵盤の押鍵や離鍵、タッチの強さなど)をMIDIデータとして記録します。
- MIDIデータは、オーディオデータと比較すると極めてデータサイズが小さく、コンピューターなどで後から編集することができますという利点があります。
- MIDIレコーダーはMIDIデータとして記録されている演奏情報に従って、本機の内蔵音源を鳴らします。

※MIDIとは

MIDI(ミディ)とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略で、メーカーを問わず、電子楽器同士あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で演奏情報(鍵盤の押鍵や離鍵、タッチの強さなど)をやり取りできるように定めた統一規格のことです。やり取りする演奏情報をMIDIデータと呼びます。

■録音トラックと記録される内容について

● システムトラック

自動伴奏やフレーズパッド、レイヤー、スプリットなど、本機の多くの機能を使った演奏が録音できます。

● ソロトラック1～16

1音色(UPPER 1)を使った鍵盤演奏が録音できます。これらのトラックに、下図のイメージで重ね録音ができます。

システム	録音	録音済	録音済
ソロ1	空	録音	録音済
ソロ2	空	空	録音済
⋮	⋮	⋮	⋮
ソロ16	空	空	録音

それぞれのトラックに記録できる内容は、下記のとおりです。

トラックの種類	記録される内容
システムトラック	鍵盤演奏、音色番号(UPPER 1、UPPER 2、LOWER 1、LOWER 2)、リズム番号、テンポ、拍子、リズムコントローラーの操作、コード指定、フレーズパッドの操作、自動伴奏の音量、エフェクトの設定(リバーブ、コーラス、ディレイ)、レイヤー、スプリット、オートハーモナイズ/アルペジエーター演奏、スケール設定(プリセットスケールのタイプとルート、スケールファインチューン、自動伴奏スケールのオン/オフ設定)、パートファインチューン、パートコースチューン、オクターブシフト設定、ペダル操作、ピッチベンドホイール操作、ベンドレンジ設定、ミキサー設定、ポルタメントボタン操作、サステインボタン操作 CT-X5000:モジュレーション/アサイナブルボタン操作(ビブラート、DSPパラメーター設定)
ソロトラック	鍵盤演奏、音色番号(UPPER1)、アルペジエーター演奏、オクターブシフト設定、ペダル操作、ピッチベンドホイール操作、ベンドレンジ設定、パートファインチューン、パートコースチューン、ミキサー設定、ポルタメントボタン操作、サステインボタン操作 CT-X5000:モジュレーション/アサイナブルボタン操作(ビブラート、DSPパラメーター設定)

■外部機器への保存について

MIDIレコーダーで録音したソングを、USBメモリーやパソコンに保存できます。詳細は、104ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存するには」および107ページ「本機とパソコンの間でデータを転送する」をご参照ください。

録音の始め方について

録音は、下記どちらかのモードから始めることができます。

● リズムモードから始める

8 録音／停止を押して、鍵盤を弾き始めれば、録音が始まります。システムトラックへの録音を気軽に始めたいときに便利です。

● ソングバンクモードから始める

録音先のソング番号を先を選んでから **8** 録音／停止を押して、録音を始める方法です。

どちらのモードから始めるかで、**8** 録音／停止を押したときの状態が異なります。録音を始める前に下記操作をお試ください。

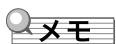
リズムモードから録音を始める場合

1. **6** リズムを押して、リズムモードに入ります。
2. **8** 録音／停止を押します。
録音待機状態に入り、RECORDインジケーターが点滅します。
 - リズムや音色を選ぶことができます。
 - 鍵盤を弾くと録音が始まります。**20** スタート／ストップを押すとリズムがスタートすると同時に、録音も開始されます。
3. **8** 録音／停止を長押しします。
録音設定状態に入り、“RecTrkSy”と表示されます。RECORDインジケーターは、点滅したままです。
 - **20** スタート／ストップを押すと録音が始まりますが、リズムはスタートしません。録音の先頭に休符を入れる場合には、この方法で録音を開始します。
 - この状態では、録音先のトラックを変更するなど、録音に関する設定が可能です。
4. **8** 録音／停止を押します。
録音待機状態に戻ります。
5. 録音待機状態から抜けるには、**8** 録音／停止を押します。
RECORDインジケーターが消灯します。
 - この操作で録音すると、ソング番号31～40番の中で、まだ録音されていない最小の番号が、録音先として自動的に選ばれます。

ソングバンクモードから録音を始める場合

1. **7** ソングバンクを押して、ソングバンクモードに入ります。
2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または**11** ダイアルを使って、31～40番(ユーザー録音)のいずれかを選びます。
3. **8** 録音／停止を押します。
録音設定状態に入り、“RecTrkSy”と表示されます。
 - 上記「リズムモードから録音を始める場合」の手順3の状態と同様です。
4. もう一度、**8** 録音／停止を押します。
録音待機状態に入ります。
 - 上記「リズムモードから録音を始める場合」の手順2の状態と同様です。
 - ここで **8** 録音／停止を長押しすると、録音設定状態に戻ります。
5. 録音待機状態から抜けるには、もう一度 **8** 録音／停止を押します。
RECORDインジケーターが消灯します。

演奏を録音する



- 録音中に録音できる残り音符数が100以下になると、RECORDインジケーターが点滅します。残りがなくなると、録音は自動的に終了し、インジケーターが消灯します。
- 新規録音の場合で、録音先のソング番号を選んでから録音したい場合は、82ページ「録音待機中に録音先のソング番号を変えるには」をご参照ください。
- 録音開始前のプレカウントや、録音中のメトロノームを鳴らすことができます。83ページ「プレカウントやメトロノームを鳴らすには」をご参照ください。
- 録音操作中で、録音を始める前(RECORDインジケーターの点滅中)は、**8 録音/停止**を1回(または2回)押してRECORDインジケーターを消灯させることで、いつでも録音待機状態から抜けることができます。

システムトラックに新規録音するには

1. **6 リズム**を押します。

2. 録音を開始するときのテンポを設定します。

- 40ページ「テンポ(速さ)を変える」をご参照ください。

3. 録音を開始するときを使うリズムや音色を選びます。

- 39ページ「リズムを選ぶ」、16ページ「音色を選ぶ」をご参照ください。
- システムトラックの各パートに対するミキサー設定を変更したい場合は、55ページ「ミキサー設定を変更するには」を実行してください。KEYBOARDパートグループの各パートが、設定変更の対象となります。
- レイヤーやスプリットの設定、その他さまざまな設定も記録されます。記録される内容の詳細は、78ページ「録音トラックと記録される内容について」をご参照ください。

4. **8 録音/停止**を押します。

録音待機状態に入ります。



- このとき、ミキサー情報表示エリアの**SONG**と**SYSTEM**インジケーターが点灯し、ミキサーパートインジケーター①～⑨のすべてが点滅します。これは、システムトラックが録音対象であることを表します。



5. 鍵盤を弾くと、自動的に録音が始まります。

- 20 スタート/ストップ**を押すとリズムがスタートすると同時に、録音も開始されます。



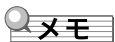
- 録音中は、録音開始からの小節と拍が、液晶表示部の右上に表示されます。



6. 録音を終了するには、**8 録音/停止**を押します。

RECORDインジケーターが消灯します。

- ここで**20 再生/停止**を押すと、録音内容が再生されます。



- 上記操作で録音すると、ソング番号31～40番の中で、まだ録音されていない最小の番号が、録音先として自動的に選ばれます。

ソロトラックに新規録音するには

1. 録音を開始するときのテンポを設定します。
 - 40ページ「テンポ(速さ)を変える」をご参照ください。
2. 録音を開始するときにする音色を選びます。
 - 16ページ「音色を選ぶ」をご参照ください。
 - レイヤーやスプリットは使えません。
 - 録音対象のソロトラックに対するミキサー設定を変更したい場合は、55ページ「ミキサー設定を変更するには」を実行してください。KEYBOARDパートグループのUPPER 1パートが、設定変更の対象となります。
 - ソロトラックに記録される内容の詳細は、78ページ「録音トラックと記録される内容について」をご参照ください。
3. **[8] 録音/停止**を押します。

録音待機状態に入ります。



- このとき、ミキサー情報表示エリアの**SONG**と**SYSTEM**インジケータが点灯し、ミキサーパートインジケータ**[1]～[9]**のすべてが点滅します。これは、システムトラックが録音対象であることを表します。



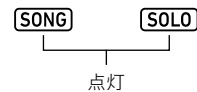
4. 録音先のソロトラックを選びます。

- (1) **[8] 録音/停止**を長押しします。

録音設定状態に入り、録音先トラックが選べる状態になります。

RecTrkSy

- “RecTrkSy”は、現在の録音先トラックがシステムトラックであることを表します。
- (2) **[13] [-]**、**[+]**、または**[11]**ダイヤルを使ってSONGとSOLOインジケータを点灯させ、録音対象のソロトラックを選びます。



!RecTrk 1

- “RecTrk”は、現在の録音先トラックがソロトラックであることを表し、数字はトラック番号を表します。
 - このとき、該当するミキサーパートインジケータ(**[1]～[10]**)が点滅します。
- (3) **[8] 録音/停止**を押して、録音待機状態に戻ります。
 - 録音の先頭部分に休符を入れたい場合は、**[8] 録音/停止**を押す代わりに、**[20] スタート/ストップ**を押します。録音が始まるまで、鍵盤を弾き始めるまでは休符が入ります。

5. 鍵盤を弾くと、自動的に録音が始まります。



6. 録音を終了するには、**[8] 録音/停止**を押します。

- RECORDインジケータが消灯します。
- ここで**[20] 再生/停止**を押すと、録音内容が再生されます。

録音済みのトラックを再生しながら別のソロトラックに重ねて録音するには

1. **7** ソングバンクを押します。
2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、重ね録音先のソング番号を選びます。
 - 1つ以上のトラックに録音済みのユーザー録音ソングを選んでください。
3. 録音を開始するときに使う音色を選びます。
 - (1) **5** トーンを押します。
 - (2) **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、音色番号を選びます。
 - レイヤーやスプリットは使えません。
 - ソロトラックに記録される内容の詳細は、78ページ「録音トラックと記録される内容について」をご参照ください。

4. **8** 録音/停止を押します。
録音待機状態に入ります。



点滅

- このとき、液晶表示部に“RecTrkSy”と表示され、ミキサー情報表示エリアの**SONG**と**SYSTEM**インジケータが点灯し、ミキサーパートインジケータ **1** ~ **9** のすべてが点滅します。これは、システムトラックが録音対象であることを表します。

5. **13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って**SONG**と**SOLO**インジケータを点灯させ、録音対象のソロトラックを選びます。
 - **SONG**と**SOLO**インジケータの点灯中は、ミキサーパートインジケータ **1** ~ **16** が、ソロトラックの状態を表示します。点灯中のインジケータは録音済みのソロトラックを表し、点滅中のインジケータは録音対象のソロトラックを表します。
 - 録音済みのトラックを選んだ場合は、そのトラックへの上書き録音となります。
6. **8** 録音/停止を押して、録音待機状態に入ります。
 - 録音の先頭部分に休符を入れたい場合は、**8** 録音/停止を押す代わりに、**20** スタート/ストップを押します。他のトラックに録音済みの内容が再生させると同時に録音が始まり、鍵盤を弾き始めるまでは休符が入ります。

7. 鍵盤を弾くと、自動的に録音が始まります。
録音済みトラックの再生が始まると同時に、手順5で選んだトラックへの録音が始まります。

RECORD

点灯

8. 録音を終了するには、**8** 録音/停止を押します。
RECORDインジケータが消灯します。
 - ここで**20** 再生/停止を押すと、録音内容が再生されます。
9. 他のトラックにも重ね録音したい場合は、手順3~8の操作を繰り返します。

録音待機中に録音先のソング番号を変えるには

1. **8** 録音/停止を押します。
 - リズムモードから操作を始めた場合は、録音待機状態に入ります。手順2に進みます。
 - ソングバンクモードから操作を始めた場合は録音設定状態になるので、手順2の操作は不要です。手順3に進んでください。
 - 録音待機状態と録音設定状態については、79ページ「録音の始め方について」をご参照ください。
2. **8** 録音/停止を長押しします。
録音設定状態に入り、“RecTrkSy”と表示されます。

RecTrkSy

3. **12** 数字ボタンの[1] () または [3] () を使って、“MltRec 1”を表示します。

03 MltRec 1

4. **13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、録音先のソング番号を選びます。
5. **8** 録音/停止を押します。
録音設定状態から抜けて、録音待機状態に戻ります。

プレカウントやメトロノームを鳴らすには

- 8** 録音/停止を押します。
 - リズムモードから操作を始めた場合は、録音待機状態に入ります。手順2に進みます。
 - ソングバンクモードから操作を始めた場合は録音設定状態になるので、手順2の操作は不要です。手順3に進んでください。
 - 録音待機状態と録音設定状態については、79ページ「録音の始め方について」をご参照ください。
- 8** 録音/停止を長押しします。
録音設定状態に入り、“RecTrkSy”と表示されます。
- 12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って、設定を変更したいメニュー項目を表示します。
 - アスタリスク(*)付きの設定値は、初期設定です。

項目名(表示)	内容	設定範囲
プレカウント (Precount)	録音設定状態で 20 スタート/ストップを押したとき、記録が開始される前のプレカウントを鳴らすかどうかを指定します。オン(On)にすると1小節分のプレカウントが鳴ります。オフにするとプレカウントは鳴らずに、 20 スタート/ストップまたは鍵盤を押すと同時に記録が開始されます。	オン、オフ*
メトロノーム (Metronom)	オン(On)にすると、記録時にメトロノームが鳴ります。オフ(Off)にすると鳴りません。	オン、オフ*

- 13** [-]または[+]を使って、設定値を変更します。
- 8** 録音/停止を押します。
録音設定状態から抜けて、録音待機状態に戻ります。

録音済みトラックの一部を録音し直す(オーバーダビング録音/パンチイン録音)

録音済みのトラックに対して、下記のような録音が可能です。

オーバーダビング録音	すでに録音されている内容は消さずに、演奏を追加で録音します。
パンチイン録音	ミスタッチのあった箇所など、曲の一部分だけを録音し直します。

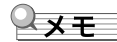
オーバーダビング録音、またはパンチイン録音を開始したい位置を早送りや早戻し操作で頭出ししてから、録音を開始できます。また、録音の開始位置と終了位置を先に指定しておいてソングを再生し、指定した録音の開始位置でタイミングを合わせて演奏し始めることも可能です。

オーバーダビング録音/パンチイン録音するには

- 7** ソングバンクを押します。
- 12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、オーバーダビング録音またはパンチイン録音したいトラックを含むソングの番号を選びます。
- 8** 録音/停止を押します。
録音設定状態に入り、RECORDインジケーターが点滅します。
- 12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って、“Rec Type”を表示します。
- 13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、下記のいずれかを表示します。

これをするには:	これを表示する:
オーバーダビング録音	Over Dub
パンチイン録音	Punch In

液晶表示部右上の“MEASURE”と“BEAT”が点滅します。



- 録音中のミキサー設定を変更したい場合は、ここで55ページ「ミキサー設定を変更するには」を実行してください。システムトラックへの録音時はSONG SYSTEM/パートグループの各パートが対象となります。ソロトラックへの録音時は、SONG SOLOパートグループの該当パート(例えばソロトラック3への録音時であれば、SONG SOLOパートグループのパート3)が、設定変更の対象となります。

- 20** 再生/停止を押します。
ソングの再生が開始されます。
 - ここで手順9に進んで、すぐに録音を開始することも可能です。
 - オーバーダビング録音/パンチイン録音の操作をやるには、もう一度**20**再生/停止を押します(RECORDインジケーターが消灯します)。
- 18** ►► 早送り、**17** ◀◀ 早戻しを使って、録音の開始位置を頭出しします。
 - 19** ■一時停止を使うと、ソングの一時停止、一時停止したソングの再開ができます。
 - 手順8の操作後、手順9で鍵盤を弾くと同時に、録音が始まります。録音の開始位置を決めたら、その少し手前を頭出しして、手順9に進むとよいでしょう。
- 22** [ACCOMP]伴奏を押します。
液晶表示部右上の“MEASURE”と“BEAT”の点滅が速くなります。再生の一時停止中だった場合は、再生が再開されます。
 - システムトラックへの録音時は、この時点でリズム操作の各ボタンが操作できる状態になります。

9. 下記の操作で、録音を開始します。

- 鍵盤を弾くと、録音が始まります。
- パンチイン録音の場合は**23**ストアを押して、録音を開始することもできます。この場合、鍵盤を弾き始めるまでは、休符(無音)となります。
“MEASURE”と“BEAT”が点灯に変わります。また、RECORDインジケーターが点灯します

10. 録音を終了するには、**8**録音/停止を押します。
RECORDインジケーターが消灯します。

録音の開始位置と終了位置を先に指定してオーバーダビング録音/パンチイン録音するには

- 35ページ「曲の小節間を繰り返し再生する (A-B リピート)」を実行します。
 - 実行の際は、オーバーダビング録音またはパンチイン録音したいトラックを含むソングの番号を選んでください。
- 83ページ「オーバーダビング録音/パンチイン録音するには」の手順3～7を実行します。
- 22**[ACCOMP]伴奏を押します。
液晶表示部右上の“MEASURE”と“BEAT”の点滅が速くなります。
- 手順1で指定した区間の先頭に到達すると、自動的に録音が始まります。
“MEASURE”と“BEAT”が点灯に変わります。また、RECORDインジケーターが点灯します
 - 鍵盤で演奏します。
- 指定した区間の末尾に到達するとRECORD インジケーターが消灯し、自動的に録音が終了します。

録音したソングを再生する

録音したソングを再生するには

- 7**ソングバンクを押します。
- 12**数字ボタン、**13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、録音済みソングの番号を選びます。
 - ソング番号31～40番(MltRec 1～MltRec 10)から、再生したいものを選びます。
- 20**再生/停止を押します。
ソングの再生が始まります。
 - 再生中に可能な操作は、内蔵ソングの再生時とほぼ同様です(ただし、一部できない操作もあります)。34ページ「内蔵曲やUSBメモリーの曲を再生する(ソングバンクモード)」をご参照ください。

一部のトラックを消音(ミュート)するには

- 7**ソングバンクを押します。
- 12**数字ボタン、**13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、録音済みソングの番号を選びます。
- 14**パートセレクトを押します。
“TrSyMute”と表示されます。

現在の設定値 項目名(システムトラックを表す)

oFF Tr Sy Mute

- 12**数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って、消音したいトラックを選びます。
- 13**[-]または[+]を使って、手順4で選んだトラックの消音/発音の状態を切り替えます。
 - **13**[+]を押すと消音状態(ミュートオン)、**13**[-]を押すと発音状態(ミュートオフ)になります。
- 手順4、5を必要なだけ繰り返します。
- 12**数字ボタンの[4](戻る)を押します。
- 20**再生/停止を押します。
 - 指定に従って一部のトラックが消音した状態で、ソングが再生されます。
- ソングの再生を止めるには、**20**再生/停止を押します。
 - 一部のトラックを消音した状態で、重ね録音することもできます。上記操作に引き続き、82ページ「録音済みのトラックを再生しながら別のソロトラックを重ねて録音するには」の手順3以降を実行します。

録音したソングをコピーする／録音したソングやトラックを消去する

録音したソングをコピーするには

1. **7** ソングバンクを押します。
2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、コピーしたいソングの番号を選びます。
3. “Song Clr”と表示されるまで、**8** 録音／停止を押したままにします。
4. **12** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って“SongCopy”を表示し、[6](エンター)を押します。
5. **13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使ってコピー先のソング番号を選び、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
 - コピー先として指定したソング番号にすでにユーザー録音のソングが保存済みの場合は、“Replace?”と表示されます。
6. コピーを実行してよい場合は**13** [+] (はい)を、中止するには**13** [-] (いいえ)を押します。
 - コピー中は“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
7. 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの[4](戻る)を押します。

録音したソングを消去するには

1. **7** ソングバンクを押します。
2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、消去したいソングの番号を選びます。
3. “Song Clr”と表示されるまで、**8** 録音／停止を押したままにします。
4. **12** 数字ボタンの[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
5. 消去してよい場合は**13** [+] (はい)を、中止するには**13** [-] (いいえ)を押します。
6. 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの[4](戻る)を押します。

録音したソングの特定トラックを消去するには

1. **7** ソングバンクを押します。
2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、消去したいトラックを含んでいるソングの番号を選びます。
3. “Song Clr”と表示されるまで、**8** 録音／停止を押したままにします。
4. **12** 数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って、“TrkSyClr”を表示します。
5. **13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、消去したいトラックを選びます。
6. **12** 数字ボタンの[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
7. 消去してよい場合は**13** [+] (はい)を、中止するには**13** [-] (いいえ)を押します。
8. 消去したいトラックの分だけ、手順5～7の操作を繰り返します。
9. 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの[4](戻る)を押します。

ソングエディットモードについて

下記操作を実行するときは、ソングエディットモードに入ります。

- 録音したソング全体を小節単位で編集する (86ページ)
- 録音したソングをトラック単位で編集する (87ページ)
- 録音したソングのトラックを小節単位で編集する (88ページ)
- 録音したソングをイベント単位で編集する (90ページ)
- 音符やコードを1つずつ入力する (93ページ)
- 録音したソングのミキサー設定 (95ページ)

ソングエディットモードに入るには

1. **7** ソングバンクを押します。
2. **12** 数字ボタン、**13** [-]、[+]、または **11** ダイアルを使って、編集したいソングの番号を選びます。
3. EDITインジケーターが点灯するまで、**10** 機能を長押しします。



- ソングエディットモードに入ります。このとき液晶表示部には“Song”と表示されます。

ソングエディットモードでの操作を完了するには



- 下記操作は、ソングエディットモードで実行する操作の最後に実施します。

1. ソングエディットモードでの操作を実行してよい場合は**13**[+](はい)を、中止するには**13**[-](いいえ)を押します。
 - **13**[+](はい)を押すと、“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
2. ソングエディットモードから抜けるには、**12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しします。

録音したソング全体を小節単位で編集する(ソングエディット)

録音したソング全体(ソングに含まれるすべてのトラック)を、小節単位で編集します。



- 下記操作では、小節の先頭(“Point A”、または“Point”)と末尾(“Point B”)を指定します。これら指定の初期値として、35ページ「曲の小節間を繰り返し再生する(A-Bリピート)」で指定した区間が使われます。

ソング内の指定範囲を小節単位で消去するには



- この操作を実行すると、指定した範囲は空白小節となります。ソング全体の小節数は変化しません。

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. **12**数字ボタンの[6](エンター)を押します。
“Clear”と表示されます。
3. もう一度[6](エンター)を押します。
“Point A”と表示されます。
4. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、消去したい先頭の小節番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Point B”と表示されます。
5. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、消去したい末尾の小節番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
6. 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

ソング全体を小節単位でコピーして、同じソングの指定位置に挿入するには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. **12**数字ボタンの[6](エンター)を押します。
“Clear”と表示されます。
3. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って、“Copy”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Point A”と表示されます。
4. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、コピー元先頭の小節番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Point B”と表示されます。
5. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、コピー元末尾の小節番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“DstPoint”と表示されます。
6. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、コピー先先頭の小節番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
7. 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

ソング内の指定位置に空白小節を挿入するには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. **12**数字ボタンの[6](エンター)を押します。
“Clear”と表示されます。
3. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って、“Insert”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Point”と表示されます。
4. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、空白の小節を挿入したい先頭の小節番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Length”と表示されます。
5. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、挿入したい小節数を指定し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
6. 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

ソング内の指定範囲を小節単位で削除するには



- この操作を実行すると、指定した範囲の小節が削除され、削除した分だけ以降の小節が手前に移動します。ソング全体の小節数は、削除した小節の分だけ減ります。

- 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
- 12** 数字ボタンの[6] (エンター) を押します。
“Clear” と表示されます。
- 12** 数字ボタンの[1] (∟) または[3] (∟) を使って、“Delete” を表示し、[6] (エンター) を押します。
“Point A” と表示されます。
- 13** [−]、[+]、または **11** ダイアルを使って、削除したい先頭の小節番号を指定し、[6] (エンター) を押します。
“Point B” と表示されます。
- 13** [−]、[+]、または **11** ダイアルを使って、削除したい末尾の小節番号を指定し、[6] (エンター) を押します。
“Sure?” と表示されます。
- 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

録音したソングをトラック単位で編集する

録音したソング内の、トラック全体に対する編集操作です。

指定したトラックを消去するには

- 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
- 12** 数字ボタンの[1] (∟) または[3] (∟) を使って“WholeTrk”を表示し、[6] (エンター) を押します。
“Clear” と表示されます。
- もう一度[6] (エンター) を押します。
“Trk Sy” と表示されます。
- 13** [−]、[+]、または **11** ダイアルを使って対象トラックを指定し、[6] (エンター) を押します。
“Sure?” と表示されます。
- 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

指定したソロトラックを別のソロトラックにコピーするには

- 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
- 12** 数字ボタンの[1] (∟) または[3] (∟) を使って“WholeTrk”を表示し、[6] (エンター) を押します。
“Clear” と表示されます。
- 12** 数字ボタンの[1] (∟) または[3] (∟) を使って“Copy”を表示し、[6] (エンター) を押します。
“SrcTrk 1” と表示されます。
- 13** [−]、[+]、または **11** ダイアルを使ってコピー元のトラックを指定し、[6] (エンター) を押します。
“DstTrk 1” と表示されます。
- 13** [−]、[+]、または **11** ダイアルを使ってコピー先のトラックを指定し、[6] (エンター) を押します。
“Sure?” と表示されます。
- 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

指定したトラックに含まれる特定のデータを消去するには

メモ

- 下記の操作では、下記いずれかのデータだけを、指定したトラックから消去します。

対象トラック	消去するデータ
システムトラック	ノートイベント
	伴奏操作のデータ
	伴奏操作とノートイベントを除くすべてのデータ
ソロトラック	ノートイベント
	ノートイベントを除くすべてのデータ

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. **12** 数字ボタンの[1](**∟**)または[3](**∟**)を使って“WholeTrk”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Clear”と表示されます。

3. [1](**∟**)または[3](**∟**)を使って、消去したいデータを選びます。

これを消去するには:	これを表示する:
ノートイベント	Note Clr
システムトラックの伴奏操作データ	AcompClr
システムトラックの伴奏操作とノートイベントを除くすべてのデータ	OtherClr
ソロトラックのノートイベントを除くすべてのデータ	

- “AcompClr”を選んだ場合は、手順6に進みます。それ以外を選んだ場合は、手順4に進みます。
4. [6](エンター)を押します。
“Trk Sy”と表示されます。
 5. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って操作対象のトラックを指定します。
 6. [6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
 7. 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

録音したソングのトラックを小節単位で編集する

録音したソングに含まれる各トラックに対して、小節単位でクオンタイズやキーシフト、消去などが可能です。

メモ

- クオンタイズは、基準となる音価に合わせて、トラックに録音されている音のタイミング(ノートイベントのノートオンタイミング)を自動的に補正する操作です。
- キーシフトは、トラックに録音されている音(ノートイベント)の音高を半音単位でずらす操作です。
- 下記操作では、小節の先頭(“Point A”、または“Point”)と末尾(“Point B”)を指定します。これら指定の初期値として、35ページ「曲の小節間を繰り返し再生する (A-Bリピート)」で指定した区間が使われます。

指定したトラックを小節単位でクオンタイズするには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. **12** 数字ボタンの[1](**∟**)または[3](**∟**)を使って“Trk Meas”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Quantize”と表示されます。
3. もう一度[6](エンター)を押します。
“Trk Sy”と表示されます。
4. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って対象トラックを指定し、[6](エンター)を押します。
“Point A”と表示されます。
5. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、クオンタイズしたい範囲の先頭を小節番号で指定し、[6](エンター)を押します。
“Point B”と表示されます。
6. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、クオンタイズしたい範囲の末尾を小節番号で指定し、[6](エンター)を押します。
“Value”と表示されます。
7. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、クオンタイズの基準となる音価を指定します。

表示	設定内容
4、8、16、32	それぞれ4分音符、8分音符、16分音符、32分音符を表します。
4d、8d、16d、32d	付点音符を表します。
4t、8t、16t、32t	三連符を表します。

8. [6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。

9. 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

指定したトラックを小節単位でキーシフトするには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Trk Meas”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Quantize”と表示されます。
3. [1]()または[3]()を使って“KeyShift”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Trk Sy”と表示されます。
4. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って対象トラックを指定し、[6](エンター)を押します。
“Point A”と表示されます。
5. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、キーシフトしたい範囲の先頭を小節番号で指定し、[6](エンター)を押します。
“Point B”と表示されます。
6. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、キーシフトしたい範囲の末尾を小節番号で指定し、[6](エンター)を押します。
“Value”と表示されます。
7. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、キーシフトの設定値を指定します。
• -24~24の範囲で設定します。設定値が1下がるごとに半音下がり、1上がるごとに半音上がります。
8. [6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
9. 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

指定したトラックを小節単位で消去するには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Trk Meas”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Quantize”と表示されます。
3. [1]()または[3]()を使って“Clear”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Trk Sy”と表示されます。

4. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って対象トラックを指定し、[6](エンター)を押します。
“Point A”と表示されます。
5. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、消去したい範囲の先頭を小節番号で指定し、[6](エンター)を押します。
“Point B”と表示されます。
6. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、消去したい範囲の末尾を小節番号で指定し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
7. 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

指定したトラックの一部を小節単位でコピーして、同じトラックの指定位置に挿入するには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. **12** 数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Trk Meas”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Quantize”と表示されます。
3. [1]()または[3]()を使って“Copy”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Trk Sy”と表示されます。
4. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って対象トラックを指定し、[6](エンター)を押します。
“Point A”と表示されます。
5. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、コピーしたい範囲の先頭を小節番号で指定し、[6](エンター)を押します。
“Point B”と表示されます。
6. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、コピーしたい範囲の末尾を小節番号で指定し、[6](エンター)を押します。
“DstPoint”と表示されます。
7. **13** [-]、[+]、または**11** ダイヤルを使って、コピー先先頭の小節番号を指定し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
8. 86ページ「ソングエディットモードでの操作を完了するには」を実行します。

録音したソングをイベント単位で編集する(イベントエディット)

MIDIレコーダーは、録音中の各種操作を「イベント」というデータとして記録します。例えば鍵盤を押すという操作は、鍵盤を押したタイミング、押した鍵盤(音高)、押していた時間(音の長さ)、押した強さ(音の大きさ)といった、複数のイベントとして記録されます。

本機では、下記のイベントを編集できます。

- ノートイベント
- 音色番号イベント
- リズム番号イベント(システムトラックのみ)
- 自動伴奏のコードイベント(システムトラックのみ)

イベントの表示について

イベントエディット中は、**12**数字ボタンの[2](▼)または[5](▲)を使って、個々のイベント間で表示を切り替えます。それぞれのイベントは、下記のように表示されます。

■ ノートイベント

本機では、ノートイベントのノートナンバー、ベロシティ、ゲートタイムという3つのパラメーターが編集対象です。イベントエディット中にノートイベントを表示したとき、最初に表示されるパラメーターは、ノートナンバーです。

● ノートナンバーの表示中

ノートナンバー 音名

60 C4

12数字ボタンの[1](△)または[3](▽)を押すたびに、表示中ノートイベントの別パラメーターに切り替わります。

● ベロシティの表示中

099 Velocity

● ゲートタイム(拍)の表示中

001 GateBeat

● ゲートタイム(ティック)の表示中

24 GateTick

■ 音色番号イベント

音色番号は、イベント名“Tone”で表示されます。

音色番号 イベント名

010 Tone

■ リズム番号イベント

リズム番号は、イベント名“Rhythm”で表示されます。

リズム番号 イベント名

013 Rhythm

■ 自動伴奏のコードイベント

自動伴奏のコードは、コード種(コードのルートとタイプ)のみが表示されます。

ルート タイプ

Ab M7

また、コードを鳴らさない設定は“NonChord”というイベント名で表示されます。

■ 終端表示

編集対象トラック(パート)の終端に到達すると、“EOT”(End of track)と表示されます。

EOT

各イベントの設定範囲

各イベントの設定範囲は、下表のとおりです。

イベント	パラメーター(表示)	設定範囲
ノート	ノートナンバー(C1~G9)	0~127
	ベロシティ(Velocity)	1~127
	ゲートタイム・拍(GateBeat)	0~340
	ゲートタイム・ティック(GateTick)	0~95
音色番号	音色番号(Tone)	1~900
リズム番号	リズム番号(Rhythm)	※1
コード	コード種または“NonChord”(※2)	※3

※1 CT-X5000:1~393, CT-X3000:1~343

※2 90ページ「自動伴奏のコードイベント」をご参照ください。

※3 伴奏鍵盤で指定可能なすべてのコード種(または“NonChord”)です。124ページ「指定できるコード種一覧」をご参照ください。

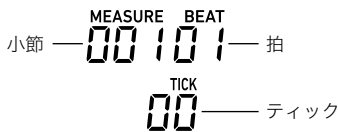
イベントを編集するには

- 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
- 12**数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\triangle$)を使って“TrkEvent”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Trk Sy”と表示されます。
- 13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、イベントエディット対象のトラックを指定し、[6](エンター)を押します。
EDITインジケーターの左側に、EVENTインジケーターが点灯します。



- トラック先頭のイベントが表示されます。

- 12**数字ボタンの[2]($\vee$)または[5]($\wedge$)を使って、パラメーターを変更したいイベントを表示します。
 - イベントの位置(小節、拍、ティック)は、液晶表示部の右端に表示されます。



- ノートイベントが表示されると、確認音(そのノートイベントの音)が鳴ります。
- システムトラックの編集中は、下表のインジケーターが1つ点灯します。点灯中のインジケーターが、表示中のイベントが記録されているパートを表します。

パート	表示
UPPER 1	U1
UPPER 2	U2
LOWER 1	L1
LOWER 2	L2
オートハーモナイズ	AUTO HARMONIZE
フレーズパッド1~4	P1 ~ P4

5. 編集対象のイベントに応じて、下記を実行します。

- イベントの表示状態や表示の見方については、90ページ「イベントの表示について」をご参照ください。
- イベントの編集中は、**20**再生/停止を押すことで、表示中のイベントを含む小節先頭から記録内容を再生できます。

■ ノートイベント

- 12**数字ボタンの[2]($\vee$)または[5]($\wedge$)を使って、ノートイベントを表示します。
- [1]($\angle$)または[3]($\triangle$)を使って、変更したいパラメーターを表示します。
- 13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、表示したパラメーターの設定値を変更します。
 - ノートナンバーは、鍵盤を押して指定することもできます。
 - ゲートタイムの拍(GateBeat)は、編集中のソングが2/4~8/4拍子の場合は0~340、2/8 ~16/8拍子の場合は0~680の間で指定可能です。
 - ゲートタイムのティック(GateTick)は、編集中のソングが2/4~8/4拍子の場合は0~95、2/8 ~16/8拍子の場合は0~47の間で指定可能です。
- 変更したいパラメーターの分だけ、手順(2)、(3)を繰り返します。

メモ

- ノートイベントの表示中に**12**数字ボタンの[2]($\vee$)または[5]($\wedge$)を押して前後のイベントに切り替えたとき、切り替え先のイベントがノートイベントの場合は、同じ種類のパラメーター表示が維持されます。

■ 音色番号イベント

- 12**数字ボタンの[2]($\vee$)または[5]($\wedge$)を使って、“Tone”(音色番号イベント)を表示します。
- イベントに割り当てられている音色名を確認したい場合は、**10**機能を押します。
 - 音色名が表示されます。音色名を表示したまま音色番号を変更したい場合は、このまま手順(3)に進みます。
 - 再度**10**機能を押すと“Tone”表示に戻ります。
- 13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、音色番号を変更します。
 - 4**カテゴリーを押したまま**13**[-]、または[+]を押すことで、前後カテゴリーの先頭音色にジャンプすることが可能です。

■ リズム番号イベント(システムトラックのみ)

- 12**数字ボタンの[2]($\vee$)または[5]($\wedge$)を使って、“Rhythm”(リズム番号イベント)を表示します。
- イベントに割り当てられているリズム名を確認したい場合は、**10**機能を押します。
 - リズム名が表示されます。リズム名を表示したままリズム番号を変更したい場合は、このまま手順(3)に進みます。
 - 再度**10**機能を押すと“Rhythm”表示に戻ります。
- 13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、リズム番号を変更します。
 - 4**カテゴリーを押したまま**13**[-]、または[+]を押すことで、前後カテゴリーの先頭リズムにジャンプすることが可能です。

■コードイベント(システムトラックのみ)

- (1) **12**数字ボタンの[2](✓)または[5](^)を使って、コードイベントを表示します。
- (2) ACCOMPインジケーターが消灯している場合は、**22**[ACCOMP]伴奏を押して点灯させます。

ACCOMP

点灯

- (3) コード入力鍵盤を使ってコードを押さえます。
 - コード種が、押さえたコードに変更されます。
 - コードの入力方法についての詳細は、43ページ「コード入力鍵盤の設定を変更する」をご参照ください。

6. イベントエディットを終了するには、**12**数字ボタンの[4](戻)を押します。

7. ソングエディットモードから抜けるには、もう一度[4](戻)を押します。

イベントを削除するには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. 91ページ「イベントを編集するには」の手順2～3を実行します。
3. **12**数字ボタンの[2](✓)または[5](^)を使って、削除したいイベントを表示します。
4. **12**数字ボタンの[9](削除)を押します。
 - 表示していたイベントが削除されます。

イベントを小節単位でキーシフトするには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. 91ページ「イベントを編集するには」の手順2～3を実行します。
3. **28**レジストレーション[8](エディットメニュー)を押します。
4. **12**数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って“KeyShift”を表示し、[6](エンター)を押します。
5. 89ページ「指定したトラックを小節単位でキーシフトするには」の手順5～9を実行します。

イベントを小節単位で消去するには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. 91ページ「イベントを編集するには」の手順2～3を実行します。
3. **28**レジストレーション[8](エディットメニュー)を押します。
4. **12**数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って“Clear”を表示し、[6](エンター)を押します。
5. 89ページ「指定したトラックを小節単位で消去するには」の手順5～7を実行します。

イベントを小節単位でコピーするには

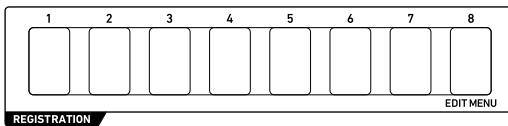
1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. 91ページ「イベントを編集するには」の手順2～3を実行します。
3. **28**レジストレーション[8](エディットメニュー)を押します。
4. **12**数字ボタンの[1]($\angle$)または[3]($\angle$)を使って“Copy”を表示し、[6](エンター)を押します。
5. 89ページ「指定したトラックの一部を小節単位でコピーして、同じトラックの指定位置に挿入するには」の手順5～8を実行します。

音符やコードを1つずつ入力する (ステップ入力)

ステップ入力は、イベントエディットの機能の1つです。ステップ入力を使うと、リアルタイムで演奏を行わなくても、音符(ノートイベント)の長さや高さを1つずつ指定して、順次入力していくことができます。システムトラックには、自動伴奏のコード(コードイベント)をステップ入力することも可能です。

メモ

- ステップ入力では、入力対象のトラックにすでに記録されているデータが消えることはありません。現在記録されているデータに追加するかたちで、入力が行われます。
- ステップ入力では、音符や休符などの入力に、**28レジストレーション**ボタンを使います。



ノートイベントをステップ入力するには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
2. 91ページ「イベントを編集するには」の手順2～3を実行し、EVENTインジケータを点灯させます。
3. **12**数字ボタンの[2](✓)または[5](∧)を使って、ステップ入力を開始したい小節内のイベントを表示します。
 - 小節先頭がステップ入力の開始位置となります。
4. **28**レジストレーション[1]を押します。
STEPインジケータが点灯し、ステップ入力モードに入ります。

EVENT EDIT STEP

点灯

- ステップ入力の操作中は、現在の入力ポイント(小節、拍、ティック)が、液晶表示部の右端に表示されます。

4 — 音価
MEASURE BEAT
小節 — 00 10 1 — 拍
TICK
00 — ティック

5. 編集対象がシステムトラックの場合は、イベントの入力対象パートを指定します。
 - 94ページ「システムトラックのパート選択について」をご参照ください。
 - 編集対象がソロトラックの場合、この操作は不要です。手順6に進んでください。
6. 必要に応じて、これから入力するノートイベントのベロシティー(押鍵の強さ)とゲートタイムレート(実際の長さ)を指定します。
 - ここで指定したベロシティーとゲートタイムレートの設定値は、設定を変更するまでは、入力したすべてのノートイベントに適用されます。
 - ベロシティーは数値で指定(1～127)、または実際に鍵盤を押して、その強さで指定することができます。初期値は100です。
 - ゲートタイムレートは、手順7で指定する音価に対して、実際にそのノートが押されている長さを、音価に対するパーセント値(1～100%)で指定します。例えばゲートタイムレート=80%(初期値)の場合、4分音符(96ティック)は76ティック(96×0.8=76.8、小数点以下切り捨て)となります。

これを指定するには:	この操作を実行する:
ベロシティー	(1) 28 レジストレーション[4]を押す。 (2) 13 [-]、[+]、または 11 ダイヤルを使って数値で指定するか、“Key On”を選ぶ※。 (3) 12 数字ボタンの[4](戻る)を押す。
ゲートタイムレート	(1) 28 レジストレーション[5]を押す。 (2) 13 [-]、[+]、または 11 ダイヤルを使ってパーセント値を指定する。 (3) 12 数字ボタンの[4](戻る)を押す。

※“Key On”を選んだ場合は、ノートイベント入力時の鍵盤を押す速度が、ベロシティー値に反映されます。

7. 手順8で入力するイベントの音価(イベントの長さ)を指定します。

この音価を入力するには:	この 12 数字ボタンを押す:
全音符	[1]
2分音符	[2]
4分音符	[3]
8分音符	[4]
16分音符	[5]
32分音符	[6]
付点音符 ^{※1}	[7]
三連符 ^{※1}	[8]

※1 付点音符または三連符を入力する場合は、先に[1]～[6]のいずれかのキーを押してから、[7]または[8]を押します。例えば付点4分音符を入力したい場合は、[3]、[7]の順に押してください。

- 押したボタンに応じて、指定された音価が、液晶表示部の右端に表示されます。

8. 入力するイベントを指定します。

これを入力するには:	この操作を実行する:
ノートイベント	手順7の操作で音価を指定してから、入力したいノートの鍵盤を押す。複数の鍵盤を同時に押すと、和音が入力される。
休符	手順7の操作で音価を指定してから、 28 レジストレーション[2]を押す。
タイ ^{※2}	直前のノートイベントとつなぐ長さの音価を手順7の操作で指定してから、 28 レジストレーション[3]を押す。

※2 直前に入力したノートイベントの長さを伸ばします。例えば手前で4分音符のノートイベントを入力しており、8分音符の分だけ長さを加算したい場合は、**12**数字ボタンの[4](8分音符)、**28**レジストレーション[3](タイ)の順にボタンを押します。



- イベントが入力されると、入力ポイントは手順7で指定した音価の分だけ先に進みます。

9. 手順5～8の操作を、必要なだけ繰り返します。

- 手順5の操作は、操作対象のパートが同じ間は不要です。

10. ステップ入力モードから抜けるには、**28**レジストレーション[1]を押します。

STEPインジケーターが消灯します。

■システムトラックのパート選択について

システムトラックをイベントエディットの編集対象トラックとして指定した場合は、下記の各ボタンを使って編集対象パートを選択します。各パートの選択状態は、下表の「表示」欄のインジケーター点灯で確認できます。

このパートを選択するには:	このボタンを押す:	表示
UPPER 1	28 レジストレーション[7]	U1
UPPER 2	36 アッパーレイヤー	U2
LOWER 1	35 スプリット	L1
LOWER 2	36 アッパーレイヤー(長押し)	L2
オートハーモナイズ	34 オートハーモナイズ	AUTO HARMONIZE
フレーズパッド1	26 フレーズパッド[P1]	P1
フレーズパッド2	26 フレーズパッド[P2]	P2
フレーズパッド3	26 フレーズパッド[P3]	P3
フレーズパッド4	26 フレーズパッド[P4]	P4

- UPPER 1パートとUPPER 2パートは、同時に選択することが可能です。また、LOWER 1パートとLOWER 2パートは、同時に選択することが可能です。2つのパートを同時に選択した状態でイベントをステップ入力すると、両方のパートに同じイベントが同時に入力されます。
- オートハーモナイズ、フレーズパッド1～4の各パートは、単独でしか選択できません。これらのパートを選択すると、その他パートのインジケーターはすべて消灯します。

コードイベントをステップ入力するには

- 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。
- 12**数字ボタンの[1](**∟**)または[3](**∟**)を使って“TrkEvent”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Trk Sy”と表示されます。
- 13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使ってシステムトラックを指定し、[6](エンター)を押します。
EVENTインジケーターが点灯します。
- ACCOMPインジケーターが消灯している場合は、**22**[ACCOMP]伴奏を押して点灯させます。
- 12**数字ボタンの[2](**∨**)または[5](**∧**)を使って、ステップ入力を開始したい小節内のイベントを表示します。
・小節先頭がステップ入力の開始位置となります。
- 23**レジストレーション[1]を押します。
STEPインジケーターが点灯し、ステップ入力モードに入ります。

7. 必要に応じて、これから入力するコードイベントのペロシティー(押鍵の強さ)を指定します。

- 指定の操作については、93ページ「ノートイベントをステップ入力するには」手順6をご参照ください。

8. 手順9で入力するイベントの音価(イベントの長さ)を指定します。

- 指定の操作については、93ページ「ノートイベントをステップ入力するには」手順7をご参照ください。

9. 入力するイベントを指定します。

これを入力するには:	この操作を実行する:
コードイベント	手順8の操作で音価を指定してから、コード入力鍵盤を使ってコードを押さえる※1。
休符(NonChord)	手順8の操作で音価を指定してから、 28 レジストレーション[2]を押す。
タイ※2	直前のコードイベントとつなぐ長さの音価を手順8の操作で指定してから、 28 レジストレーション[3]を押す。

※1 コードの入力方法についての詳細は、43ページ「コード入力鍵盤の設定を変更する」をご参照ください。

※2 ノートイベントでタイを入力する場合と同様です。93ページ「ノートイベントをステップ入力するには」の手順8をご参照ください。

10. 手順7～9の操作を、必要なだけ繰り返します。

11. ステップ入力モードから抜けるには、**28**レジストレーション[1]を押します。

STEPインジケーターが消灯します。

録音したソングのミキサー設定

録音したソングに含まれるシステムトラックの各パート、および各ソロトラックを対象としたミキサー設定が可能です。

録音したソングのミキサー設定を変更するには

1. 85ページ「ソングエディットモードに入るには」の操作で、ソングエディットモードに入ります。

2. **9**パート(ミキサー)を、MIXERインジケーターが点灯するまで長押しします。

- 録音したソングでは、SONG SYSTEMパートグループ(システムトラック)と、SONG SOLOパートグループ(ソロトラック)が設定の対象となります。パートグループ内の各パートについては、56ページ「ミキサーのパートグループ別パート一覧」をご参照ください。

3. ミキサー設定を変更する、対象パートグループを選びます。

- 9**パートを押して、ボタン左側のランプを点灯させます。
- 18**[-]または[+]を使って、設定対象パートグループ(SONG SYSTEMまたはSONG SOLO)を選びます。
- 9**パートを押して、ボタン左側のランプを消灯させます。

4. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って、ミキサー設定の対象パートを選びます。

5. **12**数字ボタンの[2]()または[5]()を使って、変更対象のメニュー項目を表示します。

- アスタリスク(*)付きの設定値は、初期設定です。

項目名(表示)	内容	設定範囲
パートオンオフ(Part)	選択したパートのオン、オフを指定します。	オン*、オフ
音色(Tone)	選択したパートの音色を切り替えます。	1～900
音量(Volume)	選択したパートの音量を調節します。	0～127*
パン(Pan)	選択したパートのステレオ定位を調節します。0が中央で、数値が小さいほど左へ、大きいほど右へステレオ定位が移動します。	-64～0*～63
コースチューン(Coarse)	パートの音高を半音単位ですらします。	-24～0*～24
ファインチューン(Fine)	パートの音高をセント単位で微調整します。	-99～0*～99
ベンドレンジ(Bend Rng)	ピッチベンドホイールを操作したときの、音の変化量を調節します。	0～2*～24
リバーブセンド(Rev Send)	選択したパートに対するリバーブのかかり具合を調節します。	0～40*～127
コーラスセンド(Cho Send)	選択したパートに対するコーラスのかかり具合を調節します。	0*～127
ディレイセンド(Dly Send)	選択したパートに対するディレイのかかり具合を調節します。	0*～127

6. **18**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、設定値を変更します。

7. ミキサー設定を終了するには、**12**数字ボタンの[4](戻る)を押します。

機能設定を変更する

本機の機能設定(本機のシステム全体に関わる設定)を変更します。この操作には、**10**機能ボタンを使います。

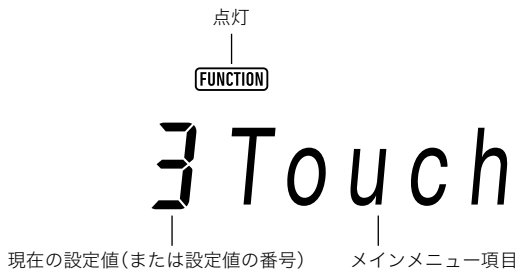
❗ 重要

- 10ページ「オートレジューム機能」がオフの場合、**1** **⏻**(電源)を押して電源を切ったり、オートパワーオフ機能(9ページ)によって電源が切れたりすると、下記を除くすべての設定は、初期値に戻ります。
イコライザー、チューニング、レジストレーションメモリーフリーズターゲット、ペダル2のタイプ、エクスプレッションペダルのキャリブレーション、タップリズムスタート、エグザミネーションモード、液晶表示部のコントラスト

10機能ボタンで機能設定を変更するには

1. 10機能を押します。

液晶表示部にFUNCTIONインジケーターが点灯し、メインメニュー項目が表示されます。



- 表示は説明用の一例です。**10**機能を押したときの表示は、上記とは異なります。

2. 12数字ボタンの[1](**↙**)または[3](**↘**)を使って、変更対象のメインメニュー項目を表示します。

- 液晶表示部にENTERインジケーターが点灯した場合は、下記を実行します。点灯していない場合は、手順3に進みます。

- 12数字ボタンの[6](エンター)を押します。サブメニュー項目の表示に切り替わります。
- [1](**↙**)または[3](**↘**)を使って、変更対象のサブメニュー項目を表示します。
 - サブメニュー項目を表示した後は、手順3に進みます。
 - サブメニュー項目の表示中にメインメニュー項目に戻るには、12数字ボタンの[4](戻る)を押します。
 - サブメニュー項目の表示中にENTERインジケーターが点灯した場合は、さらにもう1階層下のサブメニューがあります。この場合は、(1)、(2)の操作を繰り返します。

3. 13[-]、[+]、または11ダイヤルを使って、設定値を変更します。

- 12数字ボタンの[0](数値入力)を押してNUMインジケーターを表示させると、12数字ボタンで数値が入力できます(13ページ)。ただし、小数点以下の数値を入力するタイプの設定項目の場合、12数字ボタンでは整数部分だけが入力可能です。小数点以下の部分は、13[-]、[+]、または11ダイヤルを使って入力します。

4. 12数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、設定を終了します。

FUNCTIONインジケーターが消灯します。

設定項目一覧

機能名	表示	設定範囲	参照 ページ
タッチレスポンス	Touch	1～4	25
コードモード	ChordMod	1～6	44
フレーズパッド	Phr Pad	—	48
フレーズセット切り替え	Phr Set	1～25	48
パッド1	Pad 1	—	49
ループ再生	Loop	オン/オフ	
キーシフト	KeyShift	－24～24	
タイミング同期	TimingSy	1～3	
コード同期	ChordSyn	オン/オフ	
ブレイクポイント	Break Pt	1～12	
パッド2※1	Pad 2	—	
パッド3※1	Pad 3	—	
パッド4※1	Pad 4	—	—
コントローラー	Cntrller	—	
ペダル	Pedal	—	26
ペダル1の効果	Pd1Effect	1～4	
ペダル1の効果の対象パート	Pd1Enabl	—	
トーンパートUpper1のペダル1効果オンオフ	U1Pd1Enb	オン/オフ	
トーンパートUpper2のペダル1効果オンオフ	U2Pd1Enb	オン/オフ	
トーンパートLower1のペダル1効果オンオフ	L1Pd1Enb	オン/オフ	
トーンパートLower2のペダル1効果オンオフ	L2Pd1Enb	オン/オフ	
ペダル2の効果	Pd2Effect	1～4	
ペダル2の効果の対象パート	Pd2Enabl	—	
トーンパートUpper1のペダル2効果オンオフ	U1Pd2Enb	オン/オフ	
トーンパートUpper2のペダル2効果オンオフ	U2Pd2Enb	オン/オフ	
トーンパートLower1のペダル2効果オンオフ	L1Pd2Enb	オン/オフ	
トーンパートLower2のペダル2効果オンオフ	L2Pd2Enb	オン/オフ	
ペダル2のタイプ	Pd2 Type	1～3	
エクスプレッションペダルのキャリブレーション	ExPCalib	—	29
ピッチベンド	PitchBnd	—	
ピッチベンドレンジ	Range	0～24	
トーンパートUpper1のピッチベンドオンオフ	U1Enable	オン/オフ	
トーンパートUpper2のピッチベンドオンオフ	U2Enable	オン/オフ	
トーンパートLower1のピッチベンドオンオフ	L1Enable	オン/オフ	
トーンパートLower2のピッチベンドオンオフ	L2Enable	オン/オフ	

機能名	表示	設定範囲	参照 ページ
モジュレーション/アサインابل(CT-X5000のみ)	Mod/Asgn	—	29
ボタンの動作	Btn Act	1~2	29
ボタンの機能	Btn Func	1~2	30
モジュレーションオン時の値	ModValue	0~127	29
対象となるDSPモジュール	DSPModle	1~28	30
対象となるDSPパラメーター	DSPParam	※2	
DSPオン時の値	DSPValue	—	
モジュレーション/アサインابلボタンの対象パート	PartEnbl	—	30
トーンパートUpper1の効果オンオフ	U1Enable	オン/オフ	
トーンパートUpper2の効果オンオフ	U2Enable	オン/オフ	
トーンパートLower1の効果オンオフ	L1Enable	オン/オフ	
トーンパートLower2の効果オンオフ	L2Enable	オン/オフ	
ポルタメント	Portamnt	—	28
トーンパートUpper1のポルタメントの時間	U1 Port.	0~127	
トーンパートUpper2のポルタメントの時間	U2 Port.	0~127	
トーンパートLower1のポルタメントの時間	L1 Port.	0~127	
トーンパートLower2のポルタメントの時間	L2 Port.	0~127	
サステイン	Sustain	—	28
トーンパートUpper1のサステイン効果の大きさ	U1 Sus.	0~9	
トーンパートUpper2のサステイン効果の大きさ	U2 Sus.	0~9	
トーンパートLower1のサステイン効果の大きさ	L1 Sus.	0~9	
トーンパートLower2のサステイン効果の大きさ	L2 Sus.	0~9	
オートハーモナイズ/アルペジエーター	AHar/Arp	—	25、46
オートハーモナイズ/アルペジエーターボタンの割り当て	BtnAssign	1~2	25、46
オートハーモナイズタイプ	AHarType	1~12	46
アルペジエータータイプ	Arp Type	1~150	25
アルペジエーターホールド	ArpegHld	オン/オフ	
アルペジエーターパート	ArpgPart	1~2	
オクターブシフト	Octave	—	31
トーンパートUpper1のオクターブシフト	U1 Oct.	-3~3	
トーンパートUpper2のオクターブシフト	U2 Oct.	-3~3	
トーンパートLower1のオクターブシフト	L1 Oct.	-3~3	
トーンパートLower2のオクターブシフト	L2 Oct.	-3~3	
オクターブシフトボタン対象パート	Btn Trgt	—	
トーンパートUpper1のボタン効果オンオフ	U1OctBtn	オン/オフ	
トーンパートUpper2のボタン効果オンオフ	U2OctBtn	オン/オフ	
トーンパートLower1のボタン効果オンオフ	L1OctBtn	オン/オフ	
トーンパートLower2のボタン効果オンオフ	L2OctBtn	オン/オフ	
スプリット	Split	—	18、45
スプリットポイント	Split Pt	36~96	18
ロワーポイント	Lower Pt	36~96	45
コードポイント	Chord Pt	36~96	45
コード入力優先モード	Cd Prior	オン/オフ	45

機能名	表示	設定範囲	参照 ページ
自動伴奏の音量	AcompVol	0～127	40
ソングの音量	Song Vol	0～127	35
チューニング	Tune	—	32
機器全体のチューニング	MstrTune	415.5～465.9	32
パートコースチューン	PrtCoars	—	32
トーンパートUpper1のコースチューン	U1CsTune	－24～24	
トーンパートUpper2のコースチューン	U2CsTune	－24～24	
トーンパートLower1のコースチューン	L1CsTune	－24～24	
トーンパートLower2のコースチューン	L2CsTune	－24～24	
パートファインチューン	Prt Fine	—	32
トーンパートUpper1のファインチューン	U1FnTune	－99～99	
トーンパートUpper2のファインチューン	U2FnTune	－99～99	
トーンパートLower1のファインチューン	L1FnTune	－99～99	
トーンパートLower2のファインチューン	L2FnTune	－99～99	
スケール	Scale	—	33
プリセットスケールのタイプ	Type	1～17	33
プリセットスケールのルート	Root	1～12	
自動伴奏スケール	AcompScl	オン／オフ	34
スケールファインチューン	FineTune	—	33
ノートCファインチューン	C Tune	－99～99	
ノートD $\flat$ ファインチューン	DbTune	－99～99	
：	：	：	
ノートBファインチューン	B Tune	－99～99	
リバーブ	Reverb	※3	20
コーラス	Chorus	※3	20
ディレイ	Delay	※3	20
イコライザー	Equalizr	※3	23
イコライザーのユーザー設定 (CT-X5000のみ)	User EQ	—	23
低音域設定	EQ Low	—	
低音域のカットオフ周波数	Low Freq	1～13	
低音域のゲイン	Low Gain	－12～12	
中音域1設定	EQ Mid1	—	
中音域1の中心周波数	Mid1Freq	1～20	
中音域1のゲイン	Mid1Gain	－12～12	
中音域2設定	EQ Mid2	—	
中音域2の中心周波数	Mid2Freq	1～20	
中音域2のゲイン	Mid2Gain	－12～12	
高音域設定	EQ High	—	
高音域のカットオフ周波数	HighFreq	1～10	
高音域のゲイン	HighGain	－12～12	
入力レベル	Input Lv	0～127	
出力レベル	OutputLv	0～127	

機能設定を変更する

機能名	表示	設定範囲	参照 ページ
オーディオ再生	AudioPly	－	38
オーディオ再生のリピート	Repeat	オン／オフ	
オーディオ再生の音量	Volume	0～127	
オーディオ再生のセンターキャンセル(ボーカルカット)	C Cancel	オン／オフ	
レジストレーションメモリー	Reg Mem	－	60
レジストレーションメモリーフリーズターゲット	RMFrzTgt	－	60
リズムに対するフリーズ効果オンオフ	Rhythm	オン／オフ	
テンポに対するフリーズ効果オンオフ	Tempo	オン／オフ	
トーンに対するフリーズ効果オンオフ	Tone	オン／オフ	
スプリットポイントに対するフリーズ効果オンオフ	Split Pt	オン／オフ	
オートハーモナイズ／アルペジエーターに対するフリーズ効果オンオフ	AHar/Arp	オン／オフ	
トランスポーズに対するフリーズ効果オンオフ	Trans.	オン／オフ	
スケールに対するフリーズ効果オンオフ	Scale	オン／オフ	
タッチレスポンスに対するフリーズ効果オンオフ	Touch	オン／オフ	
エフェクトに対するフリーズ効果オンオフ	Effect	オン／オフ	
コースチューン／ファインチューンに対するフリーズ効果オンオフ	PartTune	オン／オフ	
フレーズパッドに対するフリーズ効果オンオフ	Phr Pad	オン／オフ	
コントローラーに対するフリーズ効果オンオフ	Cntrlrler	オン／オフ	
レジストレーションシーケンス	Reg Seq	1～3	60
メトロノーム	Metronom	－	24
メトロノームの拍子の分子	BeatNume	0～16	
メトロノームの拍子の分母	BeatDeno	1～2	
メトロノームの音量	Volume	0～127	
スピーカー	Speaker	－	11
スピーカーオンオフ	Enabled	オン／オフ	
PHONES端子接続時オン	PhoneSpk	オン／オフ	
MIDI	MIDI	－	107
キーボードチャンネル	Keybd Ch	1～16	
ローカルコントロール	Local	オン／オフ	
ア कंपアウト	AcompOut	オン／オフ	
メディア※4	Media	－	104

機能名	表示	設定範囲	参照 ページ
その他	Other	—	—
タップリズムスタート	Tap Rhy	オン／オフ	41
右手(メロディー)パートチャンネル	PartR Ch	1～16	37
左手パートチャンネル	PartL Ch	1～16	
ミュージックプリセットのキー変更	MP Key	—5～6	47
オーディオインのセンターキャンセル(ボーカルカット)	Aln CCan	オン／オフ	12
エグザミネーションモード	ExamMode	オン／オフ	102
液晶表示部のコントラスト	Contrast	1～17	10
オートパワーオフ	AutoOff	オン／オフ	9
オートレジューム	AtResume	オン／オフ	10
リセット	Reset	—	102
セッティングリセット	Setting	—	
ファクトリーリセット	Factory	—	

※1 「パッド1」(Pad 1)と同じサブメニューを含んでいます。

※2 「対象となるDSPモジュール」(DSPModule)の指定によって異なります。

※3 機種によって設定範囲が異なります。

機能名	設定範囲	
	CT-X5000	CT-X3000
リバーブ	1 - 33	1 - 25
コーラス	1 - 17	1 - 13
ディレイ	1 - 21	1 - 16
イコライザー	1 - 11	1 - 10

※4 USBメモリー操作のためのサブメニューが含まれています。操作についての詳細は、104ページ「USBメモリーの各種操作」をご参照ください。

エグザミネーションモードについて

楽器グレード試験の受験者向けに、本機の動作を下記の状態に切り替えます。

● 伴奏パターンの操作

- ACCOMPオフ (ACCOMPインジケーター消灯中) でシンクロスタートの待機状態 (42ページ) のときは、鍵盤のどこを弾いてもリズムがスタートします。このときシンクロスタートの待機状態は解除されます。
- リズム停止中に **14** イントロ、**15** バリエーション/フィルイン1～**18** バリエーション/フィルイン4 を押してもリズムはスタートせず、各伴奏パターンの選択状態となり、液晶表示部の該当インジケーター ([I]、[V1]～[V4]) が点滅します。
- 伴奏パターンのイントロが鳴っているときに **15** バリエーション/フィルイン1～**18** バリエーション/フィルイン4 を押すと、即座にフィルイン1～4 が鳴り、次の小節からは押したボタンに応じたバリエーションが鳴ります。
- 伴奏パターンのバリエーション1～4 が鳴っているときに **15** バリエーション/フィルイン1～**18** バリエーション/フィルイン4 を押すと、小節の途中で即座に伴奏パターンが切り替わります。
- レジストレーション機能で、伴奏パターンの選択状態が記憶されます。

● スプリットポイントの設定

- ノートナンバーと音名の対応が、ノートナンバー60 = C3 になります (エグザミネーションモードがオフのときはC4)。
- 44ページ「スプリットの詳細設定」で説明されているスプリットポイント、ロワーポイント、コードポイントは、エグザミネーションモードでは、LOWERパート鍵盤 (またはコード入力鍵盤) の上限となる鍵盤を押して指定します。

本機をエグザミネーションモードに切り替えるには

1. **10** 機能を押しします。
2. **12** 数字ボタンの [1] (∟) または [3] (∟) を使って “Other” を表示し、[6] (エンター) を押しします。
3. [1] (∟) または [3] (∟) を使って “ExamMode” を表示します。
4. **13** [-] または [+] を使って、設定をオンにします。
5. **12** 数字ボタンの [4] (戻る) を長押しして、設定を終了します。

本機に記録されているデータをまとめて消去する

データや設定などシステムの内容をすべてリセットして、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。

本機のすべての設定やデータを工場出荷時の状態に戻すには (ファクトリーリセット)

❗ 重要

- 下記の操作で、本機に記録したユーザー音色、ユーザーリズム、レジストレーションデータ、MIDIレコーダーで録音した曲データのすべてが消去されます。大切なデータは、USBメモリー (103ページ) やパソコン (107ページ) への保存をお勧めします。

1. **10** 機能を押しします。
2. **12** 数字ボタンの [1] (∟) または [3] (∟) を使って “Other” を表示し、[6] (エンター) を押しします。
3. [1] (∟) または [3] (∟) を使って “Reset” を表示し、[6] (エンター) を押しします。
4. [1] (∟) または [3] (∟) を使って “Factory” を表示し、[6] (エンター) を押しします。
“Sure?” と表示されます。
5. ファクトリーリセットを実行してよい場合 **13** [+] (はい) を、中止するには **13** [-] (いいえ) を押しします。
 - 操作を終了するには、**12** 数字ボタンの [4] (戻る) を長押しします。

本機のすべての設定を工場出荷時の状態に戻すには (セッティングリセット)

10 機能ボタンで設定した内容をすべて工場から出荷したときの状態に戻すことができます。
96ページ「**10** 機能ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、101ページ「その他」(Other) → 「リセット」(Reset) → 「セッティングリセット」(Setting) を選び、実行してください。

USBメモリーを使用する

市販のUSBメモリーを使って、本機で下記のことができます。

- USBメモリーをフォーマットする。
- 本機に記録したユーザー音色やユーザーリズムなどのデータを、USBメモリーに保存する。
- ユーザー音色やユーザーリズムなどのデータを、USBメモリーから本機に読み込む。
- パソコンを使ってUSBメモリーにコピーした一般の曲データ(MIDIファイルまたはWAV形式のオーディオファイル)を、本機で再生する。
 - USBメモリーに曲データをコピーする操作については、106ページ「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」をご参照ください。
 - 曲データの再生操作については、37ページ「USBメモリーのソングを再生する」、38ページ「USBメモリーのオーディオファイルを再生する(オーディオモード)」をご参照ください。

USBメモリーとUSBメモリー端子の取り扱い上のご注意

❗ 重要

- USBメモリーに付属している取扱説明書の注意事項をお守りください。
- 以下のような場所での保管や使用は避けてください。USBメモリー上のデータが壊れる場合があります。
 - 高温多湿、または腐食性のある場所
 - 強い静電気や電氣的ノイズの発生しやすい場所
- データを保存したり読み込んでいるときには、本機を操作したりUSBメモリーを取り外したりしないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、USBメモリー端子が故障したりする場合があります。
- USBメモリー端子には、USBメモリー以外は決して入れないでください。故障の原因となります。
- 長時間使用すると、取り外したUSBメモリーが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- USBメモリー端子に、手やUSBメモリーから静電気が伝わると、本機が誤動作する場合があります。このような場合は、一度本機の電源を切ってから、再び電源を入れてください。

著作権について

個人で楽しむなどのほかは、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配布することも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

USBメモリーを本機に装着する、USBメモリーを本機から取り外す

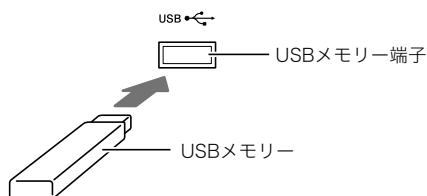
❗ 重要

- USBメモリー端子には、USBメモリー以外は差し込まないでください。
- USBメモリーを本機に装着して最初にUSBメモリーを操作するとき、あるいは電源投入後に最初にUSBメモリーを操作するとき、本機のシステムがUSBメモリーとデータをやり取りする準備(マウント)を行うため、一時的に本機の操作ができなくなる場合があります。マウント中は、液晶表示部でUSBインジケータが点滅します。本機がマウントを完了し、操作が可能になるまで数十秒間かかることがあります。マウント中は、本機を操作しないでください。マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。

USBメモリーを本機に装着するには

1. 下図のように、USBメモリーを本機のUSBメモリー端子へ差し込みます。

- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。



USBメモリーを本機から取り外すには

1. データをやり取り中でないことを確認してから、USBメモリーを水平にしたまま抜きます。

USBメモリーをフォーマットする

❗ 重要

- 最初に、必ず本機でUSBメモリーをフォーマットしてください。
- USBメモリーをフォーマットすると、USBメモリー内のデータはすべて削除されます。フォーマットする前に、USBメモリーに大切なデータが保存されていないことをご確認ください。
- 本機でのフォーマットは、クイックフォーマットを実行します。データを完全に消去するにはパソコンなどで通常のフォーマットを行ってください。

対応USBメモリーについて

本機は、FAT32でフォーマットされたUSBメモリーに対応しています。FAT32以外でフォーマットされたUSBメモリーは、Windowsのフォーマット機能で一度、ファイルシステムをFAT32に指定してフォーマット(除クイックフォーマット)してください。

USBメモリーをフォーマットするには

1. フォーマットするUSBメモリーを、本機のUSBメモリー端子に装着します。
2. **10**機能を押します。
3. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Media”を表示し、[6](エンター)を押します。
USBインジケーターが点灯します。
4. [1]()または[3]()を使って“Format”を表示し、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
5. フォーマットを実行するには**13**[+](はい)を、中止するには**13**[-](いいえ)を押します。
 - **13**[+](はい)を押すと、フォーマットが開始され、“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
6. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。
USBインジケーターが消灯します。

メモ

- 本機でフォーマットしたUSBメモリーには、ルートディレクトリに“MUSICDAT”という名前のフォルダが作成されます。本機とUSBメモリーの間でデータをやりとりする際は、このフォルダを使います。

USBメモリーの各種操作

本機に接続したUSBメモリーに対して、本機からの操作で、データの保存、読み込み、消去、名前変更の各種操作が可能です。これらの操作が可能なデータは、下記のとおりです。

- 本機で作成したユーザー音色
- 本機で作成したユーザーリズム
- 本機のMIDIレコーダーで録音した曲
- 本機のレジストレーション機能で登録したセットアップデータ
- 本機のフレーズパッドに録音したユーザーフレーズ

■サブメニュー／拡張子一覧

下表は、ここでの操作で共通して使うサブメニューと、データの種類に応じた拡張子の一覧です。

データの種類	サブメニュー	拡張子
ユーザー音色	Tone	TON
ユーザーリズム	Rhythm	AC7, CKF, Z00
ユーザー録音	MltRec MltR SMF	MRF MID (Saveのみ)
レジストレーション (バンク単位)	RegMemBk	RBK
ユーザーフレーズ (フレーズセット単位)	Phrs Set	PHS
上記すべてのデータ	All Data	DAL

本機のデータをUSBメモリーに保存するには

1. USBメモリーを、本機のUSBメモリー端子に装着します。
2. **10**機能を押します。
3. **12**数字ボタンの[1]()または[3]()を使って“Media”を表示し、[6](エンター)を押します。
4. [1]()または[3]()を使って“Save”を表示し、[6](エンター)を押します。
5. [1]()または[3]()を使って、保存したいデータの種類に応じたサブメニューを表示します。
 - 上記「サブメニュー／拡張子一覧」をご参照ください。
6. [6](エンター)を押します。
 - 手順5で“All Data”を選択した場合、手順7の操作は不要です。手順8に進んでください。
7. **13**[-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、保存するデータを選び、[6](エンター)を押します。
8. ファイル名を入力します。
 - 文字の入力操作については、14ページ「文字の入力について」をご参照ください。
9. [6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
 - USBメモリー内に同じ名前のデータがある場合は、“Replace?”と表示されます。この場合、手順10で**13**[+](はい)を押すと、USBメモリー上の既存データは上書きされます。
10. 保存してよい場合は、**13**[+](はい)を押します。
 - 中止する場合は、**13**[-](いいえ)を押します。
 - **13**[+](はい)を押すと、液晶表示部に“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
11. **12**数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

USBメモリーから本機へデータを読み込むには

- 104ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存するには」の手順1～3を実行します。
- 12** 数字ボタンの[1](**△**)または[3](**▽**)を使って“Load”を表示し、[6](エンター)を押します。
- [1](**△**)または[3](**▽**)を使って、読み込みたいデータの種類の応じたサブメニューを表示します。
 - 104ページ「サブメニュー／拡張子一覧」をご参照ください。
- [6](エンター)を押します。
読み込み可能なデータのファイル名が表示されます。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、本機に読み込むデータを選びます。
 - 手順3で“All Data”を表示した場合は、下記手順6、7の操作は不要です。手順8に進んでください。
 - ここで**10機能**を押すと、データの拡張子が表示されます(この操作は、FUNCTIONインジケーターが点滅している場合のみ可能です)。もう一度**10機能**を押すと、ファイル名表示に戻ります。
- [6](エンター)を押します。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、データの読み込み先となるユーザーエリアの番号を指定します。
 - 13** [-]と[+]を同時に押すと、番号が最小の空きエリア(空きエリアがない場合は、最小のユーザーエリア番号)が表示されます。
- [6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
 - 手順3で“All Data”を表示した場合、または手順7でデータを保存済みのユーザーエリアを指定した場合は、“Replace?”と表示されます。この場合、手順9で**13** [+] (はい)を押すと、ユーザーエリア上の既存データは、読み込んだデータで上書きされます。
- 読み込んでよい場合は、**13** [+] (はい)を押します。
 - 中止する場合は、**13** [-] (いいえ)を押します。
 - 13** [+] (はい)を押すと、液晶表示部に“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
- 12** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

USBメモリーのデータを消去するには

- 104ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存するには」の手順1～3を実行します。
- 12** 数字ボタンの[1](**△**)または[3](**▽**)を使って“Delete”を表示し、[6](エンター)を押します。
- [1](**△**)または[3](**▽**)を使って、消去したいデータの種類の応じたサブメニューを表示します。
 - 104ページ「サブメニュー／拡張子一覧」をご参照ください。
- [6](エンター)を押します。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、消去するデータを選び、[6](エンター)を押します。
“Sure?”と表示されます。
- 消去してよい場合は、**13** [+] (はい)を押します。
 - 中止する場合は、**13** [-] (いいえ)を押します。
 - 13** [+] (はい)を押すと、液晶表示部に“Wait...”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
- 12** 数字ボタンの[4](戻る)を長押しして、操作を終了します。

USBメモリーのデータ名を変更するには

- 104ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存するには」の手順1～3を実行します。
- 12** 数字ボタンの[1](**△**)または[3](**▽**)を使って“Rename”を表示し、[6](エンター)を押します。
- [1](**△**)または[3](**▽**)を使って、名前を変更したいデータの種類の応じたサブメニューを表示します。
 - 104ページ「サブメニュー／拡張子一覧」をご参照ください。
- [6](エンター)を押します。
- 13** [-]、[+]、または**11**ダイヤルを使って、名前を変更するデータを選び、[6](エンター)を押します。
- ファイル名を変更します。
 - 文字の入力操作については、14ページ「文字の入力について」をご参照ください。

7. [6] (エンター)を押します。

“Sure?”と表示されます。

- USBメモリー内に同じ名前のデータがある場合は、“Replace?”と表示されます。この場合、手順8で**13** [+] (はい)を押すと、USBメモリー上の既存データは上書きされます。

8. 名前を変更してよい場合は、**13** [+] (はい)を押します。

- 中止する場合は、**13** [-] (いいえ)を押します。
- **13** [+] (はい)を押すと、液晶表示部に“Wait...” (実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete” (完了)と表示されます。

9. **12** 数字ボタンの[4] (戻る)を長押しして、操作を終了します。

一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする

USBメモリーの“MUSICDAT”フォルダに下記の形式のファイルを保存して、本機で再生することができます。

- 標準MIDIファイル(SMFフォーマット0/1)またはカシオMIDIファイル(CMF形式)
- WAV形式のオーディオファイル(16bit、44.1kHz)

1. USBメモリーをパソコンにつなぎます。

2. USBメモリーのルートディレクトリに、“MUSICDAT”という名前のフォルダを作成します。

- すでに“MUSICDAT”フォルダがある場合は、この手順は不要です。

3. 本機で再生したい曲データを、USBメモリー内のMUSICDATフォルダにコピーします。

- 曲データの再生操作については、37ページ「USBメモリーのソングを再生する」、38ページ「USBメモリーのオーディオファイルを再生する (オーディオモード)」をご参照ください。

パソコンとの接続について

パソコンとつなぐ

本機とパソコンを接続して演奏情報(MIDIデータ)の送受信ができます。楽器演奏をパソコンの音楽ソフトで録音したり、パソコンから本機へデータを送って音を鳴らすことができます。

パソコンの動作環境

MIDIデータを送受信するために必要なパソコン環境は下記のとおりです。お手持ちのパソコン環境を必ず事前にご確認ください。

● 対応OS

Windows Vista ※1

Windows 7 ※2

Windows 8.1 ※3

Windows 10 ※4

macOS (OS X/Mac OS X) 10.7、10.8、10.9、10.10、10.11、10.12

※1 Windows Vista(32bit版)

※2 Windows 7(32bit版、64bit版)

※3 Windows 8.1(32bit版、64bit版)

※4 Windows 10(32bit版、64bit版)

● USB端子



重要

- 上記の対応OS以外のパソコンを接続すると、パソコンが故障する場合があります。絶対に接続しないでください。



メモ

- 対応OSについての最新のサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

<http://casio.jp/support/emi/>

接続方法

❗ 重要

- 正しい手順で接続しないとデータの送受信ができなくなる場合があります。必ず次の手順に従って接続してください。

1. 本機の電源を切り、パソコンを起動させておきます。
 - パソコンの音楽ソフトは起動させないでください。
2. 市販のUSBケーブルで、パソコンと本機を接続します。
 - ケーブルは、USB2.0または1.1のA-Bコネクタタイプを使用してください。
3. 本機の電源を入れます。
 - 初めての接続では、データを送受信するために必要なドライバが自動でパソコンにインストールされます。
4. パソコンの音楽ソフト(市販品)を起動させます。
5. パソコンの音楽ソフト(市販品)の設定で、MIDIデバイスとして「CASIO USB-MIDI」を選びます。
 - MIDIデバイスの選択方法については、お使いの音楽ソフトのマニュアルをご覧ください。

❗ 重要

- パソコンの音楽ソフトを起動させる前に、必ず本機の電源を入れておいてください。
- ソングの再生中(34ページ)は、データを送受信することができません。

各種MIDI設定

キーボードチャンネル

本機の鍵盤での演奏情報を、パソコンに送信するときに使うチャンネルを設定します。
96ページ「**10機能**ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「キーボードチャンネル」(Keybd Ch)の設定を変更してください。

ローカルコントロール

本機の鍵盤を弾いて外部音源の音を鳴らす場合に、本機で弾いた音が出ないように設定できます。
96ページ「**10機能**ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「ローカルコントロール」(Local)の設定を変更してください。

ア कंपアウト

自動伴奏の演奏情報を送信するかどうかを設定できます。
96ページ「**10機能**ボタンで機能設定を変更するには」の操作で、100ページ「ア कंपアウト」(AcompOut)の設定を変更してください。

本機とパソコンの間でデータを転送する

録音した曲などのデータをパソコンに転送して保存したり、そのデータをいつでも本機に転送して戻すことができます。またカシオのホームページからダウンロードした自動伴奏のデータを本機に転送すれば、自動伴奏を増やすこともできます。データの転送には、専用のアプリケーションソフト(データマネージャー)が必要です。

転送できるデータの種類について

本機はパソコンとの間で、下記のデータを転送できます。

- ユーザー音色(61ページ)
- ユーザーリズム(66ページ)
- ユーザー録音曲(78ページ)
- レジストレーション(バンク単位)(58ページ)
- ユーザーフレーズ(フレーズセット単位)(48ページ)

データマネージャーをダウンロードする

1. 以下のホームページから、データマネージャーと操作マニュアルをダウンロードして、お手持ちのパソコンに保存します。

<http://casio.jp/support/emi/>

- 本機の製品紹介のページにデータマネージャーのページへのリンクが貼られています。製品紹介のページが見つからない場合は、上記ホームページの検索フォームに本機の製品名を入力して検索してください。
- ダウンロードする前に、データマネージャーを使用するために必要なパソコン環境などについて、必ずご確認ください。
- ホームページの内容は、予告なく変更される場合があります。

2. 手順1でダウンロードした操作マニュアルに従って、データマネージャーをインストールしてから、データ転送を行ってください。

- 自動伴奏データの機種互換性については、手順1でダウンロードしたデータマネージャーの操作マニュアルをご覧ください。

困ったときは

状況	対策
付属品	
梱包箱のなかに付属品が見つからない。	緩衝材の中も探してみる。
電源	
電源が入らない。	- ACアダプターの接続状態を確認する(8ページ)。 - CT-X3000の場合:電池の装着方向が正しいか確認する(9ページ)。新しい電池に交換する(9ページ)。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
⏻ボタン(1)を押すと、液晶表示部が一瞬点灯し、電源が入らない。	1をしっかりと押し直してください。
大きな音を出すと、突然電源が切れる。	CT-X3000の場合:新しい電池に交換する(9ページ)。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
30分ほど弾かないでいると、突然電源が切れる。	オートパワーオフ機能を解除する(9ページ)。
表示	
液晶表示部の表示が暗くなったり、ちらついたりするようになった。	CT-X3000の場合:新しい電池に交換する(9ページ)。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
液晶表示部の表示が一定の方向からしか見えない。	本機の製造上の制約等によるもので、故障ではありません。
音	
鍵盤を弾いても音が出ない。	- 音量の設定(11ページ)を変えてみる。 - 本機背面の50にプラグが差さっていないか確認する。 - 本機の電源を入れ直してみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
左側の鍵盤だけ音が出ない(あるいは通常と違う音が鳴る)。	22を押して、自動伴奏のコード入力ができる状態を解除する(39ページ)。
自動伴奏をスタートしても音が出ない。	- リズム番号の226～235は、コードを入力しないと音が鳴らないリズムパターンです。コードを入力してみてください(43ページ)。 - 伴奏の音量の設定(40ページ)を確認して調整する。 - リズム番号の294～393(CT-X5000)/294～343(CT-X3000)は、編集したリズムが保存されていない場合には20を押しても自動伴奏がスタートしません(66ページ)。 - 本機の電源を入れ直してみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
ソングの自動演奏をスタートしても音が出ない。	- ボタンを押してからソングが始まるまでに少し時間がかかります。ソングが始まるまで少しお待ちください。 - ソングの音量の設定(35ページ)を確認して調整する。 - ソング番号の31～40は、MIDIレコーダーで録音したソングが保存されていない場合には、20を押してもソングがスタートしません(78ページ)。 - 本機の電源を入れ直してみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
メトロノームの音が鳴らない。	- メトロノームの音量の設定(24ページ)を確認して調整する。 - 本機の電源を入れ直してみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
音が鳴りっぱなしで止まらなくなった。	- 本機の電源を入れ直してみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。 - サステイン機能の設定を確認してみる(28ページ)。 - CT-X3000の場合:新しい電池に交換する(9ページ)。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
鳴らしている音が途切れてしまう。	同時に鳴っている音の数が64(音色によっては32)を超えると発生します。故障ではありません。

状況	対策
音量や音質が変わってしまった。	• 音量の設定(11ページ)やイコライザーの設定(23ページ)を変えてみる。 • 本機の電源を入れ直してみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。 • CT-X3000の場合:新しい電池に交換する(9ページ)。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
鍵盤を弾くタッチを変えても、出る音の音量が変わらない。	• タッチレスポンスの設定(25ページ)を変えてみる。 • 本機の電源を入れ直してみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
特定の鍵盤の音量や音質が、他の鍵域の鍵盤と若干違って聴こえる。	本機のシステムの制約等によるもので、故障ではありません。
端の方の鍵盤を弾いていると、同じオクターブの音が繰り返されるように聴こえる音色がある。	本機のシステムの制約等によるもので、故障ではありません。
音の高さが他の楽器とあわない(あるいは不自然に聴こえる)。	• トランスポーズ(31ページ)、チューニング(32ページ)、パートコースチューンやパートファインチューン(32ページ)の設定を確認して調整する。 • 本機の電源を入れ直してみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
音の響きが急に変わったように感じる。	• リバース、ディレイの設定(20ページ)を確認して調整する。 • 本機の電源を入れ直してみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
操作	
電源を入れなおすと、音色、リズムなどの設定が元に戻ってしまう。	本機では、電源を入れなおすと各種設定が初期化されます(9ページ)。いくつかの設定はレジストレーションに登録して保存することができます(58ページ)。オートレジューム機能をオンにしておくと、電源を切ってもほとんどの設定が保持されます(10ページ)。
パソコンとの接続	
MIDIデータの送受信ができない。	• 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する(107ページ)。 • 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。

エラー表示一覧

表示	原因	解決方法
Err Limit	1000小節以上録音しようとした。	999小節までで録音を終える。
Err Mem Full	1曲あたりの容量を超えて録音しようとした。	1曲あたりの容量内で録音する。
	1フレーズあたりの容量を超えて録音しようとした。	1フレーズあたりの容量内で録音する。
	ユーザーリズム1つあたりの容量を超えて録音しようとした。	ユーザーリズム1つあたりの容量内で録音する。
Err DataFull	曲を11曲以上録音しようとした。	曲を削除する。
	上限を超えてユーザー音色を保存しようとした。	ユーザー音色を消去する。
	上限を超えてユーザーリズムを保存しようとした。	ユーザーリズムを消去する。
Err No Media	本機のUSBメモリー端子にUSBメモリーが正しくセットされていない。	USBメモリー端子にUSBメモリーを正しくセットする。
	操作の途中でUSBメモリーが抜き差しされた。	本機の操作中にはUSBメモリーを動かさない。
	USBメモリーがプロテクトされている。	USBメモリーのプロテクトを解除する。
	USBメモリーにウイルス対策ソフトが入っている。	ウイルス対策ソフトが入っていないUSBメモリーを使う。
Err No File	"MUSICDAT"フォルダの中に読み込みや再生ができるファイルが無い。	読み込みや再生したいファイルを"MUSICDAT"フォルダへ移動する(106ページ)。
Err No Data	データが何も記録されていないユーザーデータを保存しようとした。	データが記録されているユーザーデータを選ぶ。
Err ReadOnly	USBメモリーに入っている読み込み専用ファイルと同じ名前で、別データを保存しようとしている。	- 別の名前に変えてから保存する。 - USBメモリーのファイルから読み込み専用属性を外して、上書き保存する。 - 別のUSBメモリーを使う。
Err MediaFul	USBメモリーの空き領域が足りない。	USBメモリーに保存しているファイルを消去して、空き領域を増やす。または別のUSBメモリーを使う。
Err ManyFile	USBメモリー内のファイル数が上限になっている。	USBメモリーに保存しているファイルを消去してファイル数を減らす。
Err NotSMF01	SMFフォーマット2の曲データを再生しようとした。	本機で再生できるSMFのフォーマットは、"0"または"1"です。
Err Large Sz	USBメモリーのSMFファイルのサイズが大きすぎて本機で再生できない。	本機では最大で約320KBのSMFファイルまで再生できます。
	本機に読み込もうとしているデータのサイズが大きすぎて、読み込めない。	本機で読み込みできるデータ1データあたりの最大サイズは下記のとおりです。 リズム：約64KB フレーズ：約8KB
Err WrongDat	USBメモリーのデータが壊れている。	－
	USBメモリーのデータが本機で操作できない内容になっている。	－
Err Format	USBメモリーのフォーマットが本機に適合していない。	- パソコン等を使って、USBメモリーを本機に対応したフォーマットに変更する(103ページ)。 - 別のUSBメモリーを使う。
	USBメモリーが壊れている。	別のUSBメモリーを使う。

製品仕様

型式	CT-X5000	CT-X3000
鍵盤 タッチレスポンス機能	61鍵盤 感度設定:3種類、オフ	
同時発音数	最大64音(一部音色では最大32音)	
音色機能 プリセット音色 ユーザー音色 その他	800音色 100音色(「音色編集機能」の項を参照) レイヤー、スプリット(スプリットポイント、ロワーポイント、コードポイントを設定可能)	
システムエフェクト リバーブ コーラス ディレイ DSP	32種類、オフ 16種類、トーン 20種類、トーン 100種類※ ¹ 、DSPトーン	24種類、オフ 12種類、トーン 15種類、トーン 100種類※ ¹ 、DSPトーン
マスターエフェクト	イコライザー(プリセット10種類) 4バンドユーザーイコライザー	イコライザー(プリセット10種類)
外部入力エフェクト	オーディオ入力端子からの入力に対するセンターキャンセル(ボーカルカット)	
メトロノーム機能 拍子 テンポ	0(強調音オフ)、1~16 テンポ値: 20~255	
デモ専用曲	3曲	
ソングバンク機能 内蔵曲 ユーザー録音曲 USBメモリー曲	30曲 10曲(「MIDIレコーダー」の項を参照) USBメモリー上の標準MIDIファイル(SMFフォーマット0/1)、カシオMIDIファイル(CMF形式)を再生可能	
USBオーディオ再生機能 対応ファイル形式 その他機能	USBメモリー上のオーディオファイルを再生可能 WAV 形式、44.1kHz 16bit センターキャンセル(ボーカルカット)	
自動伴奏機能 プリセットリズム ユーザーリズム ワンタッチプリセット	235種類 100種類(「リズム編集機能」の項を参照) 235種類	235種類 50種類(「リズム編集機能」の項を参照) 235種類
ミュージックプリセット	310種類(コード進行付き)	
フレーズパッド パッド数 ユーザーフレーズ メモリー容量 エディットモード	4 100種類(4フレーズ×25セット) 約1,000音符(1フレーズあたり) コピー、消去、フレーズエディット	
ミキサー機能 操作対象 パラメーター	音源の各パート、およびマイク入力パート パートオンオフ、音量、パン、リバーブセンド、コーラスセンド、ディレイセンド	
レジストレーション機能	最大128セット(8セット×16バンク)、レジストレーションシーケンス	
音色編集機能	プリセット音色の編集、DSPエディット 編集後の音色保存(100種類まで)	
リズム編集機能	リズムの新規作成、リズムの編集 作成/編集後のリズム保存(CT-X5000:100種類まで、CT-X3000:50種類まで)	

型式	CT-X5000	CT-X3000
MIDIレコーダー 鍵盤演奏録音 メモリー容量 エディットモード その他機能	リアルタイム録音、再生 10曲、17トラック(システムトラック×1、ソロトラック×16) 約40,000音符(1曲あたり) ソングエディット、トラックエディット、イベントエディット、ステップ入力 オーバーダビング録音、パンチイン録音	
ペダル	サステイン、ソステヌート、ソフト、リズム／ソング、エクスプレッション	
各種コントローラー	ピッチベンドホイール、サステインボタン、ポルタメントボタン、モジュレーション／アサイナブルボタン	ピッチベンドホイール、サステインボタン、ポルタメントボタン
その他の機能 トランスポーズ オクターブシフト チューニング パートコースチューン パートファインチューン スケール オートハーモナイズ アルペジエーター	±1オクターブ(−12 ~ 0 ~ +12半音) アッパー1/アッパー2/ロワー1/ロワー2、±3オクターブ A4=415.5 ~ 465.9Hz (初期値:440.0Hz) 鍵盤パート別、±2オクターブ(−24 ~ 0 ~ +24半音) 鍵盤パート別、±99セント プリセットスケール17種類、スケールファインチューン 12種類 150種類	
MIDI機能	16chマルチティンバー受信、GMレベル1準拠	
端子 USBメモリー端子 USB端子 ペダル1端子 ペダル2、エクスプレッション端子 ヘッドホン端子 オーディオ入力端子 ラインアウト端子(CT-X5000のみ) マイク入力端子(CT-X5000のみ)	タイプA タイプB 標準ジャック 標準ジャック ステレオ標準ジャック ステレオミニジャック 入力インピーダンス:9kΩ、入力感度:200mV 標準ジャック×2 出力インピーダンス:2.3kΩ、出力電圧:1.9V(RMS) MAX 標準ジャック(ダイナミックマイクを接続) 入力インピーダンス:3kΩ、入力感度:10mV	
電源端子	DC24V	DC12V
電源 家庭用AC100V電源 電池 電池持続時間 オートパワーオフ機能	ACアダプター専用 ACアダプターAD-E24250LW使用 — — 約30分後、キャンセル可能	2電源方式 ACアダプターAD-A12150LW使用 単1形アルカリ乾電池6本使用 約10時間(アルカリ電池使用時) 約30分後、キャンセル可能
スピーカー	10cm×2(出力15W + 15W)	10cm×2(出力6W + 6W)
消費電力	24V --- 15 W	12V --- 8 W
サイズ	幅94.8×奥行38.4×高さ11.6cm	
質量	約7.0kg	約6.9kg(乾電池含まず)

・改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更することがあります。

※1 DSPエディット(62ページ)により、ユーザー音色への適用が可能。

DSPエフェクト一覧

DSPモジュール一覧

番号	名称	表示	内容
①	Mono 1-Band EQ	Mono 1EQ	1バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。
②	Mono 2-Band EQ	Mono 2EQ	2バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。
③	Mono 3-Band EQ	Mono 3EQ	3バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。
④	Stereo 1-Band EQ	Streo1EQ	1バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。
⑤	Stereo 2-Band EQ	Streo2EQ	2バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。
⑥	Stereo 3-Band EQ	Streo3EQ	3バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。
⑦	Tone Control	ToneCtrl	低域、中域、高域を調整するモノラル・トーン・コントロールです。
⑧	Tremolo	Tremolo	入力信号の音量をLFOによって動かします。
⑨	Auto Pan	Auto Pan	入力信号の定位をLFOによって動かします。
⑩	Compressor	Compress	入力された信号を圧縮し、レベルのばらつきを抑えます。
⑪	Limiter	Limiter	入力された信号のレベルが設定値以上にならないように制限をかけます。
⑫	Enhancer	Enhancer	入力された信号の低域音と高域音の輪郭を際立たせる効果を与えます。
⑬	Phaser	Phaser	入力信号の位相をLFOによって動かし、入力信号に加えることにより、音に独特なうねりや広がりを与えます。
⑭	Chorus	Chorus	音に厚みと広がりを与えます。
⑮	Flanger	Flanger	音に激しいうねりや金属的な響きを与えます。LFO波形を選択できます。
⑯	Rotary	Rotary	ロータリースピーカーのシミュレーターです。
⑰	Drive Rotary	DriveRot	オーバードライブさせることができるロータリースピーカーのシミュレーターです。
⑱	Pitch Shifter	Pitch	入力信号のピッチを変換するエフェクトです。
⑲	Ring Modulator	Ring Mod	入力信号と内蔵オシレータを乗算して、金属的な音色をつくります。
⑳	Reflection	Reflect	残響の初期反射をシミュレートするエフェクトです。音に臨場感や存在感を与えます。
㉑	Delay	Delay	入力信号を遅延しフィードバックさせることにより繰り返し効果を発生します。
㉒	Piano Effect	Piano	アコースティック・ピアノに適した効果を発生するエフェクトです。
㉓	LFO Wah	LFO Wah	LFOによって自動的に周波数を動かすことができるワウです。
㉔	Auto Wah	Auto Wah	入力された信号のレベルに応じて自動的に周波数を動かすことができるワウです。
㉕	Modeling Wah	ModelWah	数種類のワウ・ペダルのシミュレーターです。入力された信号のレベルに応じて自動的に周波数を動かすことができます。
㉖	Distortion	Distort	ディストーション、ワウ、アンプ・シミュレーターを1つにまとめたエフェクトです。
㉗	Drive	Drive	楽器アンプのドライブ部分をシミュレートします。
㉘	Amp Cab	Amp Cab	歪みを発生するドライブ部を除いたアンプとスピーカー・キャビネットをシミュレートします。

DSPパラメーター一覧

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
① Mono 1-Band EQ		1バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。	
EQ Freq	EQ Frequency	EQの中心周波数を調整します。	※1
EQ Gain	EQ Gain	EQのゲインを調整します。	－12～00～12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
② Mono 2-Band EQ		2バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。	
EQ1 Freq	EQ1 Frequency	EQ1の中心周波数を調整します。	※1
EQ1 Gain	EQ1 Gain	EQ1のゲインを調整します。	－12～00～12
EQ2 Freq	EQ2 Frequency	EQ2の中心周波数を調整します。	※1
EQ2 Gain	EQ2 Gain	EQ2のゲインを調整します。	－12～00～12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
③ Mono 3-Band EQ		3バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。	
EQ1 Freq	EQ1 Frequency	EQ1の中心周波数を調整します。	※1
EQ1 Gain	EQ1 Gain	EQ1のゲインを調整します。	－12～00～12
EQ2 Freq	EQ2 Frequency	EQ2の中心周波数を調整します。	※1
EQ2 Gain	EQ2 Gain	EQ2のゲインを調整します。	－12～00～12
EQ3 Freq	EQ3 Frequency	EQ3の中心周波数を調整します。	※1
EQ3 Gain	EQ3 Gain	EQ3のゲインを調整します。	－12～00～12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
④ Stereo 1-Band EQ		1バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。	
EQ Freq	EQ Frequency	EQの中心周波数を調整します。	※1
EQ Gain	EQ Gain	EQのゲインを調整します。	－12～00～12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑤ Stereo 2-Band EQ		2バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。	
EQ1 Freq	EQ1 Frequency	EQ1の中心周波数を調整します。	※1
EQ1 Gain	EQ1 Gain	EQ1のゲインを調整します。	－12～00～12
EQ2 Freq	EQ2 Frequency	EQ2の中心周波数を調整します。	※1
EQ2 Gain	EQ2 Gain	EQ2のゲインを調整します。	－12～00～12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑥ Stereo 3-Band EQ		3バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。	
EQ1 Freq	EQ1 Frequency	EQ1の中心周波数を調整します。	※1
EQ1 Gain	EQ1 Gain	EQ1のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ2 Freq	EQ2 Frequency	EQ2の中心周波数を調整します。	※1
EQ2 Gain	EQ2 Gain	EQ2のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ3 Freq	EQ3 Frequency	EQ3の中心周波数を調整します	※1
EQ3 Gain	EQ3 Gain	EQ3のゲインを調整します。	−12〜00〜12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
⑦ Tone Control		低域、中域、高域を調整するモノラル・トーン・コントロールです。	
Low Freq	Low Frequency	低域のカットオフ周波数を選択します。	※2
Low Gain	Low Gain	低域のゲインを調整します。	−12〜00〜12
Mid Freq	Mid Frequency	中域の中心周波数を選択します。	※1
Mid Gain	Mid Gain	中域のゲインを調整します。	−12〜00〜12
HighFreq	High Frequency	高域のカットオフ周波数を選択します。	※3
HighGain	High Gain	高域のゲインを調整します。	−12〜00〜12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
⑧ Tremolo		入力信号の音量をLFOによって動かします。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000〜127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000〜127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle、Trapzoid
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
⑨ Auto Pan		入力信号の定位をLFOによって動かします。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000〜127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000〜127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle、Trapzoid
Manual	Manual	定位の中心位置を調整します。−64で左、0で中央、+63で右となります。	−64〜00〜63
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑩ Compressor		入力された信号を圧縮し、レベルのばらつきを抑えます。	
Attack	Attack	圧縮が効き始めるまでの時間を調整します。値が小さくなるほど、コンプレッサーの動作が機敏になり、入力信号のアタックを抑えることができます。値が大きくなるほど、コンプレッサーの動作が遅れて入力信号のアタックをそのまま出力するように動作します。	000～127
Release	Release	入力信号が所定のレベル以下になって圧縮が開放されるまでの時間を調整します。アタック感を出したい(音の立ち上がりで圧縮動作をさせたくない)ときはなるべく小さい値に設定してください。また、常に圧縮動作させておきたいときは大きな値に設定してください。	000～127
Ratio	Ratio	音声信号の圧縮比率を調整します。	1:1、2:1、4:1、8:1、16:1、32:1、Inf:1
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。Ratioの設定と入力された音色の特性によって出力音量が変化します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑪ Limiter		入力された信号のレベルが設定値以上にならないように制限をかけます。	
Limit	Limit	制限をかける音量レベルを調整します。	000～127
Attack	Attack	圧縮が効き始めるまでの時間を調整します。値が小さくなるほど、リミッターの動作が機敏になり、入力信号のアタックを抑えることができます。値が大きくなるほど、リミッターの動作が遅れて入力信号のアタックをそのまま出力するように動作します。	000～127
Release	Release	入力信号が所定のレベル以下になって圧縮が開放されるまでの時間を調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。Limitの設定と入力された音色の特性によって出力音量が変化します。このパラメーターによって補正してください。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑫ Enhancer		入力された信号の低域音と高域音の輪郭を際立たせる効果を与えます。	
Low Freq	Low Frequency	低域音エンハンサーの周波数を調整します。	000～127
Low Gain	Low Gain	低域音エンハンサーのゲインを調整します。	000～127
HighFreq	High Frequency	高域音エンハンサーの周波数を調整します。	000～127
HighGain	High Gain	高域音エンハンサーのゲインを調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑬ Phaser		入力信号の位相をLFOによって動かし、入力信号に加えることにより、音に独特なうなりや広がりを与えます。	
Resonanc	Resonance	音の癖の強さを調整します。	000～127
Manual	Manual	フェイザーの基準となるシフト量を調整します。	－64～00～63
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle、Random
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑭ Chorus		音に厚みと広がりを与えます。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle
Feedback	Feedback	音の癖の強さを調整します。	－64～00～63
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Polarity	Polarity	片側チャンネルのLFOを反転し、音の広がり具合を切り替えます。	Negative、Positive
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑮ Flanger		音に激しいなりや金属的な響きを与えます。LFO波形を選択できます。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle、Random
Feedback	Feedback	音の癖の強さを調整します。	－64～00～63
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑯ Rotary		ロータリースピーカーのシミュレーターです。	
Type	Type	タイプを選択します。	0～3
Speed	Speed	Fast、Slowの速度モードを選択します。	Slow、Fast
Brake	Brake	スピーカーの回転を止める働きがあります。	Rotate、Stop
FallAcel	Fall Accel	速度モードをFastからSlowに切り替えたときの加速度を調整します。	000～127
RiseAcel	Rise Accel	速度モードをSlowからFastに切り替えたときの加速度を調整します。	000～127
SlowRate	Slow Rate	SpeedがSlowモードのときのスピーカーの回転速度を調整します。	000～127
FastRate	Fast Rate	SpeedがFastモードのときのスピーカーの回転速度を調整します。	000～127
Vib/Cho	Vibrato/Chorus	ビブラート、コーラスのタイプを選択します。	Off、Vibrato1、Chorus 1、Vibrato2、Chorus 2、Vibrato3、Chorus 3
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑪ Drive Rotary		オーバードライブさせることができるロータリースピーカーのシミュレーターです。	
Type	Type	タイプを選択します。	0～3
OD Gain	Overdrive Gain	オーバードライブのゲインを調整します。	000～127
OD Level	Overdrive Level	オーバードライブの出力レベルを調整します。	000～127
Speed	Speed	Fast、Slowの速度モードを選択します。	Slow、Fast
Brake	Brake	スピーカーの回転を止める働きがあります。	Rotate、Stop
FallAcel	Fall Accel	速度モードをFastからSlowに切り替えたときの加速度を調整します。	000～127
RiseAcel	Rise Accel	速度モードをSlowからFastに切り替えたときの加速度を調整します。	000～127
SlowRate	Slow Rate	SpeedがSlowモードのときのスピーカーの回転速度を調整します。	000～127
FastRate	Fast Rate	SpeedがFastモードのときのスピーカーの回転速度を調整します。	000～127
Vib/Cho	Vibrato/Chorus	ビブラート、コーラスのタイプを選択します。	Off、Vibrato1、Chorus 1、Vibrato2、Chorus 2、Vibrato3、Chorus 3
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑫ Pitch Shifter		入力信号のピッチを変換するエフェクトです。	
Pitch	Pitch	四分音単位でのピッチ・シフト量を調整します。	－24～00～24
HighDamp	High Damp	高域のダンプを調整します。値が小さいときに高域が速く減衰します。	000～127
Feedback	Feedback	フィードバック量を調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
Fine	Fine	ピッチ・シフト量を微調整します。－50で四分音下がり、+50で四分音上がります。	－50～00～50
⑬ Ring Modulator		入力信号と内蔵オシレータを乗算して、金属的な音色をつくります。	
OSC Freq	OSC Frequency	内蔵オシレータの基準周波数を設定します。	000～127
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Tone	Tone	リング・モジュレーターの入力音の音質を調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑭ Reflection		残響の初期反射をシミュレートするエフェクトです。音に臨場感や存在感を与えます。	
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Feedback	Feedback	反射音の繰り返しを調整します。	000～127
Tone	Tone	反射音の音質を調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
②① Delay		入力信号を遅延しフィードバックさせることにより繰り返し効果が発生します。	
Time	Delay Time	トータル・ディレイ・タイムを1ミリ秒単位で設定します。	0001～1099
TmRatioL	Delay Ratio L	トータル・ディレイ・タイムに対する左チャンネルの比率を調整します。	000～127
TmRatioR	Delay Ratio R	トータル・ディレイ・タイムに対する右チャンネルの比率を調整します。	000～127
Level L	Delay Level L	左チャンネルのレベルを調整します。	000～127
Level R	Delay Level R	右チャンネルのレベルを調整します。	000～127
FdbkType	Feedback Type	フィードバックのタイプを選択します。 Stereo:ステレオ・フィードバック Cross:クロス・フィードバック	Stereo, Cross
Fdbk Lvl	Feedback	フィードバック量を調整します。	000～127
Hi Damp	High Damp	高域のダンピングを調整します。値が小さいときに高域が速く減衰します。	000～127
TmpoSync	Delay Tempo Sync	実際のトータル・ディレイ・タイムをどのようにテンポに同期させるかを設定します。 Offのとき:Delay Timeの値に設定されます。 1/4～1のとき:拍数に応じた値に設定されます。	Off, 1/4, 1/3, 3/8, 1/2, 2/3, 3/4, 1
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
②② Piano Effect		アコースティック・ピアノに適した効果が発生するエフェクトです。	
Lid Type	Lid Type	天板の開き具合による音の鳴り方の違いを調整します。	Closed, SemiOpen, FullOpen
RefLevel	Reflection Level	初期反射のレベルを調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
②③ LFO Wah		LFOによって自動的に周波数を動かすことができるワウです。	
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。入力している音のレベルや発音数、あるいはResonanceの値を大きくしているときに入力信号が歪むことがありますので、このパラメーターによって歪まないように調整してください。	000～127
Resonanc	Resonance	音の癖の強さを調整します。	000～127
Manual	Manual	ワウ・フィルターの基準となる周波数を設定します。	000～127
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine, Triangle, Random
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

DSPモジュール		内容	設定範囲																																								
表示	パラメーター名																																										
②4 Auto Wah		入力された信号のレベルに応じて自動的に周波数を動かすことができるワウです。																																									
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。入力している音のレベルや和音数、あるいはResonanceの値を大きくしているときに入力信号が歪むことがありますので、このパラメーターを調整してください。	000～127																																								
Resonanc	Resonance	音の癖の強さを調整します。	000～127																																								
Manual	Manual	ワウ・フィルターの基準となる周波数を設定します。	000～127																																								
Depth	Depth	入力信号のレベルに対するワウ動作の幅を調整します。プラス方向に設定すると、入力信号が大きいほどワウ・フィルターが開き、明るい音質になります。マイナス方向に設定した場合は、入力信号が大きいほどワウ・フィルターが閉じて暗い音質になります。	－64～00～63																																								
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
②5 Modeling Wah		数種類のワウ・ペダルのシミュレーターです。入力された信号のレベルに応じて自動的に周波数を動かすことができます。																																									
OutLevel	Level	ワウのレベルを調整します。	000～127																																								
Type	Type	ワウのタイプを選択します。 <table><tr><td>1</td><td>CAE</td><td>3</td><td>IBZ</td><td>5</td><td>FAT</td><td>7</td><td>7STR</td></tr><tr><td>2</td><td>CRY</td><td>4</td><td>VO</td><td>6</td><td>LIGHT</td><td>8</td><td>RESO</td></tr></table>	1	CAE	3	IBZ	5	FAT	7	7STR	2	CRY	4	VO	6	LIGHT	8	RESO	1～8																								
1	CAE	3	IBZ	5	FAT	7	7STR																																				
2	CRY	4	VO	6	LIGHT	8	RESO																																				
Manual	Manual	ワウ・フィルターの基準となる周波数を設定します。	000～127																																								
Depth	Depth	入力信号のレベルに対するワウ動作の幅を調整します。プラス方向に設定すると、入力信号が大きいほどワウ・フィルターが開き、明るい音質になります。マイナス方向に設定した場合は、入力信号が大きいほどワウ・フィルターが閉じて暗い音質になります。	－64～00～63																																								
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
②6 Distortion		ディストーション、ワウ、アンプ・シミュレーターを1つにまとめたエフェクトです。																																									
DistGain	Dist Gain	ディストーションの入力信号のゲインを調整します。	000～127																																								
Dist Lvl	Dist Level	ディストーションの出力レベルを調整します。	000～127																																								
Dist Low	Dist Low	ディストーションの低域のゲインを調整します。	000～127																																								
DistHigh	Dist High	ディストーションの高域のゲインを調整します。	000～127																																								
Wah Type	Wah Type	ワウのタイプを設定します。 <table><tr><td>1</td><td>LPF</td><td>3</td><td>V-Wah</td><td>5</td><td>L-Wah</td></tr><tr><td>2</td><td>C-Wah</td><td>4</td><td>F-Wah</td><td>6</td><td>H-Wah</td></tr></table>	1	LPF	3	V-Wah	5	L-Wah	2	C-Wah	4	F-Wah	6	H-Wah	1～6																												
1	LPF	3	V-Wah	5	L-Wah																																						
2	C-Wah	4	F-Wah	6	H-Wah																																						
WahDepth	Wah Depth	入力信号のレベルに対するワウ動作の幅を調整します。	－64～00～63																																								
Wah Manu	Wah Manual	ワウ・フィルターの基準となる周波数を設定します。	000～127																																								
Routing	Routing	ディストーションとワウの接続を設定します。	Dist, Wah, Wah-Dist, Dist-Wah																																								
Amp	Amp	アンプのタイプを設定します。 <table><tr><td>0</td><td>Bypass</td><td>5</td><td>FD-DXRv</td><td>10</td><td>FD-TWRV2</td><td>15</td><td>FD-BMAN</td></tr><tr><td>1</td><td>FD-PRNST</td><td>6</td><td>VX-AC3</td><td>11</td><td>SL-SLO</td><td>16</td><td>BASS-STK</td></tr><tr><td>2</td><td>FD-TWRV1</td><td>7</td><td>ML-DC3</td><td>12</td><td>MB-RCTF</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>RL-J12</td><td>8</td><td>MB-MK1</td><td>13</td><td>PV-51-SK</td><td></td><td></td></tr><tr><td>4</td><td>FD-TWD</td><td>9</td><td>MS-STK</td><td>14</td><td>BASS-CMB</td><td></td><td></td></tr></table>	0	Bypass	5	FD-DXRv	10	FD-TWRV2	15	FD-BMAN	1	FD-PRNST	6	VX-AC3	11	SL-SLO	16	BASS-STK	2	FD-TWRV1	7	ML-DC3	12	MB-RCTF			3	RL-J12	8	MB-MK1	13	PV-51-SK			4	FD-TWD	9	MS-STK	14	BASS-CMB			0～16
0	Bypass	5	FD-DXRv	10	FD-TWRV2	15	FD-BMAN																																				
1	FD-PRNST	6	VX-AC3	11	SL-SLO	16	BASS-STK																																				
2	FD-TWRV1	7	ML-DC3	12	MB-RCTF																																						
3	RL-J12	8	MB-MK1	13	PV-51-SK																																						
4	FD-TWD	9	MS-STK	14	BASS-CMB																																						
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127																																								

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
②⑦ Drive		楽器アンプのドライブ部分をシミュレートします。	
Type	Drive Type	ドライブのタイプを選択します※4。	1～20
Gain	Gain	ドライブの入力信号のゲインを調整します。	000～127
OutLevel	Level	ドライブの出力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
②⑧ Amp Cab		歪みを発生するドライブ部を除いたアンプとスピーカー・キャビネットをシミュレートします。	
Type	Type	アンプ・キャビネットのタイプ※5を選択します。	1～92
Vari	Variation	同じアンプのタイプで設定を変化させたバリエーションを選択します。タイプによってバリエーションの数※5が異なります。	1～4
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

※1 100Hz、125Hz、160Hz、200Hz、250Hz、315Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz、1.0kHz、1.3kHz、1.6kHz、2.0kHz、2.5kHz、3.2kHz、4.0kHz、5.0kHz、6.3kHz、8.0kHz

※2 50Hz、63Hz、80Hz、100Hz、125Hz、160Hz、200Hz、250Hz、315Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz

※3 2.0kHz、2.5kHz、3.2kHz、4.0kHz、5.0kHz、6.0kHz、8.0kHz、10kHz、13kHz、16kHz

※4

設定範囲	ドライブタイプ	表示	説明
1～4	Clean1～4	Clean1～4	歪みの少ないクリーン・サウンドをシミュレートします。
5～8	Crunch1～4	Crunch1～4	少し歪んだ歯切れのよいクランチサウンドをシミュレートします。
9～12	Overdrive1～4	Overdrv1～4	メローに歪んだオーバードライブサウンドをシミュレートします。
13～16	Distortion1～4	Distort1～4	ハードでストレートなディストーションサウンドをシミュレートします。
17～20	Metal1～4	Metal1～4	ヘビーメタルに適した過激で重量感のあるディストーションサウンドをシミュレートします。

※5 (V = バリエーション数)

設定値	V	表示
1	1	FD-PRNST
2	1	FD-TWRV1
3	1	RL-J12
4	1	FD-TWD
5	1	FD-DXRV
6	1	VX-AC3
7	1	ML-DC3
8	1	MB-MK1
9	1	MS-STK
10	1	FD-TWRV2
11	1	SL-SLO
12	1	MB-RCTF
13	1	PV-51-SK
14	1	BASS-CMB
15	1	FD-BMAN
16	1	BASS-STK
17	3	65-MQ
18	3	AD-MP+CA
19	2	BC-HC30
20	3	BN-SHV
21	3	BN-ECS
22	3	BN-UBR
23	3	CV-LG3
24	2	DR-MZ38

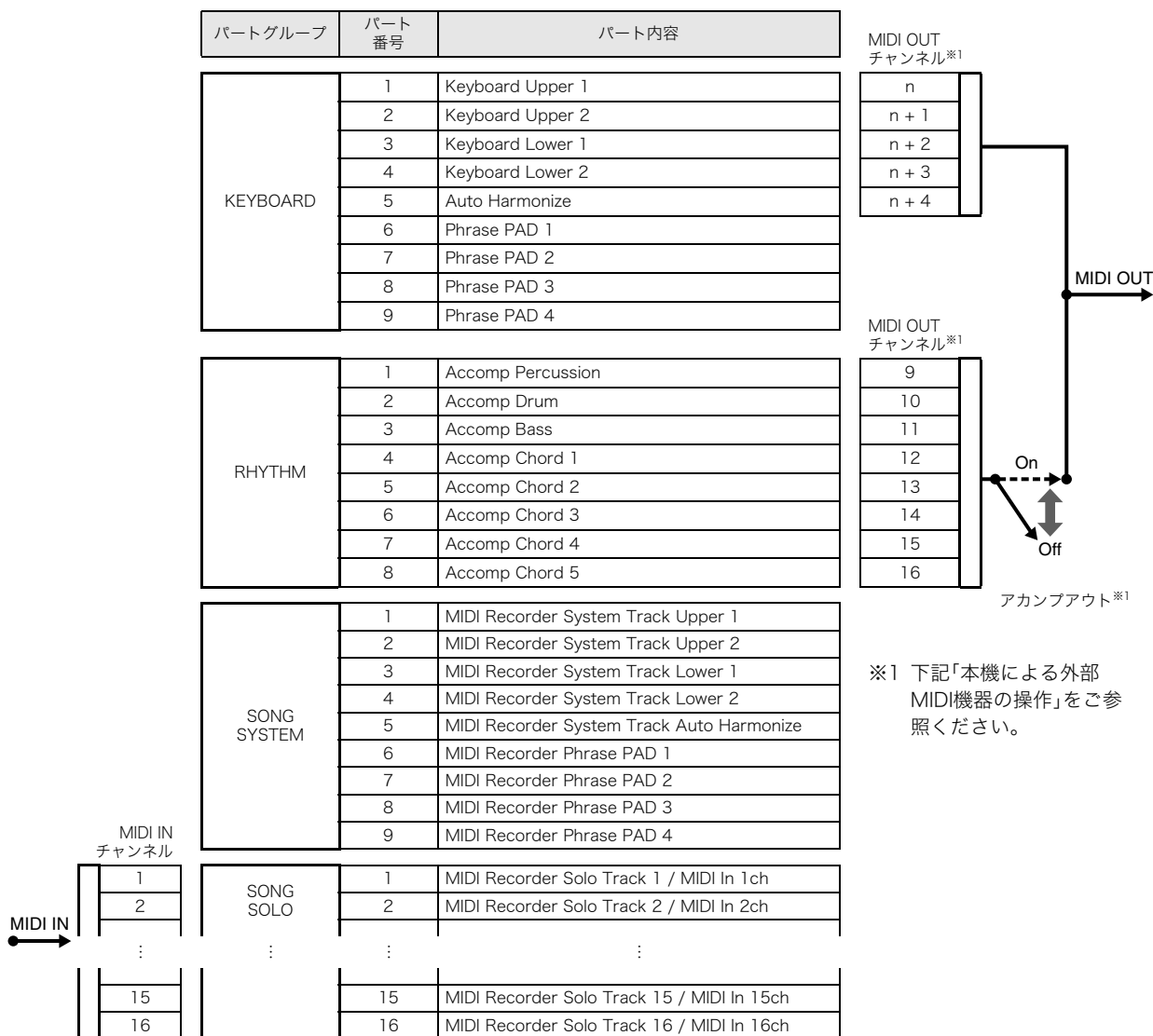
設定値	V	表示
25	2	DZ-V4
26	2	DZ-HA
27	4	EG-TWK
28	3	EG-VEN
29	2	EN-G15
30	1	EN-INV
31	1	EN-BM
32	2	EN-53+DI
33	4	EV-51III
34	3	FD-CHMP
35	3	FD-TWN
36	3	FD-TWRV3
37	2	FU-OD
38	2	GB-LANC
39	3	HK-TM18
40	3	HK-SBL
41	2	KH-STD1
42	3	KR-RV
43	4	LY-IRST
44	3	MB-MK3
45	3	MB-F3+DI
46	1	MB-D5
47	4	MB-DRCT
48	1	MB-TX+.5

設定値	V	表示
49	4	MB-TX+DI
50	4	MS-VS80
51	4	MS-J800
52	2	MS-J2401
53	3	MS-J2000
54	2	MS-J2+MB
55	3	MS-PLX
56	2	MS-J1+DI
57	4	MT-CFT
58	4	OR-O15
59	2	PN-P7
60	3	PR-SE3
61	4	PV-51II
62	4	PV-65MH
63	3	RA-NBK
64	2	RL-J20
65	2	RL-J120
66	2	RV-30
67	4	SA-PS1
68	2	SL-X8
69	2	SL-X9
70	3	SP-1624
71	3	SP-1695
72	3	SU-BGR3

設定値	V	表示
73	2	VH-SP6
74	3	VX-A15
75	2	VX-A15TB
76	3	VX-A30
77	3	VX-A30TB
78	4	YM-DG8
79	2	AC-360
80	2	AP-SV4DI
81	2	EB-C450
82	2	FD-BMNtw
83	2	FD-BMNsV
84	2	FD-BMNBK
85	2	FD-STBAS
86	3	GK-150
87	3	MK-T501
88	3	SW-PB20
89	3	SW-SM50
90	1	RL-CBKB
91	1	LY-3C-AC
92	4	AC-SIM

本機の音源構成とMIDIチャンネル割り当て

本機の音源は、KEYBOARD、RHYTHM、SONG SYSTEM、SONG SOLOという4つのパートグループに分けられています。パートグループ内の各パートに割り当てられた役目は、下図「パート内容」欄のとおりです。



■本機音源の発音～本機による発音、MIDI INによる発音

- 鍵盤演奏による発音は、KEYBOARDパートグループのパート1～5が担当します。フレーズパッドは、KEYBOARDパートグループのパート6～9が担当します。
- 自動伴奏による発音は、RHYTHMパートグループの各パートが担当します。
- ソング再生時(ソングバンクモード)のシステムトラックやフレーズパッドによる発音は、SONG SYSTEMパートグループの各パートが担当します。
- ソング再生時(ソングバンクモード)のソロトラックによる発音、およびMIDI INからの入力メッセージによる発音は、SONG SOLOパートグループの各パートが担当します。

■本機による外部MIDI機器の操作

- 本機の鍵盤演奏データを出力する際のMIDI OUTチャンネルは、「キーボードチャンネル」(107ページ)で指定した値(n)が、Upper 1パートに適用されます。Upper 2、Lower 1、Lower 2、オートハーモナイズ各パートのMIDI OUTチャンネルは、Upper 1パートのMIDI OUTチャンネルとして指定した値nを基準として、それぞれn+1、n+2、n+3、n+4となります。
- 「ア कंपアウト」(107ページ)の設定がオン(On)のときは、自動伴奏各パートの演奏データが、MIDI OUTチャンネルのCH9～CH16に出力されます。

ソングリスト

番号	曲名
世界の曲 (カテゴリー: 01)	
001	聖者の行進
002	アメイジング・グレイス
003	峠の我が家
004	サンタ・ルチア
005	ワルツィング・マチルダ
006	草競馬
ピアノ/クラシック (カテゴリー: 02)	
007	ジュ・トゥ・ヴ
008	ソナタ 作品13 「悲愴」 第2楽章
009	ハバネラ 歌劇「カルメン」より
010	ト長調のメヌエット
011	喜びの歌
012	ジムノペディ 第1番
013	エリーゼのために
014	トルコ行進曲 (モーツァルト)
015	別れの曲
016	エンターティナー
017	楽しき農夫
018	貴婦人の乗馬
019	ソナタ K. 545 第1楽章
020	乙女の祈り
021	小犬のワルツ
022	愛の夢 第3番
023	主よ、人の望みの喜びよ
024	カノン (パッヘルベル)
025	セレナード 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より
026	行進曲 「くるみ割り人形」より
027	亜麻色の髪の乙女
028	ユーモレスク(ドヴォルザーク)
029	トロイメライ
030	ノクターン 作品9の2 (ショパン)
ユーザー録音 (カテゴリー: 03)	
031~040	ユーザー録音 1~10

指定できるコード種一覧

フィンガード1、2で指定できるコード種

C (メジャー)	
Cm (マイナー)	
Cdim (ディミニッシュ)	
Caug (オーギュメント) ^{※3}	
C ^{♯5} (フラットフィフス)	
Csus4 (サスフォー) ^{※3}	
Csus2 (サスツー) ^{※3}	
C7 (セブンス)	
Cm7 (マイナーセブンス) ^{※3}	
CM7 (メジャーセブンス)	
CmM7 (マイナーメジャーセブンス)	
Cdim7 (ディミニッシュセブンス) ^{※3}	
CdimM7 (ディミニッシュメジャーセブンス)	
C7 ^{♯5} (セブンスフラットフィフス) ^{※3}	
Cm7 ^{♯5} (マイナーセブンスフラットフィフス) ^{※3}	
CM7 ^{♯5} (メジャーセブンスフラットフィフス)	
Caug7 (オーギュメントセブンス)	
CaugM7 (オーギュメントメジャーセブンス)	
C7sus4 (セブンスサスフォー)	
C6 (シックス) ^{※1 ※3}	
Cm6 (マイナーシックス) ^{※2 ※3}	
Cadd9 (アドナインス)	

Cmadd9 (マイナー アドナインス)	
C69 (シックス ナインス)※3	
Cm69 (マイナー シックス ナインス)※3	
C7(69) (セブンスフラット ナインス)	
C7(9) (セブンスナインス)	
C7(9#) (セブンスシャープ ナインス)	
C7(9#11) (セブンスシャープ イレブンス)	
C7(613) (セブンスフラット サーティーンス)	
C7(13) (セブンス サーティーンス)	
Cm7(9) (マイナー セブンスナインス)	
Cm7(11) (マイナー セブンス イレブンス)※3	
CM7(9) (メジャー セブンスナインス)	
CmM7(9) (マイナー メジャー セブンスナインス)	
C5 (パワーコード)※4	
C8 (ルートのみ またはオクターブ)※5	

フィンガードオンベース、フルレンジコードで 指定できるコード種

フィンガード1、2で指定できるコード種に加え、下記のコード種が判別できます。

$\frac{C\#}{C}$ ・ $\frac{D}{C}$ ・ $\frac{F}{C}$ ・ $\frac{F\#}{C}$ ・ $\frac{G}{C}$ ・ $\frac{A^b}{C}$ ・ $\frac{A}{C}$ ・ $\frac{B^b}{C}$ ・ $\frac{C\#m}{C}$ ・ $\frac{Dm}{C}$ ・ $\frac{Fm}{C}$
$\frac{F\#m}{C}$ ・ $\frac{Gm}{C}$ ・ $\frac{A^bm}{C}$ ・ $\frac{Am}{C}$ ・ $\frac{B^bm}{C}$ ・ $\frac{Bm}{C}$ ・ $\frac{C\#dim}{C}$ ・ $\frac{Ddim}{C}$
$\frac{Fdim}{C}$ ・ $\frac{F\#dim}{C}$ ・ $\frac{Gdim}{C}$ ・ $\frac{A^bdim}{C}$ ・ $\frac{Adim}{C}$ ・ $\frac{Bdim}{C}$ ・ $\frac{F7}{C}$ ・ $\frac{A^b7}{C}$
$\frac{Fm7}{C}$ ・ $\frac{FM7}{C}$ ・ $\frac{A^bM7}{C}$ ・ $\frac{F\#m7^{b5}}{C}$ ・ $\frac{Gm7}{C}$ ・ $\frac{G7}{C}$ ・ $\frac{A^badd9}{C}$

メモ

- フィンガードオンベースでは、最低音がベース音として判別され、転回形は使えません。
- フルレンジコードでは、最低音とその次の音がある程度離れている場合に、分数コードとして判別されます。
- フルレンジコードではフィンガード1、フィンガード2、フィンガードオンベースと異なり、鍵盤を3つ以上押したときに限りコードが指定されます。

※1 フィンガード2では、Am7として判別されます。

※2 フィンガード2では、Am7^{b5}として判別されます。

※3 転回形では使えない場合があります。

※4 ルートと5度のみのコードです。

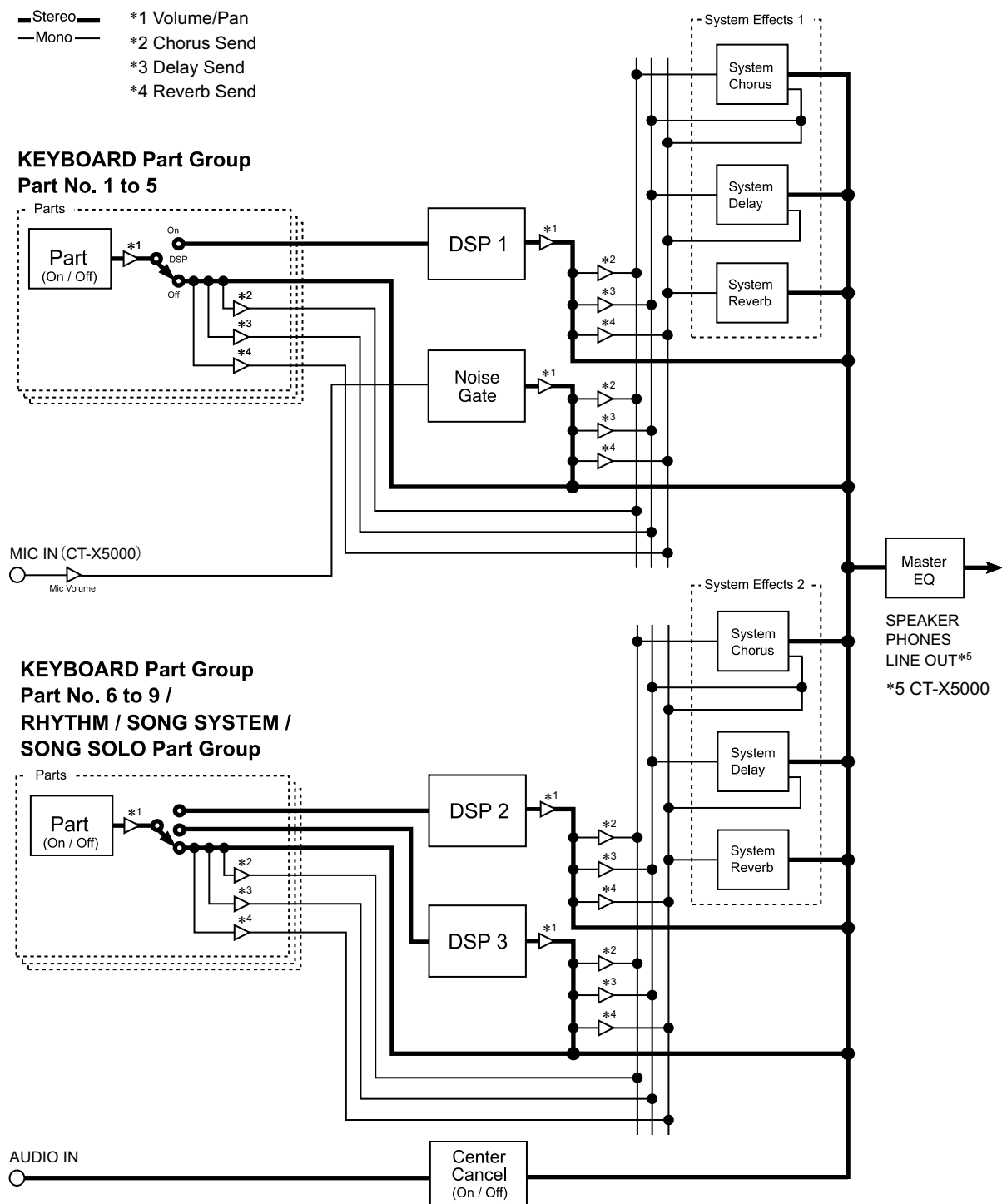
※5 一般的なコードではありませんが、自動伴奏としてルートのみ、またはルートにオクターブを加えた音が欲しいときに使います。

コード例一覧

*1 *2	C	C [♯] /(D [♭])	D	(D [♯])/E [♭]	E	F	F [♯] /(G [♭])	G	(G [♯])/A [♭]	A	(A [♯])/B [♭]	B
M												
m												
dim												
aug												
sus4												
sus2												
7												
m7												
M7												
m7 ^{♯5}												
7 ^{♯5}												
7sus4												
add9												
madd9												
mM7												
dim7												
69												
6												
m6												

*1 根音 (ルート) *2 コードの種類
• スプリットポイントを変更して、コード入力鍵盤の範囲を変えます (18、44ページ)。

ブロックダイアグラム



MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション	送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	1 1 ~ 16	1 ~ 16 1 ~ 16	
モード	モード3 × *****	モード3 × *****	
ノート ナンバー	12 ~ 120 *****	0 ~ 127 0 ~ 127 *1	
ベロシティ	○ 9nH v = 1 ~ 127 ○ 8nH v = 0 ~ 127	○ 9nH v = 1 ~ 127 ○ 8nH v = 0 ~ 127, 9nH v = 0	
アフター タッチ	× ×	× ○	
ピッチベンド	○	○	
コントロール チェンジ	0 1 5 6, 38 7 10 11 64 65 66 67 71	*2 ○○○○○○○○○○○○○○	バンクセレクト モジュレーション ポリタメント・タイム データエン트리・LSB, MSB ポリューム パネ エクスプレッション エーパトリ ポリタメント・オン/オフ ソステート ソフト フィルタ・レゾナンス

モ一ノ1 : オムニ・オン・ポリ	モ一ノ2 : オムニ・オン・モノ	○ : あり
モ一ノ3 : オムニ・オフ・ポリ	モ一ノ4 : オムニ・オフ・モノ	× : なし

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

© MA2607-D Printed in China



CTX3000-JA-1D

© 2018 CASIO COMPUTER CO., LTD.